

青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

# 野木遺跡Ⅱ

— 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

(第3分冊)

1999年3月

青森県教育委員会



# 目 次

## (第1分冊)

序

例 言

目 次

## 第1章 調査の概要 (第1分冊～第3分冊)

第1節 調査に至る経過 .....	1
第2節 調査の要項 .....	3
第3節 調査の方法 .....	4
第4節 調査の経過 .....	4

## 第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置 .....	5
第2節 基本層序 .....	6

## 第3章 東 区

第1節 古代の遺構と出土遺物 .....	16
1 竪穴住居跡 (301H～365H) .....	16

## (第2分冊)

1 竪穴住居跡 (367H～497H) .....	233
---------------------------	-----

## (第3分冊)

2 土坑 .....	521
3 その他の遺構 .....	597
(1) 焼土状遺構 .....	597
(2) 溝状遺構 .....	603
(3) 畝状遺構 .....	621
(4) 掘立柱建物跡 .....	624
第2節 遺構外出土遺物 .....	625
(1) 土師器 .....	625

(2) 須恵器 .....	637
(3) その他の遺物 .....	637

(第4分冊)

第4章 西区

第1節 検出遺構とその出土遺物 .....	657
1 竪穴住居跡 .....	657
2 土坑 .....	703
3 その他の遺構	
(1) 溝状遺構 .....	713
(2) 焼土状遺構 .....	720
第2節 遺構外の出土遺物 .....	723
写真図版 .....	723

(第5分冊)

第5章 自然科学分析

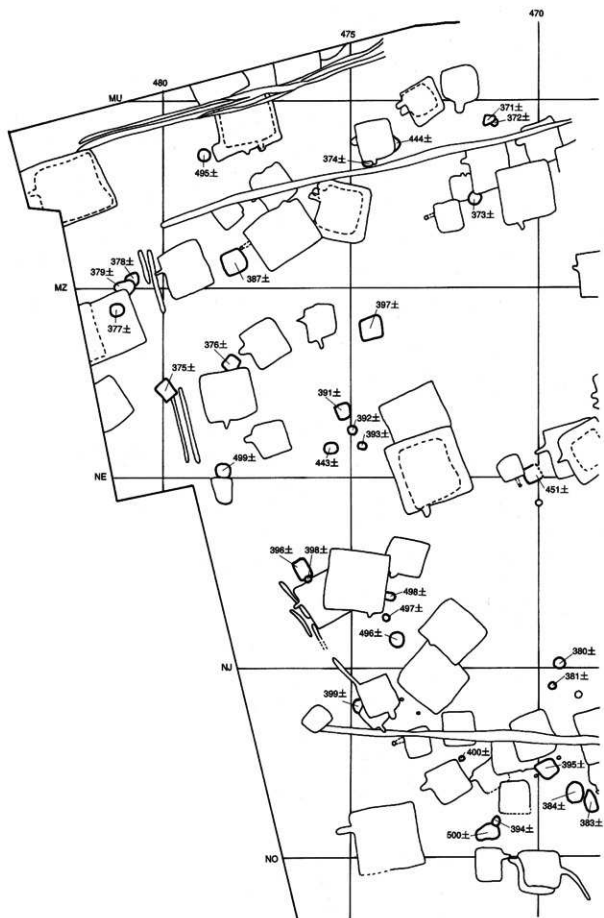
第1節 土師器の蛍光X線分析 .....	745
第2節 放射性炭素年代測定 .....	752
第3節 プラント・オパール分析、花粉分析 .....	758

第6章 まとめ .....

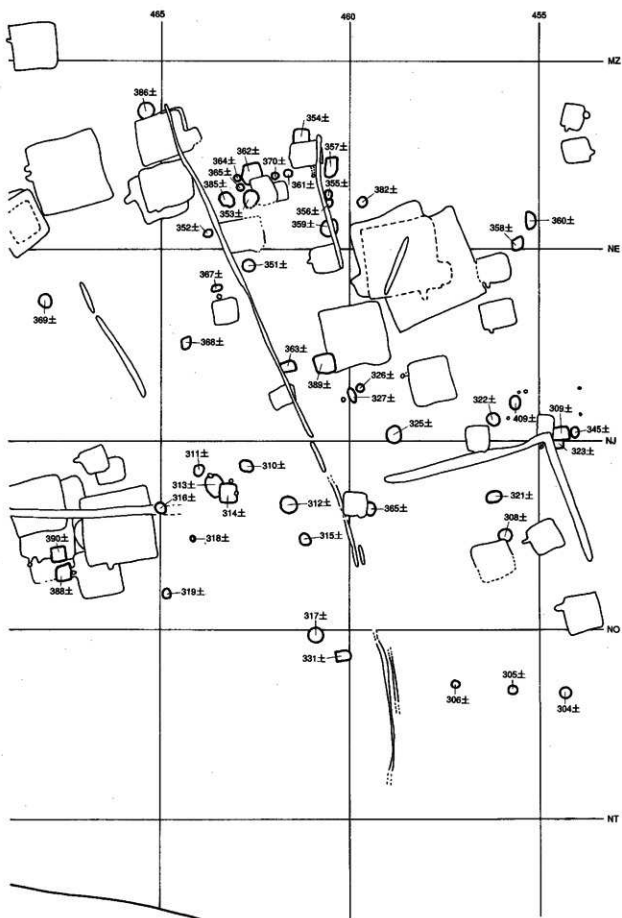
写真図版 .....	779
------------	-----

引用参考文献 .....	1133
--------------	------

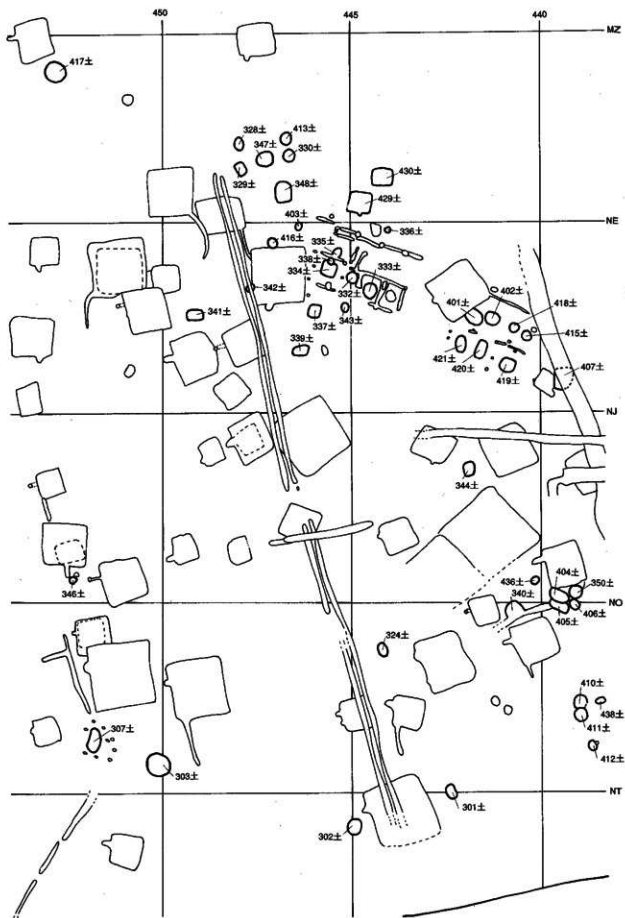
報告書抄録 .....	1135
-------------	------



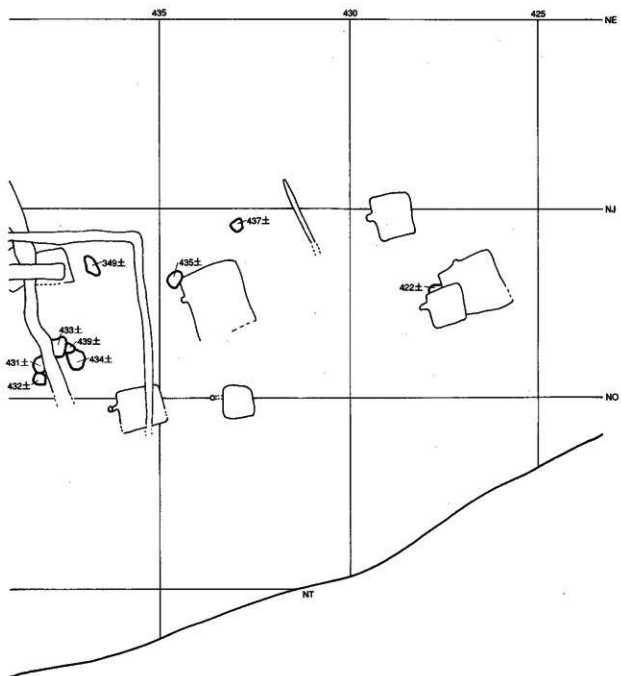
遺構配置図 (土坑 1)



遺構配置図(土坑2)



遺構配置図 (土坑3)



遺構配置図（土坑4）



## 第3章 東区

### 第1節 古代の遺構と出土遺物

#### 2 土坑

##### 第301号土坑 (図431)

〔位置〕 NS・NT-442・443グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m50cm、短軸1m27cmの不整形である。底面は平坦で深さ27cmである。

〔堆積土〕 3層に分層され、2層に炭化物を含んでいる。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(中嶋友文)

##### 第302号土坑 (図431)

〔位置〕 NT・NU-444・445グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m63cm、短軸1m42cmの不整形である。底面には落ち込みがみられ、深さ76cmである。

〔堆積土〕 黒色土を主体として、5層に分層され、1層に焼土ブロックが混入している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

##### 第303号土坑 (図431)

〔位置〕 NS-449・450グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m35cm、短軸1m23cmの円形である。底面は平坦で、深さ18cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

##### 第304号土坑 (図431)

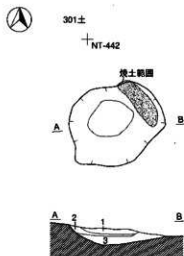
〔位置〕 NP-454グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m19cm、短軸1m16cmの円形である。底面は平坦で、深さ15cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。

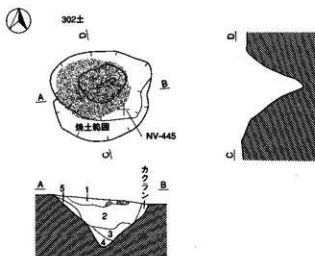
〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)



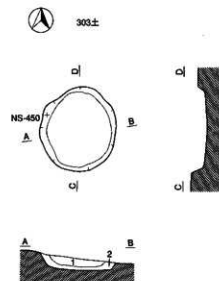
301土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 焼土粒中量  
 第2層 灰褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量



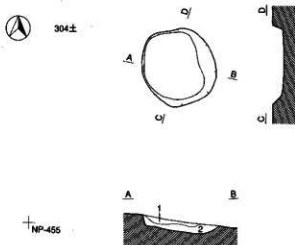
302土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 焼土ブロック・粒中量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 浮石微量 ローム粒微量  
 第3層 黒色土 10YR2/1 褐色土(10YR4/4)混入 浮石微量  
 第4層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・L.B.微量 浮石微量  
 第5層 暗褐色土 10YR3/4



303土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量



304土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量

0 2m

図431 第301号・第302号・第303号・第304号土坑

## 第305号土坑 (図432)

〔位置〕 NP-455グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m5cm、短軸96cmの円形である。底面は平坦で、南側で落ち込みがみられる。深さは中央部で17cmある。

〔堆積土〕 黒色土を主体とする3層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

## 第306号土坑 (図432・図463)

〔位置〕 NP-457グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m6cm、短軸99cmの円形である。深さは26cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、4層は炭化物を含んでいる。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

## 第307号土坑 (図432・図463)

〔位置〕 NR-451グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m73cm、短軸1m24cmの楕円形である。深さは43cmで、底面東側に落ち込みがみられる。

〔堆積土〕 11層に分層され、覆土にT<sub>0-a</sub>火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏や甕のほかには礫が出土している。

(齋藤由美子)

## 第308号土坑 (図432)

〔位置〕 NL-455・456グリッドに位置する。

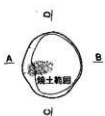
〔平面形・規模〕 長軸1m47cm、短軸1m24cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは11cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体として、2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

305土



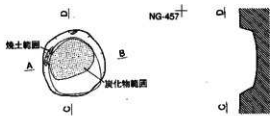
NG-456+



305土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4

306土



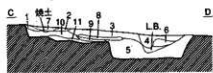
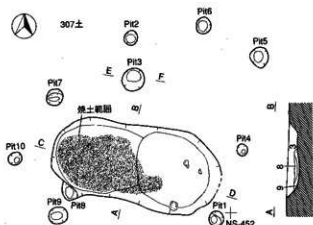
NG-457+



306土

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒多量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・炭化物中量

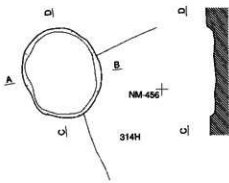
307土



307土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 T o - a 混入 炭化物・焼土粒少量
- 第2層 黒色土 10YR2/1 T o - a 混入 ローム粒・炭化物少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒多量 炭化物中量 ローム粒少量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第5層 灰色土 10YR5/4 ローム粒少量
- 第6層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・炭化物少量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 T o - a 混入 炭化物・焼土粒中量 ローム粒少量
- 第8層 赤褐色土 5YR4/6 焼土粒多量 炭化物少量
- 第9層 褐色土 10YR4/6 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第10層 暗褐色土 10YR6/6 粘土質土 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第11層 灰色土 10YR4/3 粘土質土 炭化物・焼土粒少量

308土



308土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム混入

0 2m

図432 第305号・第306号・第307号・第308号土坑

## 第309号土坑 (図433・図463)

〔位置〕 NS・NT-454グリッドに位置し、第323号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m4cm、短軸1m3cmの方形である。底面は平坦で、深さは14cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土の層で、4層に分かれる。2層にT<sub>0</sub>-a火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器坏などが、出土している。

〔小 結〕 覆土中に炭化材を多く含むことと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

## 第310号土坑 (図433)

〔位置〕 NJ-462グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m43cm、短軸1m17cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは39cmである。

〔堆積土〕 5層に分層され、黒褐色土と褐色土が互層になって堆積している。覆土に火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

## 第311号土坑 (図433)

〔位置〕 NJ-463・464グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m6cm、短軸97cmの不整形である。底面は平坦で、深さは33cmである。

〔堆積土〕 4層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片が出土している。

(中嶋友文)

## 第312号土坑 (図433)

〔位置〕 NK-461グリッドに位置する。

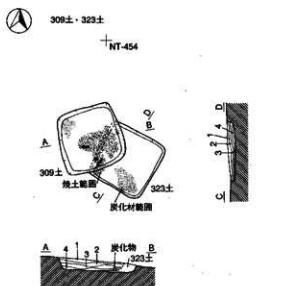
〔平面形・規模〕 長軸1m78cm、短軸1m58cmの楕円形である。深さは46cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、黒色土と褐色土が互層になって堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片が出土している。

〔小 結〕 覆土中に炭化材を多く含むことと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

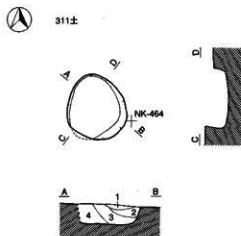


## 309土

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2  
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 T o - a 混入 □-△粒中量 炭化物少量  
 第3層 黑色土 10YR1.7/1 焼土粒少量  
 第4層 黑色土 10YR2/1 炭化物・焼土粒少量

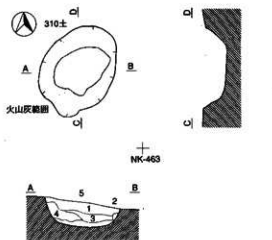
## 323土

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2  
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 焼土粒少量 炭化物粒中量  
 第3層 黑色土 10YR1.7/1  
 第4層 黑色土 10YR2/1



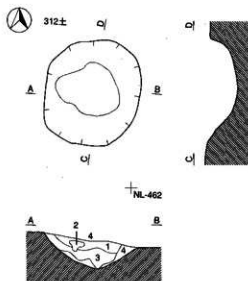
## 311土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量  
 第3層 黑褐色土 10YR2/2  
 第4層 黑褐色土 10YR3/2 褐色土(10YR4/4)混入 炭化物微量



## 310土

- 第1層 黑色土 10YR2/1 不明火山灰混入  
 第2層 黑褐色土 10YR3/2  
 第3層 黑色土 10YR2/1 褐色土(10YR4/4)混入  
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 黄褐色土(10YR5/5)混入  
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR3/4)混入



## 312土

- 第1層 黑色土 7.5YR1.7/1 暗褐色土(10YR3/3)混入  
 第2層 褐色土 10YR4/6 L. B.  
 第3層 黑色土 7.5YR1.7/1  
 第4層 褐色土 10YR4/6

0 2m

図433 第309号・第310号・第311号・第312号・第323号土坑

## 第313号土坑 (図434)

〔位置〕 NK-463グリッドに位置する。第314号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸2m45cm、短軸1m90cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは27cmである。底面には深さ18cm、17cm、7cmの3つのピットがある。

〔堆積土〕 10層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

## 第314号土坑 (図434・図463)

〔位置〕 NK-463グリッドに位置する。第313号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m94cm、短軸1m70cmの方形である。深さは36cmである。底面の一部に堅く締った部分が見られる。

〔堆積土〕 3層に分層され、1層にT<sub>0-a</sub>火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

〔小 結〕 遺構外のピット5 (45cm) とピット8 (38cm) は、本土坑に伴う可能性が考えられる。

(中嶋友文)

## 第315号土坑 (図435・図463)

〔位置〕 NL-461グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m11cm、短軸1m10cmの円形である。底面は平坦で、深さは33cmである。

〔堆積土〕 5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

## 第316号土坑 (図435)

〔位置〕 NK-464グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸98cm、短軸95cmの円形である。底面は平坦で、深さは38cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土を主体として、5層に分層される。5層にT<sub>0-a</sub>火山灰がブロック状に堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

## 第317号土坑 (図435)

〔位置〕 NO-460・461グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m62cm、短軸1m50cmの不整形である。底面はやや起伏があり、深さは中央部で45cmある。

〔堆積土〕 6層に分層される。2層と3層にT<sub>0-a</sub>火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

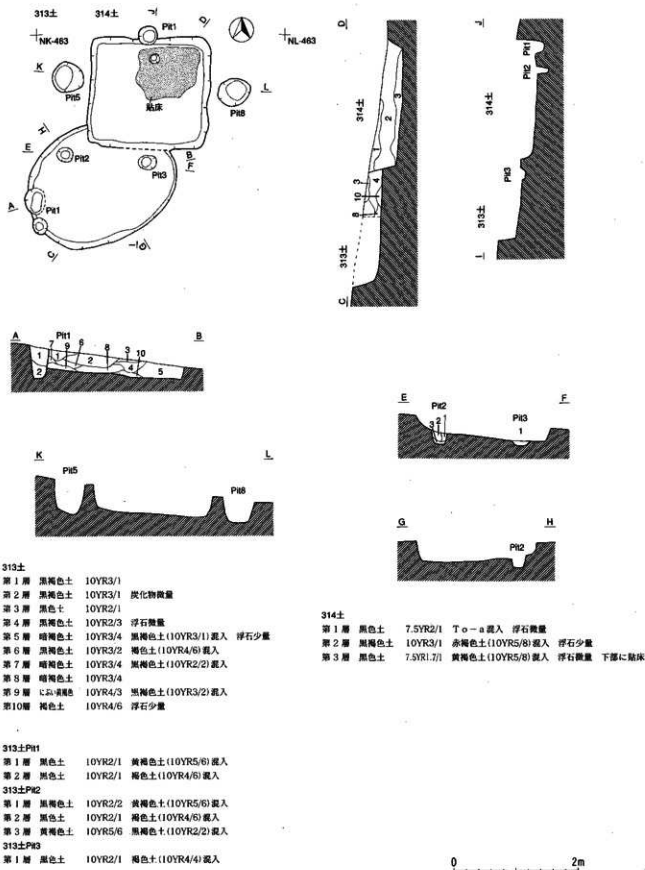
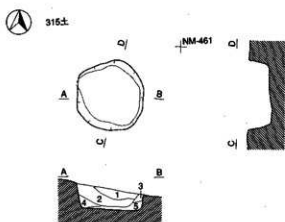


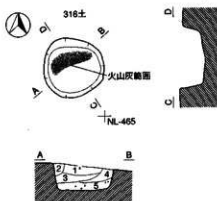
図434 第313号・第314号土坑





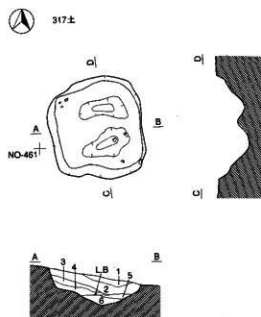
## 315土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 褐色土(10YR4/4)混入 炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 褐色土(10YR4/4)混入 浮石・炭化物微量  
 第3層 山崎粘土 10YR4/3  
 第4層 黒褐色土 10YR2/1 暗褐色土(10YR3/3)混入  
 第5層 褐色土 10YR4/4 浮石微量



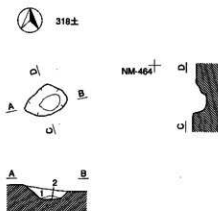
## 316土

- 第1層 褐色土 10YR4/4 T o - a混入  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 褐色土(10YR4/4)混入  
 第3層 黒色土 10YR2/1  
 第4層 黒褐色土 10YR2/1 褐色土(10YR4/4)混入 炭化物微量  
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 T o - a混入 炭化物微量



## 317土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 褐色土(10YR4/6)混入  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 T o - a混入 黒色土(10YR2/1)混入 炭化物微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 T o - a混入 褐色土(10YR4/4)混入 炭化物少量  
 第4層 黒色土 10YR2/1 明褐色土(7.5YR5/6)混入  
 第5層 黒色土 10YR2/1 明褐色土(7.5YR5/6)混入  
 第6層 褐色土 10YR4/6 黒色土(10YR2/1)混入



## 318土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 浮石・炭化物微量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量

0 2m

図435 第315号・第316号・第317号・第318号土坑

第318号土坑 (図435)

[位置] NL-464グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸71cm、短軸46cmの不整形である。底面は平坦で、深さは17cmである。

[堆積土] 2層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第319号土坑 (図436)

[位置] NM・NN-464グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長径91cm、短径78cmの楕円形である。底面はやや起伏があり、深さは34cmである。

[堆積土] 4層に分層される。黒褐色土と暗褐色土との互層である。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第321号土坑 (図436)

[位置] NK-455・456グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m53cm、短軸1m7cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは19cmである。

[堆積土] 2層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第322号土坑 (図436・464)

[位置] NI・NJ-454グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m22cm、短軸1m5cmのほぼ楕円形である。底面は平坦で、深さは24cmである。

[堆積土] 3層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

[小 結] 覆土中に炭化物を多く含むことと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

## 第323号土坑 (図323)

[位置] NI-456グリッドに位置する。第309号土坑と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 一辺98cmの方形である。底面は平坦で、深さは13cmである。

[堆積土] 4層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

[小結] 覆土中に炭化物を多く含むこと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

## 第324号土坑 (図436)

[位置] NQ-443グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m27cm、短軸80cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは11cmである。

[堆積土] 黒褐色土の層のみである。

[出土遺物] 確認面から、礫が出土している。

(中嶋友文)

## 第325号土坑 (図437・図464)

[位置] NI・NJ-458グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m67cm、短軸1m62cmの円形である。底面はやや起伏があり、深さは59cmである。

[堆積土] 16層に分層される。確認面にB-Tm火山灰が覆土中にT-o-a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

## 第326号土坑 (図437)

[位置] NH-459グリッドに位置する。

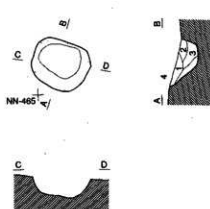
[平面形・規模] 長軸1m7cm、短軸83cmの楕円形である。底面は中央部に落ち込みがあり、深さは57cmである。

[堆積土] 5層に分層され、すべての層に炭化物を含む。

[出土遺物] 出土遺物はなかった。

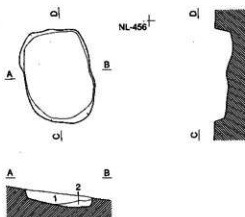
(中嶋友文)

319土



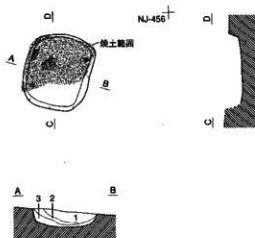
- 319土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 におよぶ黄褐色土(10YR4/3)混入 炭化物微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(10YR4/3)混入 炭化物微量  
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/6)混入 炭化物微量

321土



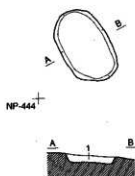
- 321土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・粘土粒微量  
 第2層 褐色土 10YR4/4

322土



- 322土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量  
 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム層

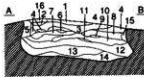
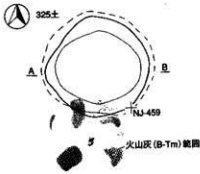
324土



- 324土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 炭化物少量

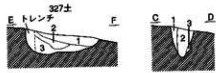
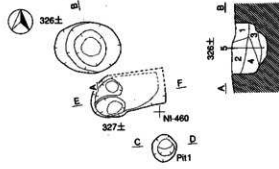
0 2m

図436 第319号・第321号・第322号・第324号土坑



325土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 B-Tm混入 焼土粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 炭化物少量
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 T o-a混入 焼土粒少量
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第5層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒中量
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 T o-a混入
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 T o-a混入
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 T o-a混入
- 第9層 黒色土 10YR2/1 T o-a混入
- 第10層 黒褐色土 10YR3/1 T o-a混入
- 第11層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量
- 第12層 黒褐色土 10YR2/2 T o-a混入
- 第13層 黒色土 10YR1.7/1 T o-a混入
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2
- 第15層 じぶ噴射物 10YR4/8
- 第16層 暗褐色土 10YR3/4 B-Tm混入 炭化物・焼土粒少量



326土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量

326土P11

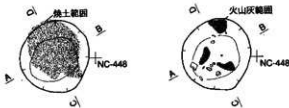
- 第1層 じぶ噴射物 10YR4/6 L.B.微量 炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量 炭化物・焼土粒微量
- 第3層 明黄褐色土 10YR6/6

327土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.多量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.少量 炭化物・焼土粒微量

328土

遺物出土状況



328土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 不明火山灰混入
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 不明火山灰混入 焼土粒多量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 不明火山灰混入 ローム粒・焼土粒少量
- 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム層

0 2m

図437 第325号・第326号・第327号・第328号土坑

第327号土坑 (図437・図464)

[位置] NH-450グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m21cm、短軸67cmの不整形である。底面は平坦で、深さは33cmである。

[堆積土] 3層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

第328号土坑 (図437・図464)

[位置] NB-447・448グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m15cm、短軸1m10cmの円形である。底面は平坦で、深さは41cmである。

[堆積土] 4層に分層される。2層に焼土ブロックを多量に含んでいる。覆土に不明の火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第329号土坑 (図438・図464)

[位置] NC-447・448グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m25cm、短軸1m21cmの方形である。底面は平坦で、深さは52cmである。

[堆積土] 4層に分層される。3層に炭化物を含んでいる。覆土に不明の火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片と礫が出土している。

(中嶋友文)

第330号土坑 (図438・図465)

[位置] NC-446グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m43cm、短軸1m20cmの楕円形である。底面はやや起伏があり、深さは33cmである。

[堆積土] 4層に分層される。覆土に不明の火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片と礫が出土している。

(中嶋友文)

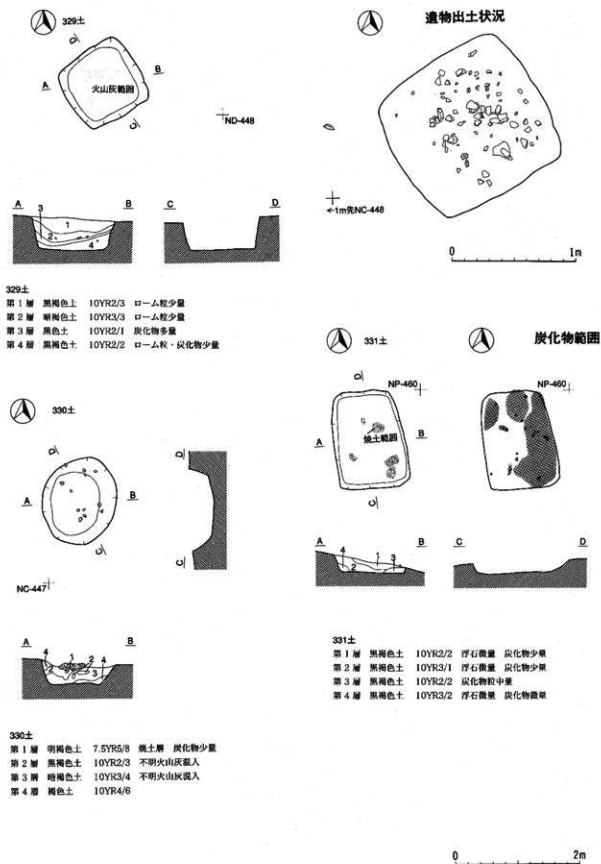


図438 第329号・第330号・第331号土坑

第331号土坑 (図438)

〔位置〕 NO-460グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m57cm、短軸1m15cmの方形である。底面は平坦で、深さは18cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とした4層に分層される。1層に炭化物をを含んでいる。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

〔小 結〕 形態及び底面の一部が、火熱により焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

第332号土坑 (図439)

〔位置〕 NF-444・445グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m35cm、短軸1m17cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは44cmである。

〔堆積土〕 6層に分層される。覆土にT o - a 火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第333号土坑 (図439・図465)

〔位置〕 NF-444グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 長軸1m59cm、短軸1m28cmの楕円形である。深さは34cmである。

〔堆積土〕 4層に分層される。覆土にT o - a 火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

第334号土坑 (図439・図465)

〔位置〕 NE・NF-446グリッドに位置する。第338号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸1m82cm、短軸1m68cmの方形である。底面は平坦で、深さは34cmで、壁際に周溝(10~20cm)がみられる。

〔堆積土〕 10層に分層される。覆土にT o - a 火山灰が堆積している。ローム粒を含む。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

第335号土坑 (図440)

〔位置〕 NE-445グリッドに位置する。

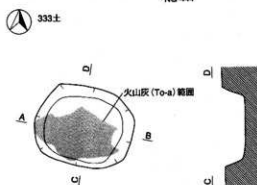
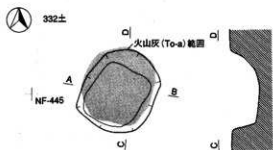
〔平面形・規模〕 長軸1m2cm、短軸88cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは21cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)



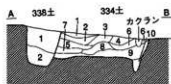
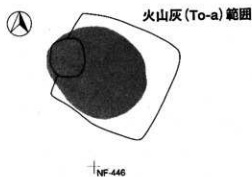
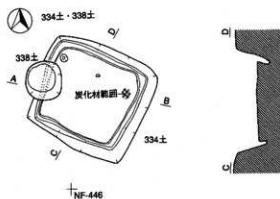


332土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 ローム粒少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 To-a混入 褐色土(10YR4/4)混入
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 To-a混入
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 To-a混入
- 第6層 褐色土 10YR4/4 黒褐色土(10YR2/2)混入

333土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 To-a混入
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 暗褐色土(10YR3/4)混入
- 第3層 黒色土 7.5YR2/1 火山灰混入 褐色土(10YR4/6)混入
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR4/6)混入



334土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物微量
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒微量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 炭化物微量
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量
- 第6層 灰褐色土 10YR4/2 ローム粒少量
- 第7層 褐色土 10YR4/4 黒褐色土(10YR2/1)混入
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物微量
- 第10層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量

338土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 黄褐色土(10YR5/8)混入
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 黄褐色土(10YR5/8)混入



図439 第332号・第333号・第334号・第338号土坑

第336号土坑 (図440)

[位置] NE-443・444グリッドに位置する。

[平面形・規模] 直径78cmの円形である。底面は起伏があり、深さは24cmである。

[堆積土] 4層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第337号土坑 (図440・図465)

[位置] NG-445・446グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m38cm、短軸1m36cmの方形である。底面はやや起伏があり、深さは41cmである。底面に深さ10cmの落ち込みがみられる。

[堆積土] 3層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第338号土坑 (図439)

[位置] NE-446グリッドに位置する。第334号土坑と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸63cm、短軸58cmのほぼ円形である。底面は平坦で、深さは58cmである。

[堆積土] 2層に分層される。覆土にT〇-a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第339号土坑 (図440)

[位置] NH-446グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m66cm、短軸1m10cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは56cmである。

[堆積土] 5層に分層される。すべての層にT〇-a火山灰がブロック状に混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第340号土坑 (図441・図465)

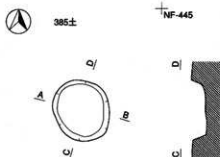
[位置] NO-440グリッドに位置する。第318号溝と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸1m95cm、短軸1m12cmの不整形である。底面は平坦で、深さ40cmである。

[堆積土] 7層に分層される。黒褐色土と暗褐色土が互層になっている。

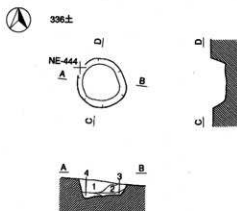
[出土遺物] 覆土から土師器と砥石が出土している。

(中嶋友文)



385土

NF-445



396土

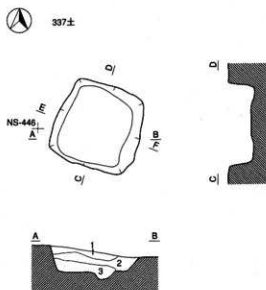
NE-444

335土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石・炭化物微量  
第2層 黒褐色土 10YR2/2 褐色土(10YR4/4)混入 浮石微量

396土

- 第1層 暗褐色土 10YR2/3 炭化物微量  
第2層 黒褐色土 7.5YR3/2  
第3層 暗褐色土 10YR3/4  
第4層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)微量混入

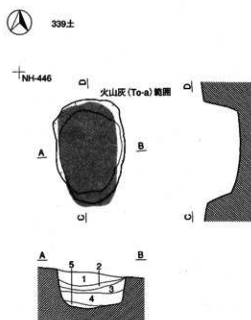


337土

NS-446

337土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 黄褐色土(10YR5/8)混入  
第2層 黒色土 10YR2/1 浮石・炭化物微量  
第3層 黒褐色土 10YR2/2



339土

NH-446

火山灰(To-a)混入

339土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 ローム粒・炭化物微量  
第2層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 ローム粒微量  
第3層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 ローム粒中量  
第4層 黒褐色土 10YR2/2 To-a混入 ローム粒多量  
第5層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 ローム粒微量

0 2m

図440 第335号・第336号・第337号・第339号土坑

第341号土坑 (図441)

〔位置〕 NG-448・449グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m60cm、短軸1m14cmである。底面は平坦で、深さは14cm程である。

〔堆積土〕 2層に分層され、1層に炭化材が含まれる。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

〔小 結〕 形態及び底面の一部が、火熱により焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

第342号土坑 (図441)

〔位置〕 NF-447グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸93cm、短軸91cmの円形である。深さは22cmである。

〔堆積土〕 黒色土の層のみである。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第343号土坑 (図441)

〔位置〕 NG-445グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 直径95cmの円形である。底面は平坦で、深さは24cmである。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第344号土坑 (図442)

〔位置〕 NK-441・442グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m16cm、短軸1m12cmの円形である。深さは1m2cmである。断面はフラスコ状を呈する。

〔堆積土〕 15層に分層される。覆土に不明の火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第345号土坑 (図442)

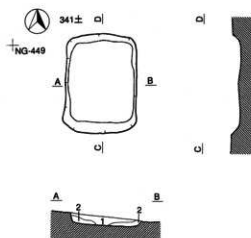
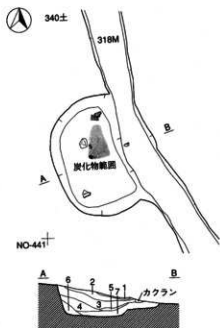
〔位置〕 NI-453・454グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m、短軸98cmの円形である。底面は平坦で、深さは27cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。覆土にはTo-a火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

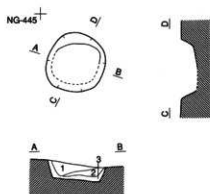
(中嶋友文)



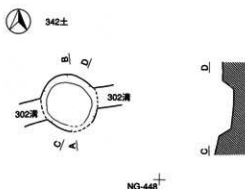
341土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭土粒中量 炭化物微量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 炭化物 小礫少量

340土

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 炭化物・炭土粒少量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)混入 ローム粒中量 炭化物・炭土粒少量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量  
 第4層 黒褐色土 10YR3/2 黒色土(10YR2/1)混入 ローム粒・炭化物・炭土粒少量  
 第5層 黒褐色土 7.5YR3/2 赤褐色土(5YR4/6)混入 ローム粒・炭化物少量  
 第6層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒少量  
 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭土粒少量



343土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B混入  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B混入  
 第3層 褐色土 10YR4/6 黒褐色土(10YR2/3)混入

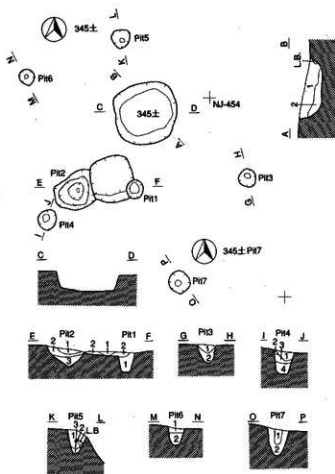


342土

第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量



図441 第340号・第341号・第342号・第343号土坑



## 345土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 To-a 混入 ロ-ム粒少量  
第2層 暗褐色土 10YR3/4 ロ-ム粒、炭化物少量

## 345土PI1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒多量 ロ-ム粒、炭化物少量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロ-ム粒中量 炭化物、焼土粒少量

## 345土PI2

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロ-ム粒少量  
第2層 暗灰色土 10YR4/1 ロ-ム粒、炭化物少量  
第3層 褐色土 10YR4/4 ロ-ム粒、炭化物少量

## 345土PI3

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒、炭化物微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロ-ム粒少量

## 345土PI4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロ-ム粒少量 炭化物微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロ-ム粒微量  
第3層 褐色土 10YR4/4 ロ-ム粒多量  
第4層 暗褐色土 10YR3/4 ロ-ム粒少量

## 345土PI5

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒、炭化物、焼土粒微量  
第2層 褐色土 10YR4/4 赤褐色土(5YR4/6)混入 焼土粒多量  
第3層 暗褐色土 10YR3/4 ロ-ム粒、炭化物微量

## 345土PI6

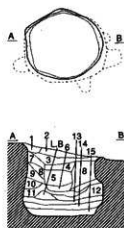
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒、炭化物微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロ-ム粒少量

## 345土PI7

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ロ-ム粒、炭化物少量  
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒、炭化物微量

## 344土

NK-442+

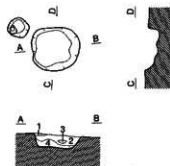


## 344土

- 第1層 灰褐色土 10YR4/2 不明火山灰混入  
第2層 黒褐色土 10YR2/2  
第3層 黒色土 10YR1/7 黒褐色土(10YR3/2)混入  
第4層 黒色土 7.5YR1/7  
第5層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒少量  
第6層 黒色土 7.5YR2/1  
第7層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒中量  
第8層 黒褐色土 10YR2/2 ロ-ム粒少量 焼土粒微量  
第9層 黒褐色土 10YR3/1 ロ-ム粒中量  
第10層 黒褐色土 10YR3/2 ロ-ム粒多量  
第11層 黒色土 10YR2/1  
第12層 黒色土 7.5YR2/1  
第13層 暗褐色土 7.5YR2/2 暗褐色土(7.5YR3/3)混入 炭化物微量  
第14層 暗褐色土 7.5YR2/3  
第15層 黒褐色土 7.5YR2/2 ロ-ム粒中量

+ NN-452

## 346土



## 346土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 B-Tm混入 褐色土(10YR4/6)混入  
第2層 暗褐色土 10YR2/2 褐色土(10YR4/6)混入  
第3層 黄褐色土 10YR5/6 暗赤褐色土(5YR3/6)混入  
第4層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(10YR4/6)混入

0 2m

図442 第344号・第345号・第346号土坑

## 第346号土坑 (図442)

〔位置〕 NN-452グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸77cm、短軸69cmの円形である。底面は平坦で、深さは19cmである。

〔堆積土〕 4層に分層される。覆土にはB-Tm火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片が出土している。

(中嶋友文)

## 第347号土坑 (図443・図465)

〔位置〕 NC-447グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m94cm、短軸1m55cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは58cmである。

〔堆積土〕 6層に分層される。覆土には不明火山灰が堆積している。6層は焼土層である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

## 第348号土坑 (図443)

〔位置〕 NC・ND-446グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m5cm、短軸1m33cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは46cmである。

〔堆積土〕 5層に分層される。覆土にTora火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 覆土中に炭化材を多く含むことと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

## 第349号土坑 (図443・図466)

〔位置〕 NK-436・437グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m11cm、短軸1m13cmの不整形で、底面はやや起伏がみられ、深さは36cmである。

〔堆積土〕 7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と礫石器が出土している。

(齋藤由美子)

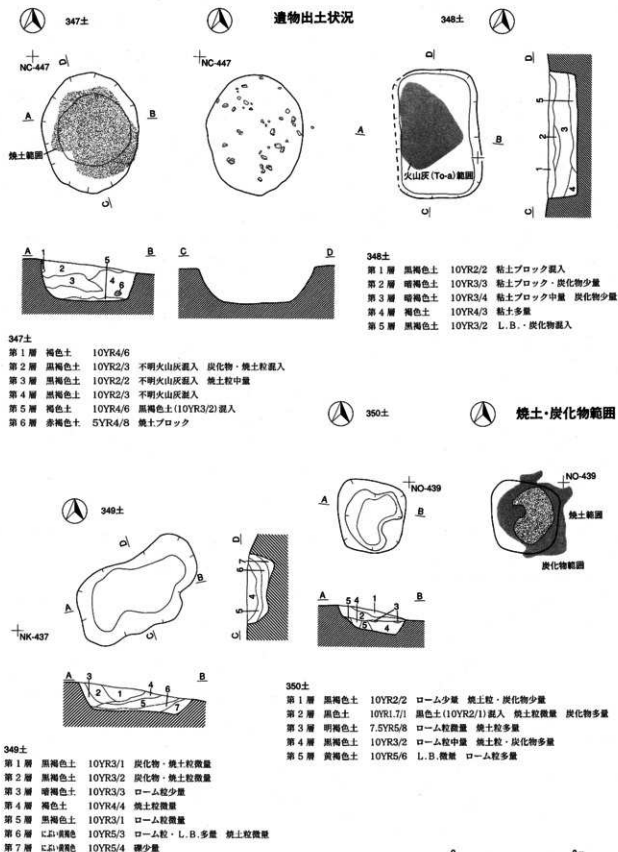


図443 第347号・第348号・第349号・第350号土坑



## 第350号土坑 (図443・図466)

- [位置] NN-439グリッドに位置する。第406号土坑と重複し、本土坑が新しい。  
 [平面形・規模] 長軸1m20cm、短軸1m4cmの不整形である。底面は平坦で、深さは33cmである。  
 [堆積土] 5層に分層され、焼土粒、炭化物  
 [出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

## 第351号土坑 (図444)

- [位置] NE-462グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸1m34cm、短軸1m30cmの円形である。深さは51cmである。中央に径50cmの落ち込みをもつ。  
 [堆積土] 7層に分層され、覆土にB-Tm火山灰が堆積している。堆積土全体にローム粒を多く含む。  
 [出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

(田中珠美)

## 第352号土坑 (図444)

- [位置] ND-463グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸81cm、短軸62cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは63cmである。  
 [堆積土] 8層に分層される。覆土にB-Tm火山灰が堆積する。  
 [出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第353号土坑 (図444)

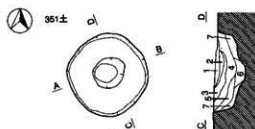
- [位置] ND-463グリッドに位置する。第362号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。  
 [平面形・規模] 長軸1m77cm、短軸1m45cmの不整形である。底面は平坦で、深さは33cmである。  
 [堆積土] 3層に分層される。  
 [出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

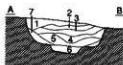
## 第354号土坑 (図444)

- [位置] NA・NB-461グリッドに位置し、第360号・第363号竪穴住居跡と重複し、本土坑が最も古い。  
 [平面形・規模] 長軸1m77cm、短軸1m12cmの方形で、深さは36cmである。  
 [堆積土] 3層に分層され、覆土にT-o-a火山灰が堆積している。  
 [出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)



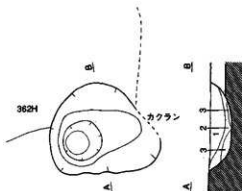
NE-463



351土

- 第1層 C赤褐色土 10YR4/3 粘土粒少量  
 第2層 C赤褐色土 10YR4/3 粘土粒中量  
 第3層 C赤褐色土 10YR4/3 粘土粒多量  
 第4層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量  
 第5層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量 炭化物少量  
 第6層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒中量  
 第7層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量

NE 353土  
 NC-462



353土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量 焼土粒・炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量



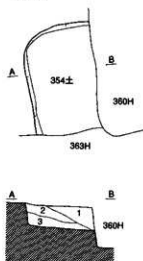
NE-464



352土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 にごい黄褐色土混入  
 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土多量  
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 B-Tm混入 焼土微量 炭粒  
 第4層 黒褐色土 10YR3/2 焼土中量  
 第5層 C赤褐色土 10YR4/3 ローム粒多量  
 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 焼土微量  
 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量  
 第8層 褐色土 7.5YR4/6 ローム粒多量

NE 354土  
 NB-461



354土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 粘土粒少量  
 第2層 黒色土 10YR1.7/1 T o - a混入  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 粘土粒中量

0 2m

図444 第351号・第352号・第353号・第354号土坑

## 第355号土坑 (図445)

〔位置〕 NC-460グリッドに位置する。第356号土坑と第315号溝と重複し、第315号溝より本土坑が古い。第356号土坑との新旧関係はつかめなかった。

〔平面形・規模〕 長軸96cm、短軸83cmの楕円形である。深さは59cmである。底面中央が径25cm、深さ20cmの円形に掘り込まれている。底面は平坦である。

〔堆積土〕 4層に分層され、自然堆積である。堆積土にはローム粒が多く混入している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第356号土坑 (図445)

〔位置〕 NC-460グリッドに位置する。第356号土坑と第315号溝と重複し、第315号溝より本土坑が古い。第355号土坑との新旧関係はつかめなかった。

〔平面形・規模〕 長軸93cm、短軸80cmの不整形である。底面は平坦で、深さは31cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、自然堆積である。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第357号土坑 (図445・図466)

〔位置〕 NB・NC-460グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m12cm、短軸1m62cmの不整形で、深さは51cmである。底面に落ち込みがみられる。

〔堆積土〕 5層に分層され、黒褐色土と粘土が多量に混入する明褐色土が交互に堆積し、人為的堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(田中珠美)

## 第358号土坑 (図445)

〔位置〕 ND・NE-455グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m38cm、短軸1m29cmの方形で、底面は平坦で、深さ5cm程の落ち込みが多数みられる。深さは16cmである。

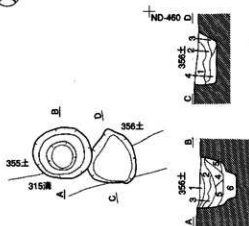
〔堆積土〕 暗褐色土を主体として、7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(田中珠美)



355土・356土

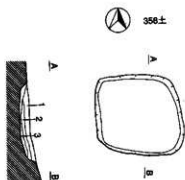


355土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム多量  
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物微量  
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 炭化物中量  
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量  
 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量

356土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム微量 炭土微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム微量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量  
 第4層 黒褐色土 10YR3/2 L. B. 多量

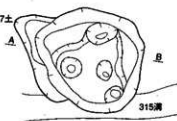


358土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量 炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量  
 第3層 黒色土 10YR2/2 ローム粒微量



357土

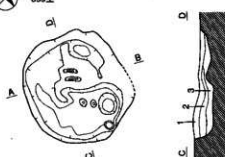


357土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入  
 第3層 明褐色土 7.5YR5/6  
 第4層 明褐色土 7.5YR5/6  
 第5層 灰色土 10YR5/4



359土



ND-461



359土

- 第1層 灰褐色土 10YR4/2 黄褐色土(10YR5/6)混入  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 褐色土(10YR4/4)混入  
 第3層 黒褐色土 10YR3/1 褐色土(10YR4/4)混入  
 第4層 黒褐色土 10YR3/1 黄褐色土(10YR5/6)混入

0 2m

図445 第355号・第356号・第357号・第358号・第359号土坑

## 第359号土坑 (図445)

[位置] ND-460グリッドに位置する。第315溝と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸1m84cm、短軸1m63cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは23cmである。

[堆積土] 4層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(田中珠美)

## 第360号土坑 (図446)

[位置] ND-455グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m60cm、短軸1m19cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは42cmである。中央部が東西1m40cm、南北80cm、深さ20cmの長方形に掘り込まれている。

[堆積土] 4層に分層され、2層は炭化物を多量に含む。壁面にはわずかであるが、焼土がみとめられた。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第361号土坑 (図446・図466)

[位置] NB・NC-461グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸73cm、短軸67cmの不整形で、底面は平坦で、深さは31cmである。

[堆積土] 3層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(田中珠美)

## 第362号土坑 (図446・図466)

[位置] NC・ND-462グリッドに位置する。第362号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸2m13cm、短軸1m74cmの方形である。底面は平坦で、深さは20cmである。

[堆積土] 5層に分層される。覆土にTora火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(田中珠美)

## 第363号土坑 (図446・図466)

[位置] NG・NH-461グリッドに位置する。第310溝と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸1m63cm、短軸1m22cmの方形である。底面は平坦で、深さは34cmである。

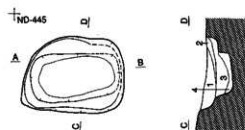
[堆積土] 4層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片のほか砥石が出土している。

[小 結] 形態及び底面の一部が焼けていることから、焼成遺構と考えられる。

(田中珠美)

360±



360±

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量 炭化物多量  
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量  
 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量

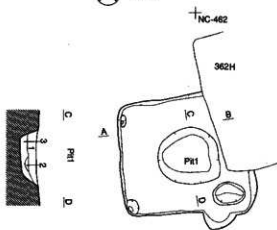
361±



361±

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量 焼土粒・炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 焼土粒・炭化物微量  
 第3層 褐色土 10YR4/4 焼土粒・炭化物微量

362±



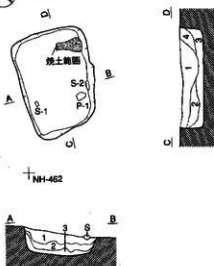
362±

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 B-Tm混入 ローム粒微量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量

362±Pit1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒微量  
 第2層 褐色土 10YR4/6 T o - a混入 粘土粒微量  
 第3層 褐色土 10YR4/4 T o - a混入 粘土粒多量 炭化物微量

363±



363±

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒・炭化物微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量  
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 焼土粒・炭化物微量

0 2m

図446 第360号・第361号・第362号・第363号土坑

## 第364号土坑 (図447)

〔位置〕 NC-462・463グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸76cm、短軸68cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは27cmである。

〔堆積土〕 4層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第365号土坑 (図447)

〔位置〕 NC-462グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸81cm、短軸80cmの不整形で、底面は平坦で、底面に2～5cmの落ち込みがみられる。深さは17cmである。

〔堆積土〕 2層に分層され、自然堆積である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(田中珠美)

## 第366号土坑 (図447・図466)

〔位置〕 NK-459グリッドに位置し、第364号住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 第364号竪穴住居跡により南壁を削平されているが、長軸1m28cm、短軸72cmの楕円形、底面は平坦で、深さは29cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、自然堆積である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(田中珠美)

## 第367号土坑 (図447・図466)

〔位置〕 NE・NF-463グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m26cm、短軸69cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは39cmである。

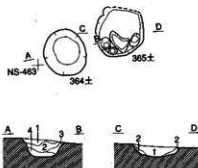
〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(田中珠美)



364土・365土



364土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量 炭土・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 焼土微量

365土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量



367土



NF-464



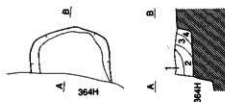
367土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量



366土

NC-469



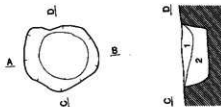
366土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土(10YR5/6)混入 ローム粒微量 焼土粒・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒少量 焼土粒・炭化物微量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR3/3)中量混入



368土

NH-464



368土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 T o - a 粒混入
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量

0 2m

図447 第364号・第365号・第366号・第367号・第368号土坑



## 第368号土坑 (図447・図467)

〔位置〕 NG-464グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m20cm、短軸1m3cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは39cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。1層にはT o - a火山灰が堆積している。黒褐色土を主体とし、人為的堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と鉄製品が出土している。

(田中珠美)

## 第369号土坑 (図448・図467)

〔位置〕 NF-467・468グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m19cm、短軸1m14cmの不整形である。深さは22cmである。底面に5cm程の落ち込みがある。

〔堆積土〕 暗褐色土を主体とした7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(田中珠美)

## 第370号土坑 (図448・図467)

〔位置〕 NB・NC-461・462グリッドに位置し、第226号住居跡と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸69cm、短軸61cmの楕円形で、深さは27cmである。

〔堆積土〕 3層に分層される。ローム粒・焼土粒を含む。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(田中珠美)

## 第371号土坑 (図448・図467)

〔位置〕 MU-471グリッドに位置する。第372号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m40cm、短軸1m5cmの不整形で、深さは38cmである。底面に径40cm、深さ18cmの落ち込みがみられる。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とした3層に分層された。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片と須恵器が出土している。

(櫻井有一)

第372号土坑 (図448)

〔位置〕 MU-471グリッドに位置する。第372号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸79cm、短軸37cmの不整形である。底面は丸底で、深さは32cmである。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第373号土坑 (図448)

〔位置〕 MW-471グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 直径1m9cmの円形で、底面は平坦で、深さは22cmである。

〔堆積土〕 褐色土を主体とした層のみで、炭化物を含む。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(櫻井有一)

第374号土坑 (図449)

〔位置〕 MV-474グリッドに位置し、第381号住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 西側は第381号竪穴住居跡に削平されている。長軸1m18cm、短軸1m13cmの不整形で、深さは28cmである。

〔堆積土〕 2層に分層され、1層に不明の火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(櫻井有一)

第375号土坑 (図449・図468)

〔位置〕 NB-479・480グリッドに位置する。

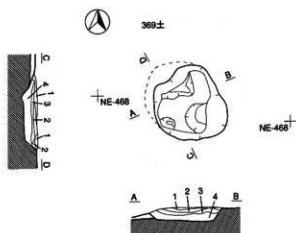
〔平面形・規模〕 長軸1m96cm、短軸1m76cmの方形である。底面は平坦で、深さは28cmである。

〔堆積土〕 5層に分層され、4、5層は炭化物を含む層である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

〔時期〕 覆土中に炭化材を多く含むことと、底面の一部が火熱により赤褐色に焼けていることから焼成遺構と考えられる。

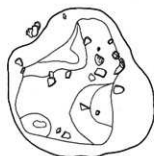
(櫻井有一)



369土

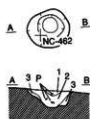
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 焼土中量 炭化物微量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・焼土微量 炭化物多量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 焼土中量  
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量

遺物出土状況



0 1m

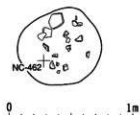
370土



370土

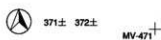
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒中量 ローム粒少量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 焼土粒少量  
 第3層 紅黄褐色 10YR4/3

遺物出土状況



0 1m

371土 372土



MV-471

遺物出土状況



373土



MX-472

373土

- 第1層 褐色土 10YR4/6 ローム粒多量 焼土粒少量 炭化物中量

371土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 焼土粒微量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物少量

372土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.混入  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量  
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒多量

0 2m

図448 第369号・第370号・第371号・第372号・第373号土坑

第376号土坑 (図449)

[位置] NA・NB-477グリッドに位置する。第390号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸1m67cm、短軸1m48cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは47cmである。

[堆積土] 5層に分層される。すべての層に焼土粒、炭化物を含む。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第377号土坑 (図449)

[位置] MZ-481グリッドに位置し、第395号住居跡と重複するが、新旧関係はつかめなかった。

[平面形・規模] 長軸1m47cm、短軸1m21cmの方形で、底面はやや起伏がみられ、深さは97cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体として、6層に分層される。

[出土遺物] 土師器が出土しなかった。

(櫻井有一)

第378号土坑 (図450)

[位置] MY-480グリッドに位置し、第379号土坑と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 南壁と東壁は第379号土坑による削平をうけている。長軸1m36cm、短軸1m22cmの方形で、深さは40cmである。

[堆積土] 黒褐色土の層である。

[出土遺物] 遺物は、出土しなかった。

(櫻井有一)

第379号土坑 (図450)

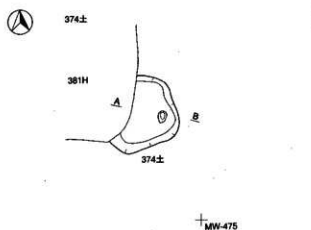
[位置] MY・MZ-480・481グリッドに位置する。第395号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸2m8cm、短軸1m54cmの方形である。底面は平坦で、深さは29cmである。

[堆積土] 5層に分層され、黒色土と黒褐色土とが互層になっている。

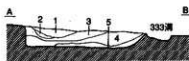
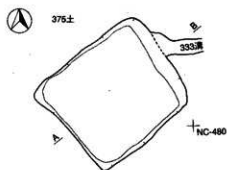
[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(櫻井有一)



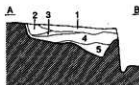
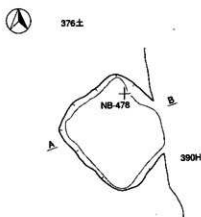
## 374土

第1層 暗褐色土 10YR3/4 不明火山灰混入 ローム粒・炭化物・焼土少量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒微量



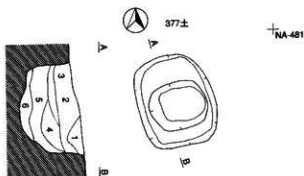
## 375土

第1層 黒色土 10YR2/1 黒褐色土(10YR2/1)混入  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒少量  
 第3層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物・焼土粒微量  
 第4層 黒色土 10YR1.7/2 炭化物少量  
 第5層 黒色土 10YR2/1 炭化物中量



## 376土

第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.中量混入 焼土粒・炭化物微量混入  
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 焼土粒微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.混入 焼土粒中量 炭化物微量  
 第4層 黒色土 10YR2/2 ローム粒少量 焼土粒・炭化物微量  
 第5層 黄褐色土 10YR5/6 ローム質土 L.B.少量混入



## 377土

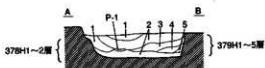
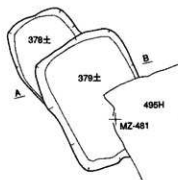
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.混入  
 第3層 褐色土 10YR4/4 明黄褐色土(10YR6/6)混入 ローム粒中量 焼土粒微量  
 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量  
 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量  
 第6層 暗赤褐色土 5YR3/6 焼土層 炭化物微量

0 2m

図449 第374号・第375号・第376号・第377号土坑



378土・379土



378土

- 第1層 黒色土 10YR2/1  
第2層 黒褐色土 10YR3/4

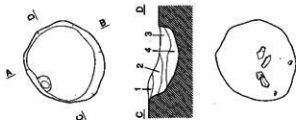
379土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量  
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物中量  
第3層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量  
第4層 黒色土 10YR1 7/1  
第5層 黒褐色土 10YR2/2



380土

+ NJ-469



380土

- 第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量  
第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量  
第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物微量  
第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物微量  
第5層 紅褐色土 10YR5/4 ローム粒微量  
第6層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 粘土粒微量



482土



+ ND-460



481土



+ NJ-470



381土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量  
第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 炭土微量  
第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量

382土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・炭土粒微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量 炭化物・炭土粒微量  
第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物中量

0 2m

図450 第378号・第379号・第380号・第381号・第382号土坑

## 第380号土坑 (図450・図468)

〔位置〕 N I・N J-469グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1 m37cm、短軸1 m22cmの楕円形である。底面は丸底で、深さは37cmである。

〔堆積土〕 6層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(田中珠美)

## 第381号土坑 (図450・図469)

〔位置〕 N J-469グリッドに位置し、第217号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸76cm、短軸76cmの円形で、底面は平坦で、深さは35cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土を主体として、4層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(田中珠美)

## 第382号土坑 (図450)

〔位置〕 N C-459グリッドに位置し、第226号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸75cm、短軸68cmの方形で、深さは23cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土を主体として、3層に分層される。3層には炭化物が含まれる。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(田中珠美)

## 第383号土坑 (図451)

〔位置〕 N M-468グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2 m27cm、短軸1 m16cmの不整形で、壁直下に径15~30cm、深さ1~12cmの円形ピットがみられるが、土坑に伴うものかは不明である。深さは13cmである。

〔堆積土〕 堆積土は1層で焼土粒と炭化物が含まれる。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

## 第384号土坑 (図451)

〔位置〕 N M-468・469グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2 m19cm、短軸1 m69cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは16cmである。

〔堆積土〕 堆積土は1層で焼土粒と炭化物が含まれる。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

第385号土坑 (図451)

〔位置〕 MC-463グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m49cm、短軸1m41cmの円形で、底面は平坦で、深さは21cmである。底面北東隅に直径1m54cm、深さ15cmの円形のピットがみられる。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体として、3層に分層される。覆土にT o - a火山灰が堆積している。自然堆積である。

〔出土遺物〕 須恵器が出土している。

(田中珠美)

第386号土坑 (図451)

〔位置〕 MA-465グリッドに位置し、第462号住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸1m65cm、短軸1m64cmの円形である。深さは34cmである。底面には深さ5～10cmの落ち込みがみられる。

〔堆積土〕 黒色土を主体として、3層に分層された。3層にはT o - a火山灰が混入する。自然堆積である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(田中珠美)

第388号土坑 (図451・図469)

〔位置〕 NM-467グリッドに位置し、第457号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m86cm、短軸1m67cmの方形である。底面はほぼ平坦で、深さは1m5cmである。中央部に径50cmの不整円の落ち込みをもつ。

〔堆積土〕 8層に分層された。黄褐色土を主体とする8層は掘り方である。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(田中珠美)

第389号土坑 (図452・図469)

〔位置〕 NG・NH-460グリッドに位置し、第353号(A)竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。調査時は第353号(A)竪穴住居跡の張り出し部分と考えていたが、堆積土が住居部分とは異なることから第389号土坑とした。

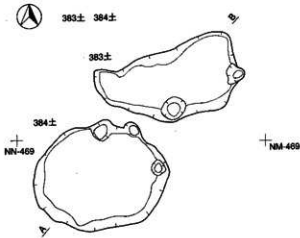
〔平面形・規模〕 土坑北側の第353号(A)竪穴住居跡との重複部分の壁が確認できなかった。長軸1m65cm、短軸1m64cmの方形で、底面は平坦で、深さは25cmである。底面には深さ5～10cmの落ち込みがみられる。

〔堆積土〕 3層に分層された。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

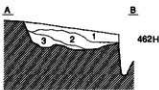
(田中珠美)



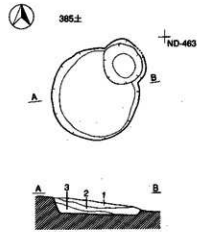


383土  
第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒少量 炭化物微量

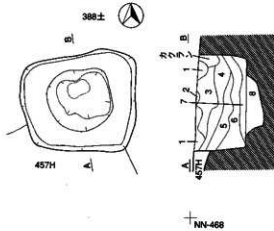
384土  
第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒少量 炭化物微量



386土  
第1層 黒褐色土 10YR1.7/1 T o-a 微量混入 ローム粒微量  
第2層 黒褐色土 10YR1.7/1 T o-a ブロック混入 ローム粒多量  
第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量



385土  
第1層 黒褐色土 10YR3/2 T o-a 微量混入 ローム粒微量  
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 炭化物微量



388土  
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒微量  
第3層 ㇿ土質粘土 10YR4/3 L.B.多量 焼土粒微量  
第4層 ㇿ土質粘土 10YR4/3 L.B.多量 焼土粒多量 炭化物微量  
第5層 ㇿ土質粘土 10YR4/3 L.B.多量 L.B.多量 焼土粒微量 炭化物微量  
第6層 ㇿ土質粘土 10YR4/3 ローム粒多量 焼土粒微量 炭化物微量  
第7層 ㇿ土質粘土 10YR5/4 ローム粒多量 焼土粒・炭化物微量  
第8層 褐色土 7.5YR4/6 粘土多量(振り方)

0 2m

図451 第383号・第384号・第386号・第388号・第388号土坑

第390号土坑 (図452)

[位置] NL・NM-467グリッドに位置する。第457号・368号(B) 竪穴住居跡と重複し、本土坑が最も新しい。調査時に第368号(B) 竪穴住居跡ビット1としていたが、住居跡の壁を切っていることから住居跡に伴わない土坑とした。

[平面形・規模] 長軸1m60cm、短軸1m58cmの方形である。掘り込み面からの深さは60cmである。

[堆積土] 5層に分層された。覆土には粘土・焼土・炭化物が含まれる。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(田中珠美)

第391号土坑 (図452)

[位置] NB・NC-475グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m61cm、短軸1m58cmの方形である。底面は平坦で、深さは18cmである。

[堆積土] 黒褐色の層のみである。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

第392号土坑 (図452)

[位置] NC-474・475グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m6cm、短軸84cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは36cmである。

[堆積土] 黒褐色土を主体とする層のみである。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第393号土坑 (図452)

[位置] NC・ND-474グリッドに位置し、第217号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸90cm、短軸74cmの楕円形で、底面は平坦で、深さは13cmである。底面南東隅に直径1m、深さ15cmの円形のビットがみられる。

[堆積土] 黒褐色土の層のみである。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(櫻井有一)

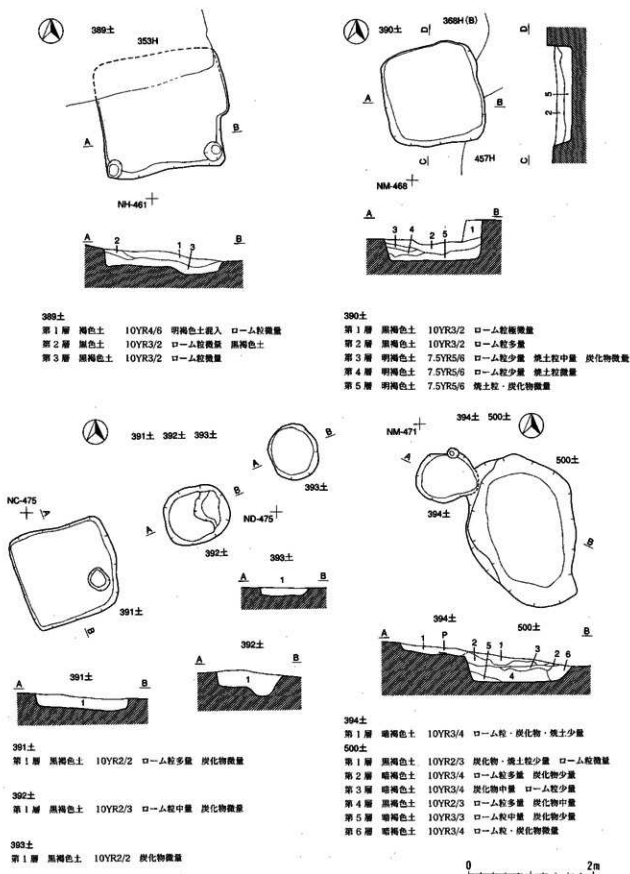


図452 第389号・第390号・第391号・第392号・第393号・第394号・第500号土坑

第394号土坑 (図452)

〔位置〕 NM・NN-471グリッドに位置し、第226号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m1cm、短軸76cmの不整形で、深さは13cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土の層である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

第395号土坑 (図453)

〔位置〕 NL-469・470グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m3cm、短軸1m73cmの方形である。底面はほぼ平坦で、深さは18cmである。

〔堆積土〕 2層に分層され、1層にT〇-a火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

〔小 結〕 形態及び底面の一部が火熱により焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(櫻井有一)

第396号土坑 (図453)

〔位置〕 NG-476グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m98cm、短軸1m38cmの方形である。底面は平坦で、深さは30cmである。

〔堆積土〕 3層に分層され、4層にT〇-a火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

〔小 結〕 形態及び底面の一部が火熱により焼けていることから焼成遺構と考えられる。

(櫻井有一)

第397号土坑 (図453)

〔位置〕 NF-473・474グリッドに位置し、第478号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸1m41cm、短軸1m33cmの不整形である。底面は平坦で、深さは36cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、4層にT〇-a火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

第398号土坑 (図453)

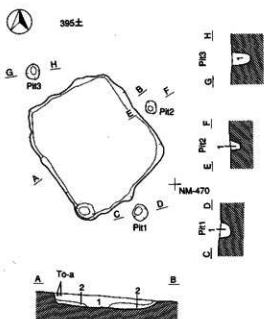
〔位置〕 NG-476グリッドに位置し、第396号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係はつかめなかった。

〔平面形・規模〕 長軸83cm、短軸67cmの楕円形で、深さは42cmである。

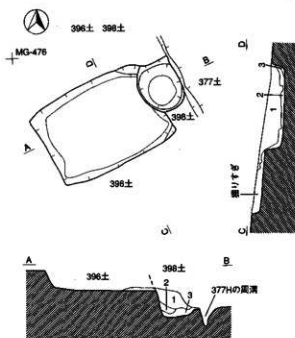
〔堆積土〕 黒褐色土の層を主体として3層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(櫻井有一)

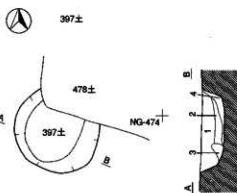


- 395±  
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 To-a 混入 L.B.少量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物多量  
 395±Pk1  
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量  
 395±Pk2  
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量  
 395±Pk3  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3

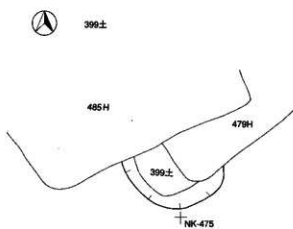


- 396±  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.中量 炭化物・焼土粒微量  
 第2層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物多量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.微量 焼土粒微量

- 396±  
 第1層 黒褐色土 10YR3/2 L.B.中量 炭化物・焼土粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.中量 炭化物微量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量 炭化物微量



- 397±  
 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量 炭化物微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 黄褐色土(10YR5/6)混入 ローム粒少量 炭化物微量  
 第4層 黒色土 10YR1.7/1 To-a火山灰混入 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量



0 2m

図453 第395号・第396号・第397号・第398号・第399号土坑

第399号土坑 (図453)

[位置] NJ・NK-474グリッドに位置し、第485号・第479号竪穴住居跡と重複し、本土坑が最も古い。

[平面形・規模] 長軸1m25cm、短軸1m9cmの楕円形で、重複により深さは不明である。

[出土遺物] 遺物は、出土しなかった。

(櫻井有一)

第400号土坑 (図454)

[位置] NL-471・472グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸73cm、短軸55cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは15cmである。

[堆積土] 2層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第401号土坑 (図454)

[位置] NG-441グリッドに位置し、第217号住居跡と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸1m86cm、短軸1m53cmの楕円形で、底面は平坦で、深さは42cmである。

[堆積土] 3層に分層され、2層に不明の火山灰が堆積する。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)

第402号土坑 (図454)

[位置] NG-441グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m53cm、短軸1m52cmの円形で、深さは43cmである。

[堆積土] 2層に分層され、覆土にT o - a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

第403号土坑 (図454)

[位置] NE-445・446グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸88cm、短軸73cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは12cmである。

[堆積土] 2層に分層され、1層にT o - a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)



第404号土坑 (図455・図469・図470)

〔位置〕 NN-439グリッドに位置する。第409号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸2m15cm、短軸1m29cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは67cmである。

〔堆積土〕 5層に分層され、5層に焼土が多量に堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器のほかに石製品が出土している。

(中嶋友文)

第405号土坑 (図455・図470)

〔位置〕 NN・NO-439グリッドに位置する。第404号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸2m44cm、短軸1m12cmの楕円形で、底面は平坦で、深さは22cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。覆土に焼土、炭化物が含まれている。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第406号土坑 (図455)

〔位置〕 NN-438・439グリッドに位置し、第350号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸77cm、短軸61cmの楕円形である。底面は平坦で深さは21cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、覆土に焼土、炭化物が含まれている。

〔出土遺物〕 遺物は、出土しなかった。

(中嶋友文)

第407号土坑 (図455)

〔位置〕 NH・NI-439グリッドに位置する。第408号竪穴住居跡、第327号溝(99年度報告)と重複し、第408号竪穴住居跡より新しく、第327号溝より本土坑が古い。

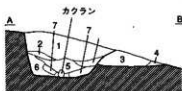
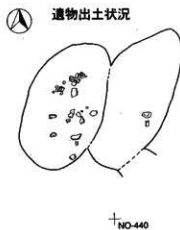
〔平面形・規模〕 西壁、東壁は第327号溝により削平されている。長軸2m20cm、短軸2m8cmの長方形である。底面は平坦で、深さは65cmである。土坑の北西、南東角にそれぞれピットがあり、本土坑の柱穴である可能性が高い。

〔堆積土〕 土坑中心部を第327号溝により削平されたため、エレベーションで確認するのみにたった。

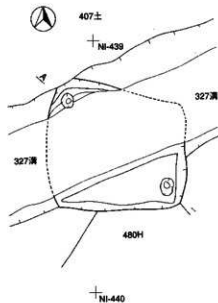
〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

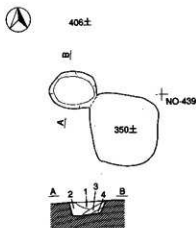




- 404土
- |     |      |          |                 |            |            |
|-----|------|----------|-----------------|------------|------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2  | 黒褐色土(10YR3/2)混入 | ローム粒・焼土粒中量 | 炭化物少量      |
| 第2層 | 黒色土  | 10YR2/1  | 炭化物中量           | 焼土粒少量      |            |
| 第5層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | 黒褐色土(10YR3/1)混入 | 焼土粒多量      | ローム粒・炭化物少量 |
| 第6層 | 褐色土  | 10YR4/4  | 黒褐色土(10YR2/2)混入 |            |            |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR2/2  | ローム粒・焼土粒少量      | 炭化物微量      |            |



- 405土
- |     |      |         |        |           |  |
|-----|------|---------|--------|-----------|--|
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 | 炭化物・焼土粒微量 |  |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒中量 | 炭化物・焼土粒微量 |  |



- 406土
- |     |      |         |                 |            |       |
|-----|------|---------|-----------------|------------|-------|
| 第1層 | 褐色土  | 10YR2/1 | 黒褐色土(10YR2/3)混入 | ローム粒・炭化物少量 | 焼土粒微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 褐色土(10YR4/6)混入  | ローム粒中量     | 炭化物微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒少量          | 炭化物微量      |       |
| 第4層 | 褐色土  | 10YR4/4 | ローム粒中量          |            |       |



0 2m

図455 第404号・第405号・第406号・第407号土坑

第409号土坑 (図456)

[位置] NH・NI-455グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m53cm、短軸1m32cmの楕円形である。底面は起伏がみられ、深さは38cmである。西側にビット状の落ち込みと周囲にビットが検出された。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第410号土坑 (図456・図470)

[位置] NQ・NQ-439グリッドに位置する。第411号土坑と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸1m46cm、短軸1m34cmの長方形である。底面は平坦で、深さは48cmである。

[堆積土] 黒褐色土を主体として、9層に分層される。全体的に炭化物和焼土粒が含まれている。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第411号土坑 (図456)

[位置] NQ・NR-438・439グリッドに位置する。第410号土坑と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸1m42cm、短軸1m17cmの楕円形である。底面は起伏がみられ、深さは27cmである。

[堆積土] 6層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

第412号土坑 (図456・図470)

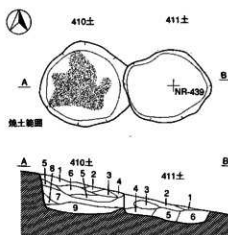
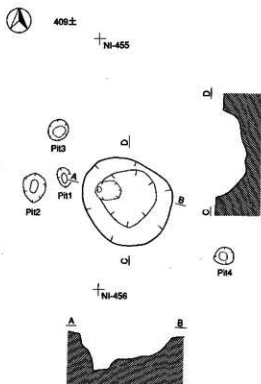
[位置] NR-438グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m20cm、短軸1m3cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは47cmである。

[堆積土] 7層に分層される。

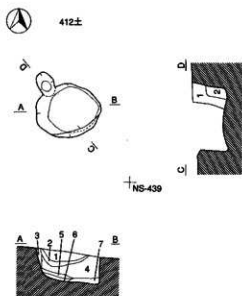
[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(中嶋友文)



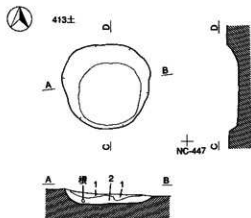
410土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒少量 ローム粒・炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土粒中量 ローム粒・炭化物微量
- 第4層 褐色土 7.5YR4/4
- 第5層 黒色土 10YR2/1 炭化物多量 ローム粒微量
- 第6層 褐色土 7.5YR4/6 黒褐色土(10YR2/2)混入 焼土粒多量 炭化物少量
- 第7層 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量
- 第8層 褐色土 10YR4/6
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量



411土

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物少量 焼土粒微量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物微量
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物微量
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量 炭化物・焼土粒微量



412土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒色土 10YR2/1 炭化物多量 焼土粒中量 ローム粒微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 暗褐色土(10YR3/3)混入 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第5層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量

413土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒微量

0 2m

図456 第409号・第410号・第411号・第412号・第413号土坑

第413号土坑 (図456)

〔位置〕 NB-446グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸が90cm、短軸が86cmのほぼ円形である。深さは15cmである。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

第415号土坑 (図454・図470)

〔位置〕 NG・NH-440グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m13cm、短軸1m12cmの円形で、深さは18cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とする3層に分層される。堆積土にT<sub>0</sub>-a火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

第416号土坑 (図457)

〔位置〕 NE・NE-447グリッドに位置する。第336号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係はつかめなかった。

〔平面形・規模〕 長軸1m17cm、短軸1m11cmの円形である。底面は平坦で、深さは47cmである。

〔堆積土〕 2層に分層され、覆土に不明の火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

第417号土坑 (図457)

〔位置〕 NZ・NA-452グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸が2m5cm、短軸が1m91cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは52cmである。

〔堆積土〕 3層に分層され、1層にT<sub>0</sub>-a火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

第418号土坑 (図454)

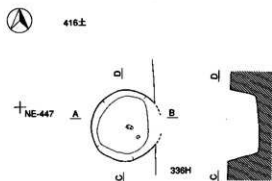
〔位置〕 NG-440グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m4cm、短軸1m3cmの長方形で、底面は平坦で、深さは28cmである。

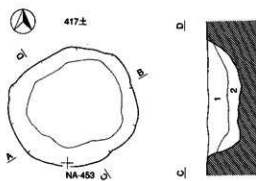
〔堆積土〕 3層に分層される。1層と2層にT<sub>0</sub>-a火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

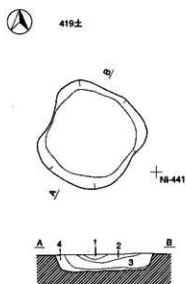
(齋藤由美子)



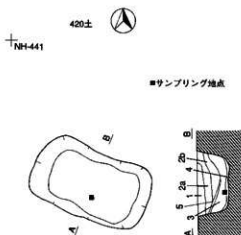
- 416土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 不明火山灰混入 L.B.混入



- 417土  
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 T o-a混入 ローム粒少量 炭化物・粘土粒微量 微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・粘土粒微量  
 第3層 黄褐色土 10YR5/8 粘土質土混入



- 419土  
 第1層 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 炭土粒微量  
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 T o-a混入 ローム粒微量 小礫混入  
 第4層 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒多量 下部にL.B. 炭化物微量



- 420土  
 第1層 黒色土 10YR2/1 粘土粒少量  
 第2a層 黒褐色土 7.5YR3/1 B-T m混入 ローム粒中量  
 第2b層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量 L.B.混入  
 第3層 黒褐色土 10YR3/1 泥炭質土混入 炭化物微量  
 第4層 黒色土 10YR2/1 泥炭質土  
 第5層 黄褐色土 10YR5/8 粘土層

0 2m

図457 第416号・第417号・第419号・第420号土坑

第419号土坑 (図457・図470)

[位置] NH-440・441グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m59cm、短軸1m43cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは26cmである。

[堆積土] 黒褐色土を主体とした4層に分層され、3層にT o - a火山灰が混入する。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

第420号土坑 (図457・図471)

[位置] NH-441グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m93cm、短軸1m4cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは50cmである。

[堆積土] 3層に分層され、2層にB-Tm火山灰が堆積している。

[出土遺物] 底面から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

第421号土坑 (図458・図471)

[位置] NG・NH-441・442グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸が1m54cm、短軸が1m21cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは42cmである。

[堆積土] 黒色土を主体とする4層に分層され、覆土にはT o - a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

[小 結] 形態から焼成遺構と考えられる。

(齋藤由美子)

第422号土坑 (図458)

[位置] NK・NL-428グリッドに位置し、第413号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸1m32cm、短軸1m22cmの長方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは11cmである。

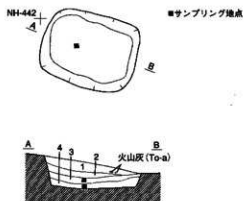
[堆積土] 2層に分層され、1層に不明の火山灰が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)



421土

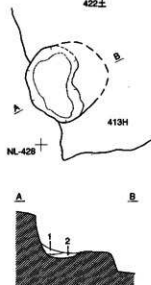


421土

- 第1層 黒褐色土 7.5YR2/1 To-a混入 粘土粒少量 炭化物微量
- 第2層 黒色 10YR2/1 ローム粒混入
- 第3層 黒色 10YR1.7/1 To-a混入
- 第4層 黒色 10YR1.7/1 To-a混入



422土

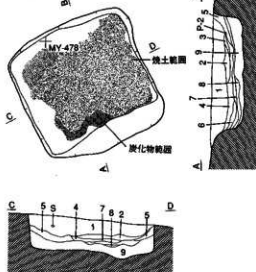


422土

- 第1層 褐色 10YR4/6 不明火山灰混入
- 第2層 黒褐色 10YR2/3 炭化物微量



423土

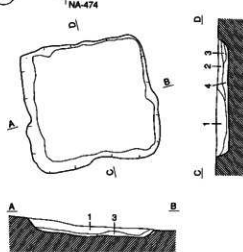


423土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 粘土粒・炭化物微量
- 第2層 赤褐色土 10YR4/3 炭化物微量
- 第3層 褐色土 7.5YR4/4 粘土粒多量
- 第4層 群付/粘土 2.5YR3/3 粘土粒・炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量 粘土粒・炭化物微量
- 第6層 褐色土 7.5YR6/6 小礫混入
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 粘土粒・炭化物微量
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 粘土粒・炭化物微量



424土



424土

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 不明火山灰混入 粘土粒・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 不明火山灰混入 炭化物・粘土粒微量
- 第3層 明褐色土 10YR6/6 不明火山灰混入 粘土粒微量
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 不明火山灰混入 炭化物微量

0 2m

図458 第421号・第422号・第423号・第424号土坑

第423号土坑 (図458・図471)

[位置] MX・MY-477・478グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸2m10cm、短軸2m7cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは52cmである。

[堆積土] 9層に分層され、ほとんどの層に焼土・炭化物が混入する。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器と鉄製品が出土している。

(齋藤由美子)

第424号土坑 (図458・図471)

[位置] MZ・NA-474グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸2m9cm、短軸2m2cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは17cmである。

[堆積土] 4層に分層され、不明の火山灰が混入する。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

第429号土坑 (図459)

[位置] ND-444・445グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸2m48cm、短軸2m15cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは18cmである。

[堆積土] 3層に分層される。覆土にはT o - a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器の破片が出土している。

(中嶋友文)

第430号土坑 (図459・図471)

[位置] NC-443・444グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸2m13cm、短軸1m72cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは49cmである。

[堆積土] 5層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

[小 結] 形態から、焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)



## 第431号土坑 (図459・図471)

[位置] NM・NN-437・438グリッドに位置する。第327号溝と重複し、本土坑が古い。

[平面形・規模] 長軸が1m63cm、短軸1m29cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは34cmである。

[堆積土] 暗褐色土を主体とした2層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

## 第432号土坑 (図459)

[位置] NN-437・438に位置する。

[平面形・規模] 長軸1m30cm、短軸98cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは17cmである。

[堆積土] 3層に分層され、1層にT o - a 火山灰が混入している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## 第433号土坑 (図460・図472)

[位置] NM-437グリッドに位置する。第439号土坑と重複し、本土坑が新しいが、堆積土からほとんど時期差はないと考えられる。

[平面形・規模] 長軸2m10cm、短軸1m82cmの不整形で、底面は丸底を呈する。深さは42cmである。

[堆積土] 4層に分層され、T o - a 火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

## 第434号土坑 (図460・図472)

[位置] NM・NN-436・437グリッドに位置する。第439号土坑と重複し、本土坑が新しい。

[平面形・規模] 長軸1m94cm、短軸1m72cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは40cmである。

[堆積土] 4層に分層され、覆土にT o - a 火山灰が堆積している。

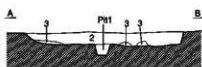
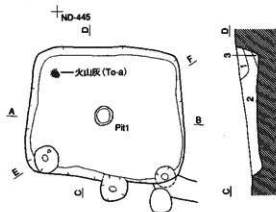
[出土遺物] 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(齋藤由美子)

野木遺跡Ⅱ



429土

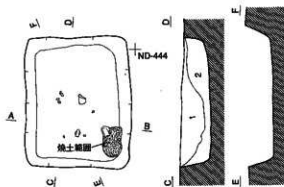


429土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物微量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 粘土質土 炭化物微量



430土

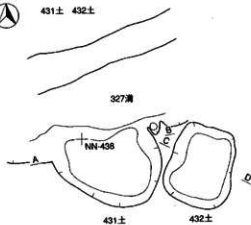


430土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.混入
- 第2層 C.B.混雑土 10YR4/3 L.B.中量 炭化物微量
- 第3層 褐色土 10YR4/6
- 第4層 暗褐色土 7.5YR3/4
- 第5層 黒色土 10YR1.7/1 焼土粒少量



431土 432土



431土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物少量

432土

- 第1層 黒褐色土 7.5YR2/1 To-a 混雑混入 焼土粒微量
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物多量
- 第3層 C.B.混雑土 10YR4/3 ローム粒多量

0 2m

図459 第429号・第430号・第431号・第432号土坑

## 第435号土坑 (図460・図472)

〔位置〕 NK-434グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸が1m91cm、短軸が1m31cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは62cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみである

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(中嶋友文)

## 第436号土坑 (図480)

〔位置〕 NN-440グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸90cm、短軸68cmの楕円形である。底面は平坦で、深さは46cmである。

〔堆積土〕 2層に分層され、炭化物、焼土粒を含む。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

## 第437号土坑 (図461・図437)

〔位置〕 NJ-432・433グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m21cm、短軸90cmの方形である。底面は起伏がみられ、深さは13cmである。

〔堆積土〕 黒色土を主体として、2層に分層され、1層には不明の炭化物が多量に含まれる。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器のほか、砥石が出土している。

〔小 結〕 形態から焼成遺構と考えられる。

(中嶋友文)

## 第438号土坑 (図461)

〔位置〕 NQ-438グリッドに位置する。

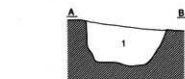
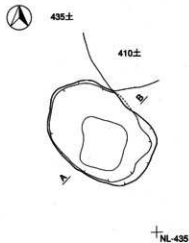
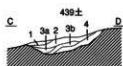
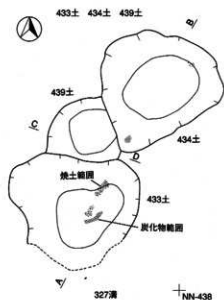
〔平面形・規模〕 長軸1m21cm、短軸54cmの楕円形である。深さは32cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とする2層に分層され、1層には不明の火山灰が混入する。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文)

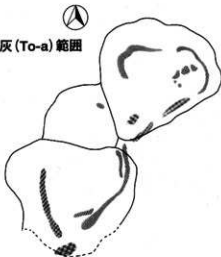
野木遺跡Ⅱ



435土  
第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.混入 炭化物微量

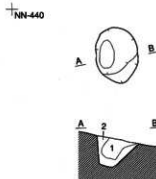


火山灰(To-a) 範囲



439土  
第1層 黒褐色土 7.5YR3/2 粘土粒・炭土粒微量  
第2層 黒色土 10YR2/1 To-a混入  
第3a層 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土微量  
第3b層 灰黄褐色土 10YR4/2 粘土中量 炭化物少量  
第4層 赤土粘粒土 10YR4/3 粘土粒微量

433土・434土  
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 粘土微量  
第2層 黒色土 10YR2/1 To-a混入 炭化物多量  
第3層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒多量  
第4層 赤土粘粒土 10YR4/3 ローム粒中量



436土  
第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 炭化物・粘土粒微量  
第2層 暗褐色土 10YR3/3 褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒少量

0 2m

図460 第433号・第434号・第435号・第436号・第439号土坑

## 第439号土坑 (図460)

〔位置〕 NM-437グリッドに位置する。第433号・第434号土坑と重複し、本土坑が最も古い。

〔平面形・規模〕 長軸が1 m27cm、短軸1 m20cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは23cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、覆土にT o - a火山灰が堆積する。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(中嶋友文 相馬良仁 田中珠美 齋藤由美子)

## 第443号土坑 (図461)

〔位置〕 ND-466グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1 m46cm、短軸1 m26cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは12cmである。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とする4層に分層される。

〔出土遺物〕 底面から礫が出土している。

(櫻井有一)

## 第444号土坑 (図461・図472)

〔位置〕 MU・MV-473グリッドに位置する。第381号竪穴住居と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸1 m23cm、短軸80cmの不整形である。底面はやや起伏がみられ、深さは12cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土の層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(櫻井有一)

## 第451号土坑 (図462・図473)

〔位置〕 ND・NE-469・470グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸が1 m74cm、短軸が1 m72cmの方形である。底面はやや起伏がみられ、深さは34cmである。

〔堆積土〕 5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(田中珠美)



## 第495号土坑 (図462)

- [位置] MV-478・479グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸1m17cm、短軸99cmの長方形である。底面は平坦で、深さは21cmである。  
 [堆積土] 暗褐色土を主体として、3層に分層される。  
 [出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

## 第496号土坑 (図462・図473)

- [位置] NI-473グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸1m53cm、短軸1m45cmの円形で、深さは12cmである。  
 [堆積土] 黒褐色土の層である。  
 [出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

## 第497号土坑 (図462)

- [位置] NH-474グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸77cm、短軸64cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは19cmである。  
 [堆積土] 黒褐色土の層のみである。  
 [出土遺物] 覆土から須恵器が出土している。

(櫻井有一)

## 第498号土坑 (図462・図473)

- [位置] NH-473・474グリッドに位置する。  
 [平面形・規模] 長軸が1m22cm、短軸が92cmの楕円形である。底面はやや起伏がみられ、深さは24cmである。  
 [堆積土] 2層に分層され、覆土に不明の火山灰が堆積している。  
 [出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(櫻井有一)

## 第499号土坑 (図462)

- [位置] ND-478グリッドに位置する。第483号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。  
 [平面形・規模] 長軸1m69cm、短軸1m53cmの長方形である。底面は平坦で、深さは41cmである。  
 [堆積土] 黒褐色土を主体として、3層に分層される。  
 [出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

野木遺跡Ⅱ

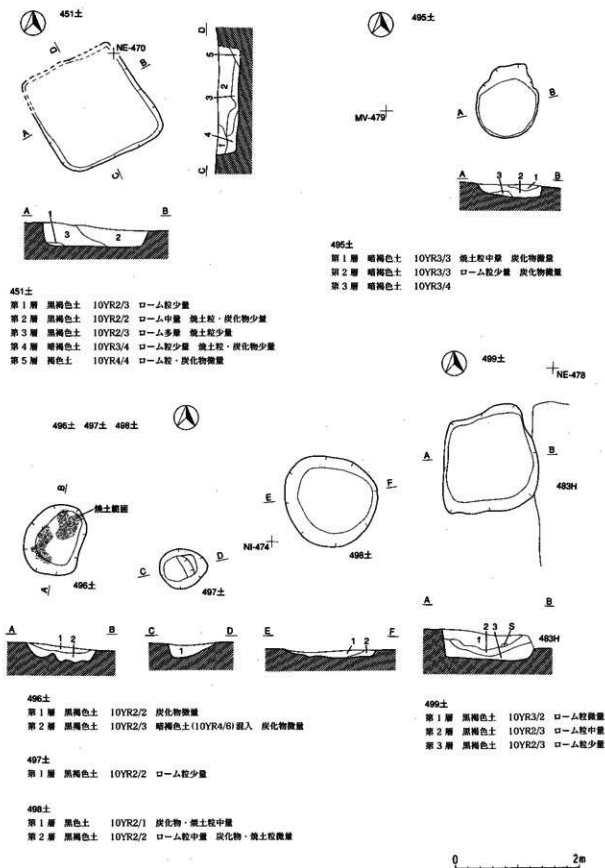


図462 第451号・第495号・第496号・第497号・第498号・第499号土坑



## 第500号土坑 (図452・図473)

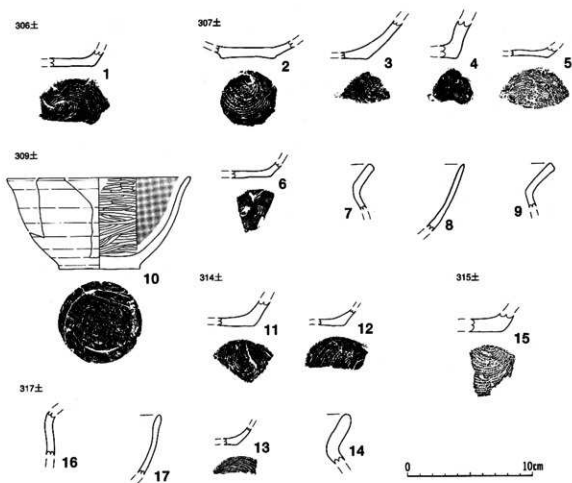
〔位置〕 NN-471グリッドに位置する。第394号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔平面形・規模〕 長軸2 m49cm、短軸1 m74cmの楕円形で、深さは39cmである。

〔堆積土〕 6層に分層され、3層に炭化物が多量に含まれている。

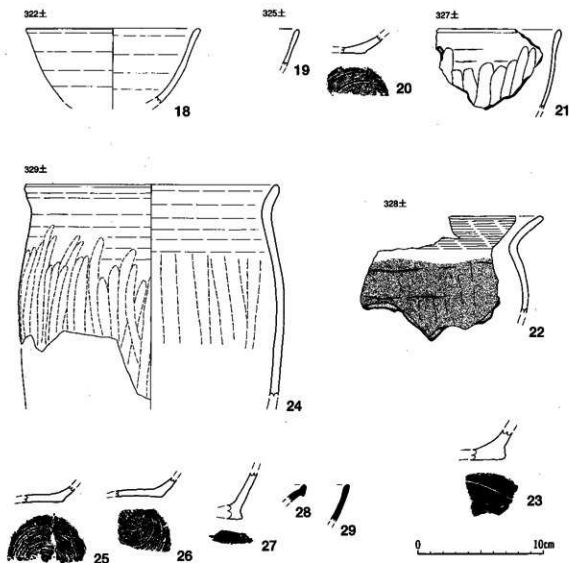
〔出土遺物〕 覆土から土師器と須恵器が出土している。

(櫻井有一)



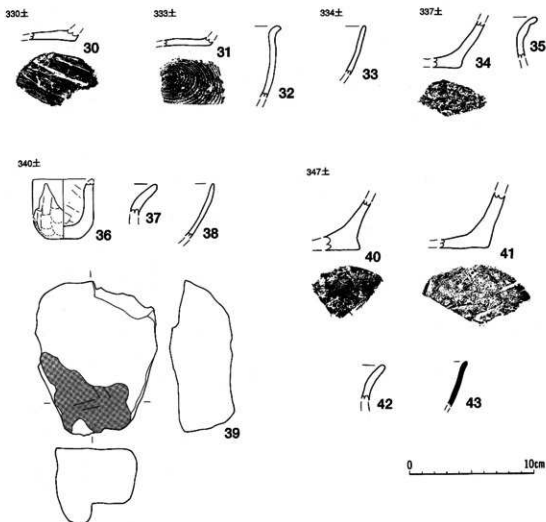
図取番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	306土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	P-1
2	土師器	坏	307土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	
3	土師器	壺	307土 フナ土	—	—	—	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂流	A	P-8
4	土師器	壺	307土 フナ土	—	—	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
5	土師器	坏	307土 オクニシロ	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	
6	土師器	坏	307土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	P-15
7	土師器	壺	307土 フナ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-19
8	土師器	坏	307土 フナ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-17
9	土師器	壺	307土 フナ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
10	土師器	坏	309土 フナ土	(14.8)	7.3	(6.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	BⅠb	内面顔色処理
11	土師器	壺	314土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	
12	土師器	坏	314土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	
13	土師器	坏	314土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	BⅡ	
14	土師器	壺	314土 フナ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
15	土師器	壺	315土 フナ土	—	—	—	—	—	ロクロ?	—	—	ヘラナデ?	未切り?	B?	
16	土師器	壺	317土 フナ土	—	—	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	A	断面照
17	土師器	坏	317土 フナ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-2

図463 土坑出土遺物(1)



図版番号	種別	器種	土質	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
18	土師器	坏	322土 フク土	—	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-1, 2, 3, 4, 5, 6
19	土師器	坏	325土 フク土	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	
20	土師器	坏	325土 フク土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
21	土師器	鉢	327土 フク土	—	—	—	ヨコナデ	ヘラズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	スズ状凹凸物付着
22	土師器	壺	328土 フク土	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6, 7, 10 輪縁部、粘土付着
23	土師器	壺	328土 フク土	—	(17.0)	—	—	—	ヘラズリ	—	—	ヘラナデ	木蓋付	A	
24	土師器	壺	329土 フク土	—	—	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-12, 13 口縁部、粘土付着
25	土師器	坏	329土 フク土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-21
26	土師器	坏	330土 フク土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-6
27	土師器	壺	329土 フク土	—	—	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-52 唇部にスズ付着
28	須恵器	壺	329土 フク土	—	(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-60
29	須恵器	坏	329土 フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	唇部にスズ付着

図464 土坑出土遺物(2)

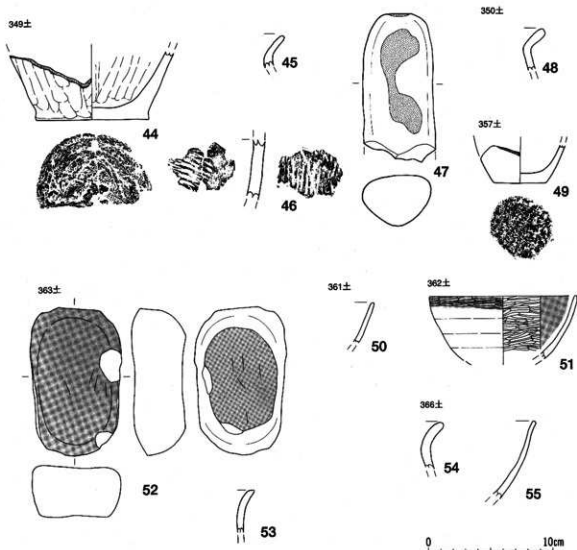


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整		底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半				体部下半
30	土師器	甕	330± ラテ土	—	—	—	—	—	ヘラズリ?	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	P-1
31	土師器	杯	333± ラテ土	—	—	—	—	—	—	—	—	ロクロ	回転成形?	B II	
32	土師器	甕	333± ラテ土	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	スズ鉄炭化物付着 (内面)
33	土師器	甕	340± ラテ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B II	
34	土師器	甕	337± ラテ土	—	—	—	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
35	土師器	甕	337± ラテ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ?	—	—	—	A	
36	土師器	小笠土器	340± ラテ土	—	(4.5)	(3.0)	—	ヘラナデ	スビ圧痕	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ?	—	
37	土師器	甕	340± ラテ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
38	土師器	杯	340± ラテ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
40	土師器	甕	347± ラテ土	—	—	—	—	—	ヘラズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-15
41	土師器	甕?	347± ラテ土	—	—	—	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-23 輪痕
42	土師器	甕	347± ラテ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-3,5
43	灰器	杯	347± ラテ土	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B II	P-22

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
39	340± ラテ土	12.0	9.5	6.1	830	凝	磁石 S-1 凝炭炭化物付着	

図465 土坑出土遺物 (3)

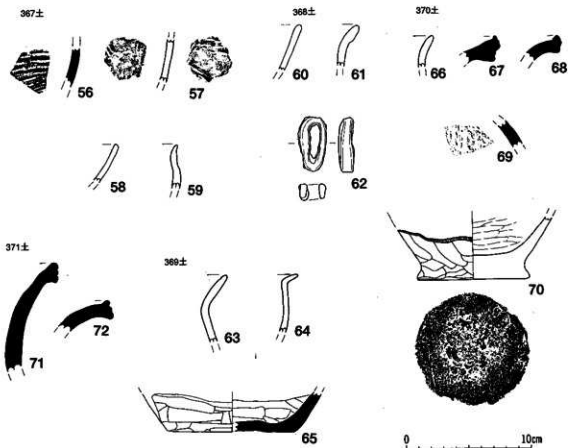


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
44	土師器	甕	348±4層	—	(5.2)	(9.0)	—	ヘラナデ	—	—	—	—	—	A	編織痕
45	土師器	甕	349±フタ上	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
46	土師器	甕	348±フタ上	—	—	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目?	—	—	—	
48	土師器	甕	350±フタ上	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
49	土師器	甕	357±フタ上	—	(3.0)	4.0	—	—	不明	—	—	不明	ナデツツケ	A?	
50	土師器	坏	361±フタ上	(12.0)	(3.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	内面黒色結核
51	土師器	坏	362±P61	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BI	内面黒色結核
53	土師器	鉢?	363±フタ上	—	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ?	—	—	—	A	
54	土師器	甕	366±フタ上	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8
55	土師器	坏	366±フタ上	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BII	P-13

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
47	348±4層	11.7	5.5	4.1	392	流	煎石	
52	363±1層	15.6	9.3	5.5	852	安	砥石	

図466 土坑出土遺物(4)



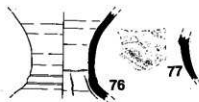
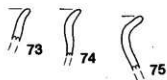
図版番号	種別	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	高さ	底径	口径部	体部上半	体部下半	口径部	体部上半	体部下半				
56	須恵器 甕	367土 フタ土	—	—	—	—	タタキ目	—	—	アノ貝殻?	—	—	—		
57	土師器 甕	367土 フタ土	—	—	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目?	—	—	—		
58	土師器 杯	367土 フタ土	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	—	—	—	B1	内面黒色処理
59	土師器 鉢?	367土 フタ土	—	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
60	土師器 杯	368土 フタ土	(13.0)	(3.7)	—	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B1	内面黒色処理
61	土師器 甕	368土 フタ土	—	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
63	土師器 甕	369土 フタ土	—	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6, 7, 8
64	土師器 甕	369土 フタ土	—	—	—	—	ヨコナデ	ヘラミガキ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-11
65	須恵器 甕	369土 フタ土	—	(3.2)	(10.0)	—	—	ケズリ	—	ケズリ	—	—	—	A	口縁上縁 ヘラナデ?
66	土師器 甕	370土 フタ土	—	—	—	—	ヨコナデ	ヘラミガキ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
67	須恵器 甕	370土 フタ土	—	(2.1)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然物
68	須恵器 甕	370土 フタ土	—	(1.9)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-2
69	須恵器 甕	370土 フタ土	—	(2.1)	—	—	タタキ目	—	—	—	—	—	—	—	あて貝殻
70	土師器 甕	370土 フタ土	—	(4.9)	9.0	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	口縁上縁 ヘラナデ?
71	須恵器 甕	371土 灰底	—	(8.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-1
72	須恵器 甕	371土 灰底	—	(2.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-3

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種別	備考
		長さ	幅	厚さ			
62	366土フタ土	4.3	2.3	1.2	10.6	環状	

図467 土坑出土遺物 (5)

375±



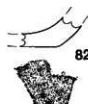
379±

80



380±

81

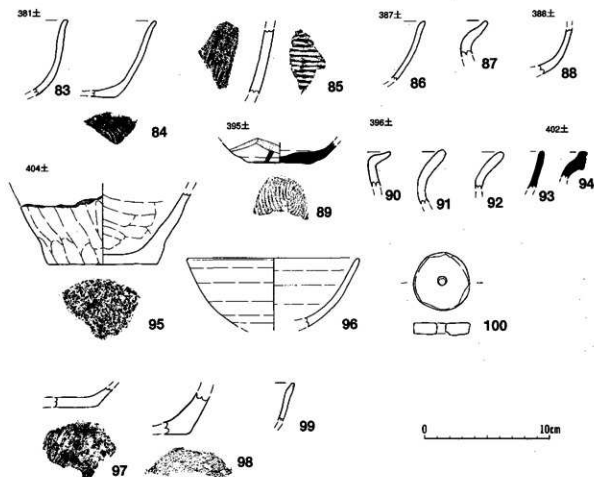


82

0 10cm

図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分 類	備 考
				口 徑	高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
73	土師器	鉢?	375± フナ土	—	—	—	ヘラナテ	—	—	ヘラナテ	—	—	—	A	
74	土師器	甕	375± フナ土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラケズリ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
75	土師器	甕	375± フナ土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラケズリ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
76	須恵器	瓦器壺	375± フナ土	—	(7.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	口縁縁部、口ひねり部等に磨目あり
77	須恵器	杯	375± フナ土	—	(2.5)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	磨目あり	—	外面磨目
78	須恵器	杯	375± フナ土	—	(3.1)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	磨目あり	—	外面丸みあり
79	須恵器	甕	375± フナ土	—	(1.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然物
80	須恵器	甕	380± フナ土	—	(22.6)	—	—	平均 多少あり	—	—	あて具痕	—	—	—	P-1
81	須恵器	甕	380± 底土	—	—	—	—	平均 多少あり	—	—	あて具痕	—	—	—	P-1
82	土師器	甕?	380± 底土	—	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ?	—	—	A	P-6

図468 土坑出土遺物(6)



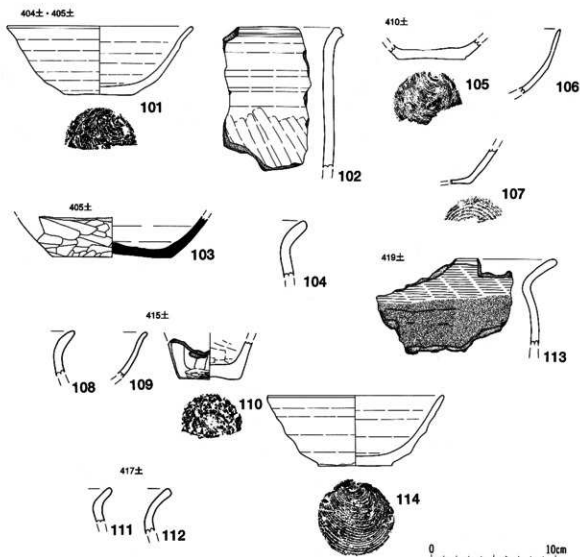
図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			表面調整	分類	備考
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
83	土師器	坪 381土 フタ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
84	土師器	坪 381土 フタ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	
85	土師器	壺 381土 フタ土	—	—	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目?	—	—	—	
86	土師器	坪 387土 フタ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
87	土師器	壺 387土 フタ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
88	土師器	坪 388土 フタ土	—	—	—	—	—	ロクロ?	—	—	ヘラ?	不明	BⅠ	片断(1ヶ所, 片断(2ヶ所))
89	須恵器	坪 395土 フタ土	—	(1.8)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	ロクロ	—	粗転輪等?	—	長直線部 内面 穴だすき痕
90	土師器	壺 396土 フタ土	—	—	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
91	土師器	壺 396土 フタ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
92	土師器	壺 396土 フタ土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
93	須恵器	坪 398土 フタ土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	片断(穴だすき痕)
94	土師器	壺 402土 フタ土	—	(2.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
95	土師器	坪 404土 フタ土	—	(5.5)	(9.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂流	A	P-21
96	土師器	坪 404土 フタ土	(14.0)	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-22, 23, 25
97	土師器	壺 404土 フタ土	—	—	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-5
98	土師器	壺 404土 フタ土	—	—	—	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂流	A	P-11
99	土師器	坪 404土 フタ土	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	P-9

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
100	石製紡輪車	404土フタ土		4.8	1.0	19.1		

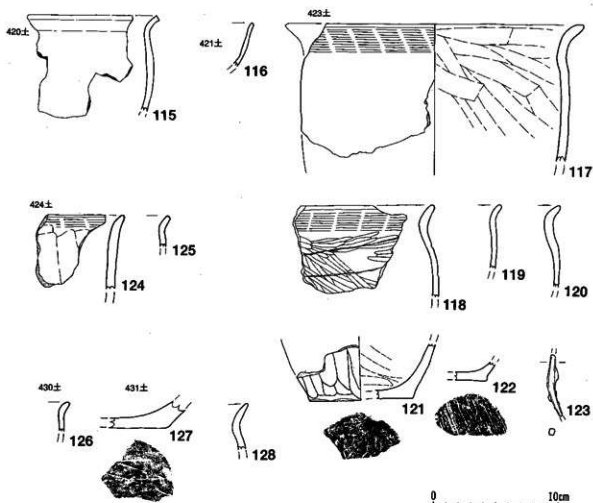
図469 土坑出土遺物(7)





図説 番号	種類	器種	土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
101	土師器	坏	404, 405 フナエ	(15.0)	5.5	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	赤切り	B II b	P-1
102	土師器	甕	404, 405 フナエ	(22.0)	(12.5)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-3
103	須恵器	甕	405 フナエ	—	—	—	—	—	ヘラズリ	—	—	ロクロ	赤切り	—	—
104	土師器	甕	405 フナエ	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
105	土師器	坏	410 フナエ	—	(5.2)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転赤切り	B II	—
106	土師器	坏	410 フナエ	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	—
107	土師器	坏?	410 フナエ	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転赤切り	B II	P-12
108	土師器	甕	414 フナエ	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	—
109	土師器	坏	415 フナエ	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	—
110	土師器	小皿土器	415 フナエ	—	(3.2)	(4.8)	—	—	ヘラズリ	—	—	ヘラナデ	回転 →フナエ?	—	—
111	土師器	甕	417 フナエ	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-10
112	土師器	甕	417 フナエ	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
113	土師器	甕	419 フナエ	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2, 輪紋面
114	土師器	坏	419 フナエ	14.2	5.6	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転赤切り	B II b	P-3

図470 土坑出土遺物(8)

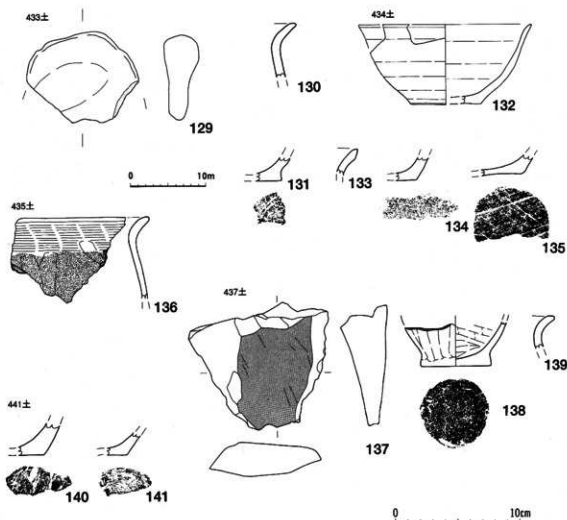


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
115	土師器	甕	420土 直産	—	—	—	ロクロ?	ロクロ?	—	ロクロ?	ロクロ?	—	—	B	P-I
116	土師器	杯	421土 直産	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BII	
117	土師器	甕	423土 フナエ	(24.0)	(11.8)	—	ヨコナテ	不明	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
118	土師器	甕	423土 フナエ	(18.8)	(7.8)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭不明
119	土師器	甕	423土 フナエ	(12.0)	(5.2)	—	ヨコナテ	ヘラナテ?	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	スス状炭化物付着
120	土師器	甕	423土 フナエ	(18.0)	(5.6)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
121	土師器	甕	423土 フナエ	—	(4.4)	(8.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	ナツケ	A	
122	土師器	甕	423土 フナエ	—	(1.6)	(6.4)	—	—	不明	—	—	不明	ヘラ切り?	A?	
124	土師器	甕	424土 フナエ	—	(5.9)	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	
125	土師器	甕	424土 フナエ	—	(2.5)	—	ヨコナテ	ヘラズリ?	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
126	土師器	杯	430土 直産	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	
127	土師器	甕	431土 直産	—	—	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	ヘラ切り	A	
128	土師器	甕	431土 直産	—	—	—	ヨコナテ	ヘラケズリ	—	ヘラナテ	ヘラナテ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	形状	備考
		長さ	幅	厚さ			
123	423土フナエ	4.9	0.5	0.5	14.9	棒状	

図471 土坑出土物 (9)



図版番号	種類	土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
			口径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
130	土師器 壺	433土 フク土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪縁部
131	土師器 杯?	433土 フク土	—	—	—	—	—	不明	—	ヘラナテ	糸切り?	—	A	
132	土師器 杯	434土 フク土	(14.0)	7.0	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	BIIb	P-1,4
133	土師器 壺	434土 フク土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	P-5
134	土師器 壺	434土 フク土	—	—	—	—	—	ヘラクスリ	—	ヘラナテ	砂底	—	A	P-5
135	土師器 壺	434土 フク土	—	—	—	—	—	ヘラクスリ?	—	ヘラナテ	ヘラナテ	—	A	P-1
136	土師器 壺	435土 フク土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	P-1
138	土師器 壺	437土 フク土	—	(3.4)	(5.6)	—	ヘラナテ	ヘラナテ	—	ヘラナテ	ヘラナテ	ナデツケ	A	
139	土師器 壺	437土 フク土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	P-6
140	土師器 壺	441土 フク土	—	—	—	—	—	ヘラクスリ?	—	ヘラナテ?	ヘラナテ	—	A	
141	土師器 杯	441土 フク土	—	—	—	—	—	ヘラクスリ	—	ヘラナテ	糸切り	—	A	

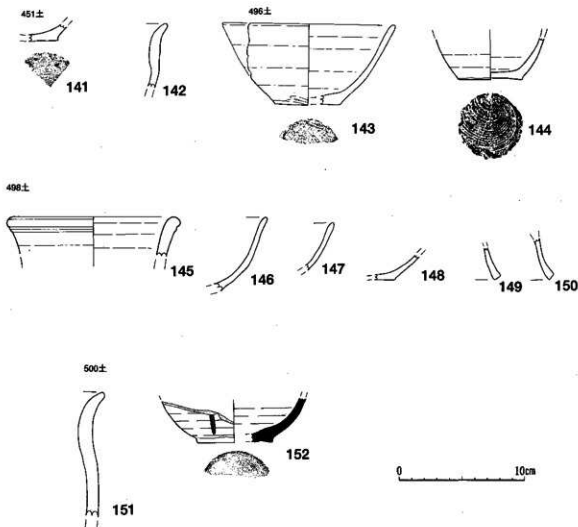
  

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
137	437土フク土	9.7	11.1	2.7	365	凝	砥石 S-7 炭化物付着	

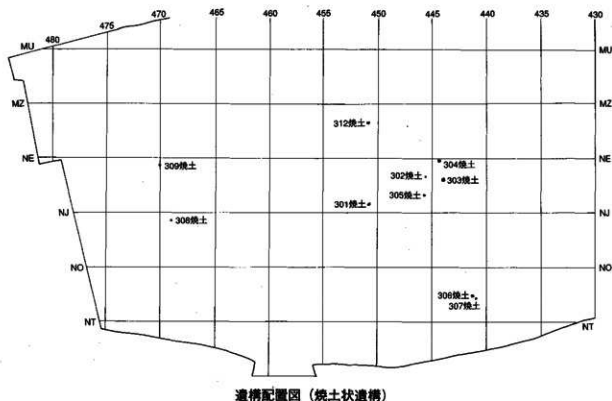
図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
129	不明	433土フク土	(3.5)	(4.4)	1.4	18.7	帯で整形	

図472 土坑出土遺物 (10)



図版 番号	種類	出土層位	計測値 (cm)				外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半					
141	土師器	坏	451土 フタ土	—	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミダキ	回転未切り	B I	内面褐色地質
142	土師器	鉢?	451土 フタ土	—	—	—	ヨコナデ	ヘラミダキ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	A	
143	土師器	坏	496土 カタニシ	—	—	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転未切り	B II b		
144	土師器	鉢	498土 カタニシ	—	(3.4)	5.0	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転未切り	B	
145	土師器	鉢	498土 フタ土	(14.0)	(3.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B	
146	土師器	坏	498土 フタ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	B II	
147	土師器	坏	498土 フタ土	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	B II	
148	土師器	坏	498土 フタ土	—	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転未切り	B II		
149	土師器	高台付坏	498土 フタ土	—	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	
150	土師器	高台付坏	498土 フタ土	—	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	
151	土師器	壺	500土 底土	—	—	—	不明	ヘラミダキ?	—	不明	ヘラナデ	—	—	—	A	P-1
152	須恵器	坏	500土 フタ土	—	(3.4)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	—	ロクロ	回転未切り	—	内面灰たつき質 P-1

図473 土坑出土遺物(11)



### 3 その他の遺構

#### (1) 焼土状遺構

##### 第301号焼土状遺構 (図474・図476)

- 【位置】 NH・NI-450グリッドに位置する。  
 【平面形・規模】 長軸1m50cm、短軸78cm不整形である。  
 【堆積土】 焼土は明褐色土中に厚さ7cmで堆積している。  
 【出土遺物】 土師器が出土している。

(櫻井有一)

##### 第302号焼土状遺構 (図474)

- 【位置】 NF-445グリッドに位置する。  
 【平面形・規模】 長軸78cm、短軸65cmの不整形である。土坑状に落ち込み、深さ34cmである。  
 【堆積土】 黒褐色土を主体とした8層に分層され、1層に焼土が堆積している。炭化物和ローム粒を含み、人為的堆積であると考えられる。  
 【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第303号焼土状遺構 (図474)

[位置] NF-443・444グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m15cm、短軸1m14cmの円形である。土坑状に落ち込み、深さ44cmである。

[堆積土] 8層に分層される。2層に焼土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第304号焼土状遺構 (図474・図476)

[位置] ND・NE-444グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸1m17cm、短軸1m5cmの不整形である。深さ12cmである。

[堆積土] 黒褐色土を主体とした4層に分層される。1層に焼土が堆積している。

[出土遺物] 土師器が出土している。

(櫻井有一)

第305号焼土状遺構 (図475)

[位置] NH-445グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸78cm、短軸75cmの円形である。

[堆積土] 厚さ4cmで焼土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第306号焼土状遺構 (図475)

[位置] NQ-441グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸84cm、短軸83cmの不整形である。深さは24cmである。

[堆積土] 3層に分層され、1層に焼土が堆積している。

[出土遺物] 土師器が出土している。

(櫻井有一)

第307号焼土状遺構 (図475)

[位置] NQ-440グリッドに位置する。

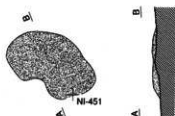
[平面形・規模] 長軸74cm、短軸73cmの楕円形である。

[堆積土] 明褐色土中に焼土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

301焼土



301焼土

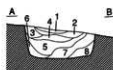
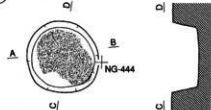
第1層 明褐色土 7.5YR5/8 ローム粒微量

302焼土



NG-446

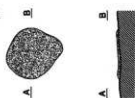
303焼土



303焼土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量 焼土粒微量  
 第2層 赤褐色土 5YR4/6 焼土層黒褐色土(10YR2/3)混入  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2  
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 L、B混入  
 第5層 黒褐色土 10YR2/1 暗黒褐色土(10YR3/3)混入  
 第6層 黒褐色土 7.5YR2/1  
 第7層 黒褐色土 10YR2/3 黒褐色土(10YR2/2)混入 L、B少量  
 第8層 黒色土 10YR1.7/1

305焼土



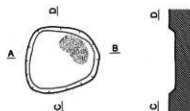
NH-446

305焼土

第1層 紅褐色土 5YR4/4 焼土層 炭化物微量

304焼土

NE-444



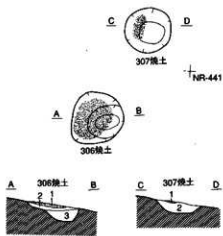
304焼土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黒色土中層混入 焼土粒・炭化物少量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 黒色土中層混入 焼土粒・炭化物微量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 褐色土混入 炭化物微量  
 第4層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土との混合土 焼土粒・炭化物微量

0 2m

図474 第301号・第302号・第303号・第304号・第305号焼土状遺構

306焼土・307焼土 308焼土

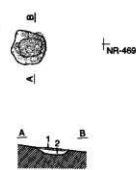


306焼土

- 第1層 黒色土 7.5YR2/1 明褐色土(10YR5/8)混入 炭化物少量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・炭化物・焼土粒少量

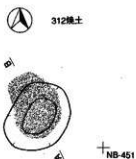
307焼土

- 第1層 黒褐色土 7.5YR3/1 暗赤褐色土(5YR3/6)混入
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量



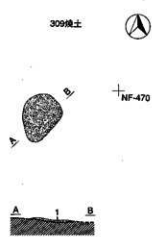
308焼土

- 第1層 灰・砂粘土 5YR4/4 焼土層 ローム粒微量
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒多量



312焼土

NB-451



309焼土

NF-470

309焼土

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 明褐色土(7.5YR5/8)混入 焼土粒混入 炭化物混入



312焼土

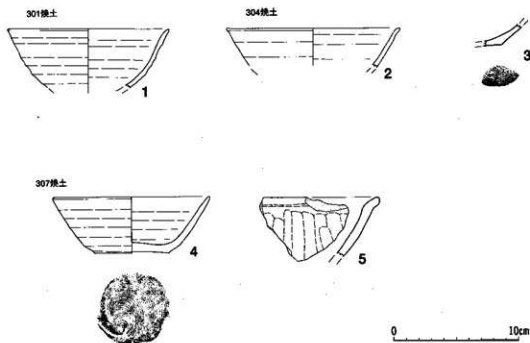
- 第1層 赤褐色土 5YR4/8 焼土ブロック しまり強
- 第2層 明褐色土 5YR5/8 焼土層 パミス・炭化物微量
- 第3層 褐色土 7.5YR4/6 パミス・焼土粒・炭化物微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量 焼土粒・炭化物微量

NB-451

0 2m

図475 第306号・第307号・第308号・第309号・第312号焼土状遺構





図版番号	種類	種別	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	301焼土層(フナ)	13.0	4.6	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	p.1
2	土師器	杯	301焼土層(フナ)	14.0	3.2	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B II	
3	土師器	杯?	304焼土層(フナ)	—	—	—	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	回転成形	B II	
4	土師器	杯	319焼土層(フナ)	12.4	4.4	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転成形	B II	p.3
5	土師器	甕?	319焼土層(フナ)	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナゲ	—	—	—	A	p.4

図476 焼土状遺構出土遺物

## 第308号焼土状遺構 (図475)

[位置] N J-468・469グリッドに位置する。

[平面形・規模] 長軸57cm、短軸53cmの楕円形である。

[堆積土] 暗褐色土中に焼土が堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第309号焼土状遺構 (図475)

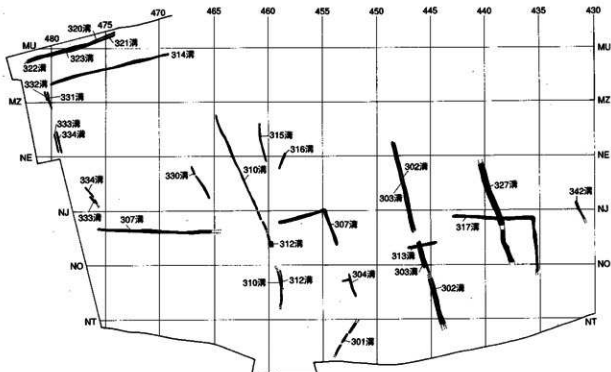
- [位置] NE-470グリッドに位置する。  
[平面形・規模] 長軸80cm、短軸60cmの不整形である。  
[堆積土] 暗褐色土中に深さ4cmで焼土が堆積している。  
[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(櫻井有一)

第312号焼土状遺構 (図475・図476)

- [位置] NA-450グリッドに位置する。  
[平面形・規模] 長軸1m20cm、短軸92cmの楕円形である。深さ18cmで落ち込む。  
[堆積土] 4層に分層され、2層に焼土が堆積している。  
[出土遺物] 土師器と礫石器が出土している。

(櫻井有一)



遺構配置図 (溝状遺構)

## (2) 溝状遺構

## 第301号溝状遺構 (図407)

〔位置〕 NT～NW-451～453グリッドに位置する。

〔規模〕 東西方向に直線的に走り、東端は削平されて不明である。東へ緩やかに傾斜する。幅65cm～25cm、深さ5cm～10cm、長さ13m10cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみ堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## 第302号溝状遺構 (図478・図488)

〔位置〕 ND～NT-443～448グリッドに位置する。第341号・第329号・第327号・第315号・第303号竪穴住居跡・第342号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。また第313号溝状遺構と直行して重複し、本遺構が古い。

〔規模〕 第303号溝状遺構に平行して、東西方向に直線的に走り、東へ緩やかに傾斜する。途中、NL-446付近で削平されている。幅30cm～52cm、深さ10cm～16cm、長さ73m25cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみ堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏や甕が出土している。

(齋藤由美子)

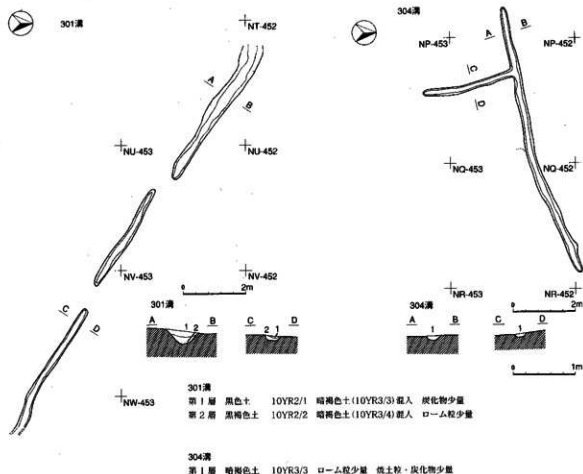


図477 第301号・第304号溝状遺構

## 第303号溝状遺構 (図178)

[位置] ND・NT-443～448グリッドに位置する。第341号、第329号・第327号・第315号・第303号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。また第313号溝状遺構とも直行して重複し、本遺構が古い。

[規模] 第302号溝状遺構に平行して、東西方向に直線的に走り、東へ緩やかに傾斜する。途中NL-446、NO-446付近で削平される。幅30cm～63cm、深さ9cm～12cm、長さ66m65cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみ堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏や甕が出土している。

(齋藤由美子)

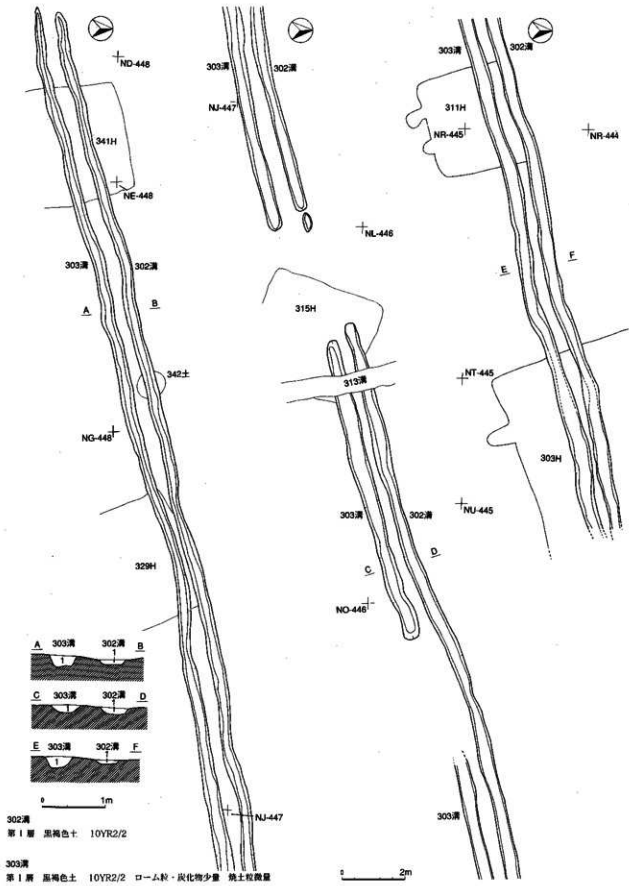


図478 第302号・第303号溝状遺構

第304号溝状遺構 (図477・図488)

[位置] NO～NQ-451～453グリッドに位置する。

[規模] 東西方向に直線的に走り NP-452付近で南方向と東方向へ分岐する。東へ緩やかに傾斜し、分岐点から、南へ傾斜している。幅40cm～26cm、深さ5cm～18cm、長さ8m95cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみ堆積している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第307号溝状遺構 (図479・図480)

[位置] NK-454～459、NJ-464～476、NK～NM-453・454グリッドに位置する。第323号・第352号・第493号・第479号・第488号・第489号・第451号・第452号・第368号・第456号・第367号竪穴住居跡、第316号・第323号土坑と重複し、本土坑が最も新しい。

[規模] 南北方向に直線的に走り、NJ-455付近で東方向へ直角に曲がる。北へ緩やかに傾斜し、NJ-455付近から東へ傾斜する。幅45cm～98cm、深さ12cm～40cm、長さ70m74cmを測る。

[堆積土] 黒色土を主体とした2層に分層される。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第310号溝状遺構 (図481・図488)

[位置] NA～NI-459～464、NO～NR-458・459グリッドに位置する。第460号・第461号・第395号・第365号・第364号竪穴住居跡、第363号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。

[規模] 東西方向へ直線的に走り、東へ傾斜する。一部第312号溝状遺構と平行する。幅25cm～45cm、深さ5cm～18cm、長さ65m49cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみ堆積している。

[出土遺物] 覆土より土師器の甕と須恵器の坏が出土している。

(齋藤由美子)

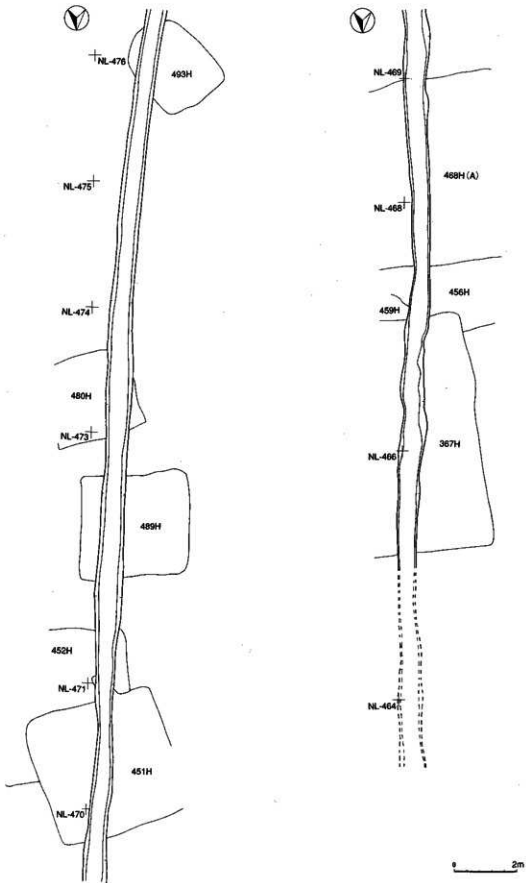


図479 第307号溝状遺構(1)

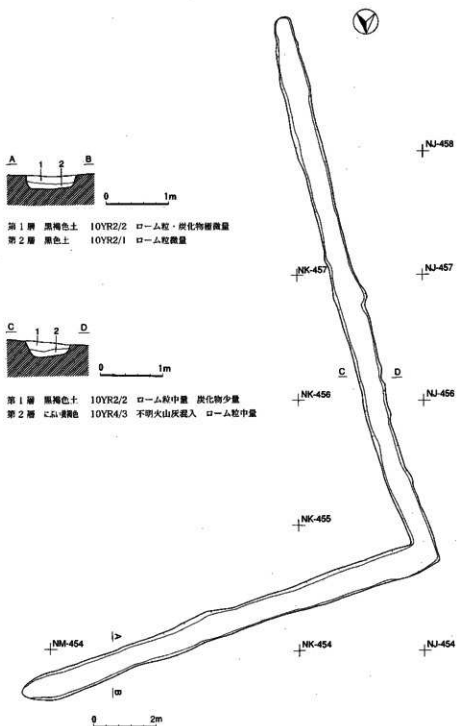


図480 第307号溝状遺構(2)



## 第312号溝状遺構 (図481)

〔位置〕 NM-459、NO-458グリッドに位置する。

〔規模〕 東西方向に走り、東へ緩やかに傾斜する。第310号溝状遺構と平行する。幅32cm、深さ13cm、長さ8mを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみ堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## 第313号溝状遺構 (図483)

〔位置〕 NL・NM-444～447グリッドに位置する。第315号竪穴住居跡、第302号・第303号溝状遺構と重複し、本遺構が最も新しい。

〔規模〕 南北方向に直線的に走り、南へ傾斜する。幅50cm～82cm、深さ12cm～25cm、長さ6m23cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみ堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## 第314号溝状遺構 (図482)

〔位置〕 MU～MX-470～481グリッドに位置する。第393号・第392号・第373号・第376号竪穴住居跡、第374号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。

〔規模〕 南北方向に直線的に走り、北へ傾斜する。MU-469以北は平成10年度に調査を行ったため、次年度の報告書に記載する。幅34cm～98cm、深さ10cm～40cm、長さ49m88cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみ堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## 第315号溝状遺構 (図483)

〔位置〕 NB～NE-460グリッドに位置する。第360号・第359号竪穴住居跡、第355号・第356号・第359号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。

〔規模〕 東西方向へ直線的に走り、緩やかに東へ傾斜する。幅40cm～62cm、深さ12cm～18cm、長さ14m14cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土のみ堆積している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

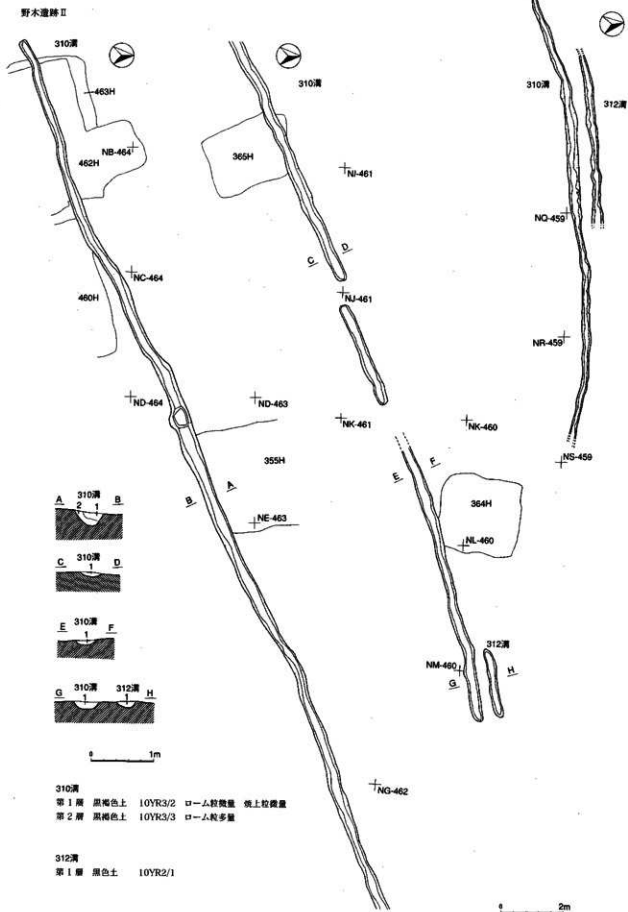
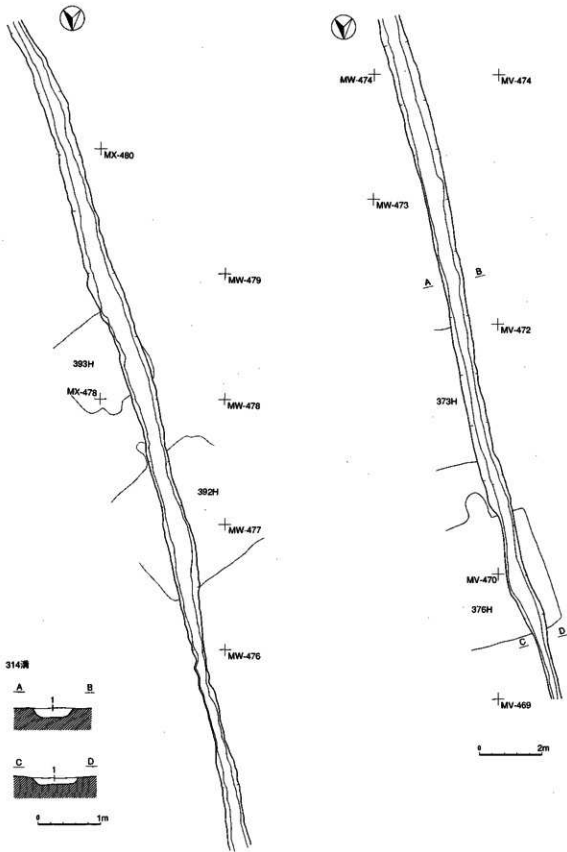


図481 第310号・第312号溝状遺構



314溝  
 第1層 灰褐色土 10YR2/3 ローム粒微細 炭化物粒少量

図482 第314号溝状遺構

第316号溝状遺構 (図483)

[位置] NE-458グリッドに位置する。第358号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[規模] 北西から南東に直線的に走り、南東に傾斜する。幅32cm~40cm、深さ18cm~28cm、長さ10m25cmである。

[堆積土] 黒褐色の層のみである。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第317号溝状遺構 (図484・図488)

[位置] NJ-435~444、NK~NO-435グリッドに位置する。第337号・第349号・第409号竪穴住居跡、第327号溝状遺構と重複し、本遺構が最も新しい。

[規模] 南北方向に直線的に走り、NJ-435付近で東へほぼ直角に曲がる。北へ緩やかに傾斜し、NJ-435付近から東へ傾斜する。幅50cm~98cm、深さ12cm~34cm、長さ49m92cmを測る。

[堆積土] 黒色土を主体とする2層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕と坏が出土している。

(齋藤由美子)

第320号・第321号・第322号・第323号溝状遺構 (図485・図489)

[位置] MS~MV-473~482グリッドに位置する。第378号・第379号・第400号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。溝の新旧関係は不明である。

[規模] 南北方向に走り、北へ緩やかに傾斜する。

第320号溝は、幅24cm~36cm、深さ18cm~22cm、長さ14m28cm、第321号溝は幅55cm~46cm、深さ15cm~16cm、長さ14m52cm、第323号溝は、幅24cm~28cm、深さ24cm~30cm、長さ11m40cm、第322号溝は幅28cm~30cm、深さ18cm~23cm、長さ17m28cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土を主体とした層のみである。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏や甕が出土している。

(齋藤由美子)

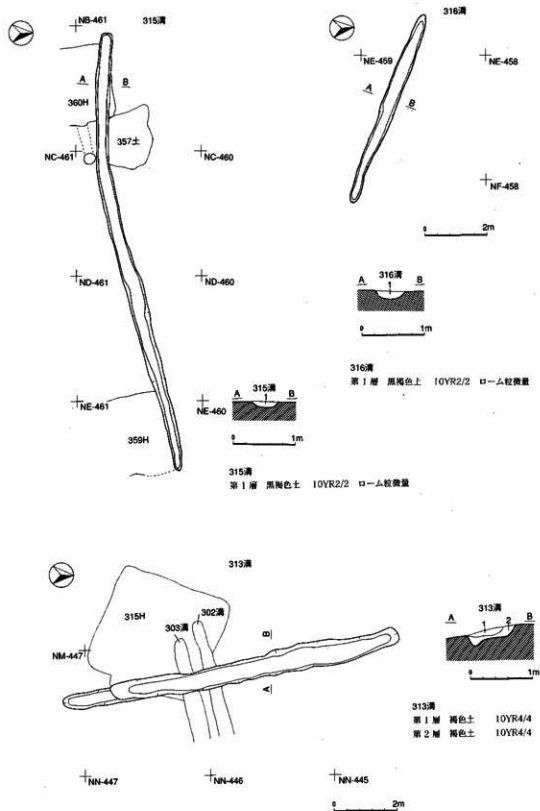


図483 第313号・第315号・第316号溝状遺構

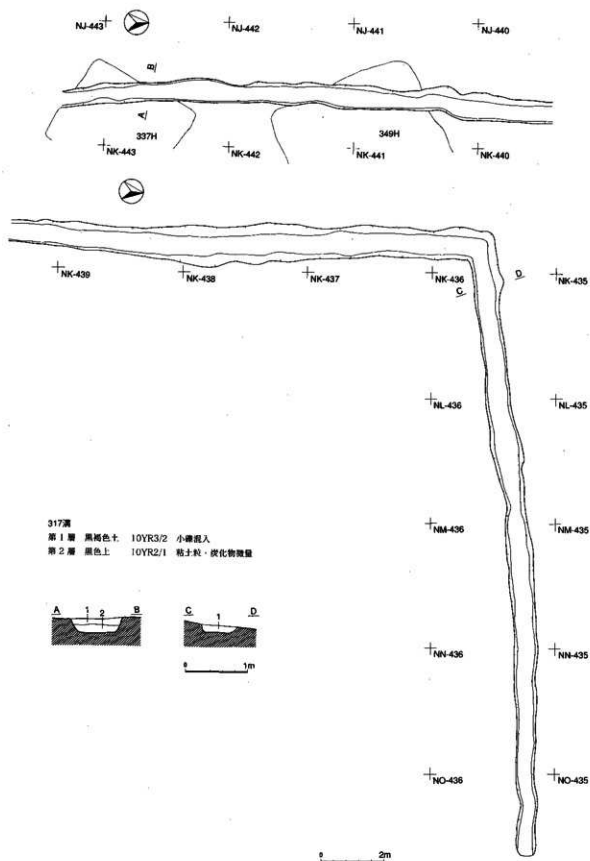
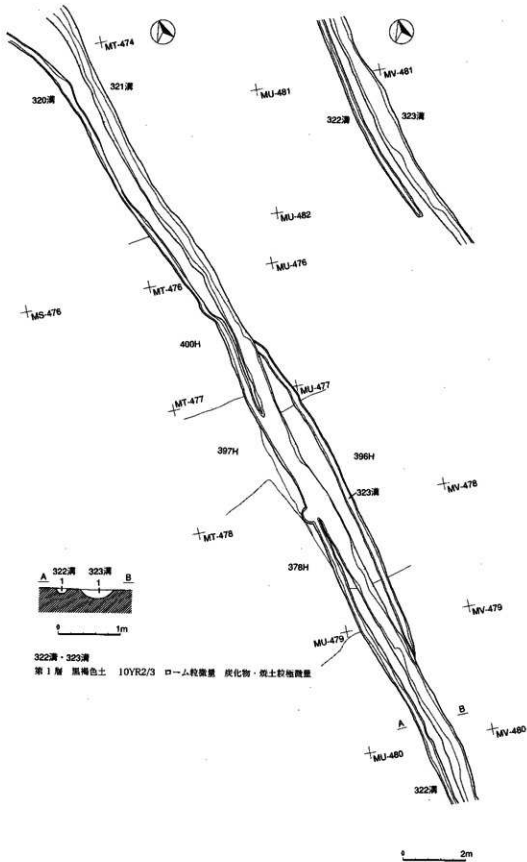


图484 第317号溝状遺構



322溝・323溝

第1層 黒褐色土 10YR2/3 □—人殺痕量 炭化物・炭土粒痕量

図485 第320号・第321号・第322号・第323号溝状遺構

第330号溝状遺構 (図486)

[位置] NB～ND-466・467グリッドに位置する。

[規模] 南北方向に直線的には走り、南西から北東へ傾斜する。幅17cm～40cm、深さ28cm～32cm、長さ13m40cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみである。

[出土遺物] 覆土から土師器が出土している。

(齋藤由美子)

第331号溝状遺構 (図486)

[位置] MY・NA-480グリッドに位置する。

[規模] 東西方向へ直線的に走り、東に傾斜する。第332号溝状遺構と平行する。幅18cm～20cm、深さ11cm～19cm、長さ14m26cmを測る。

[堆積土] 黒褐色の層のみである。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第332号溝状遺構 (図486)

[位置] MY-480グリッドに位置する。

[平面形・規模] 東西方向に走り、東へ緩やかに傾斜する。第331号溝状遺構と平行する。幅17cm、深さ11cm～19cm、長さ8m18cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみである。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

第333号溝状遺構 (図487)

[位置] NC～NF-479・480、NI～NJ-475・476グリッドに位置する。

[規模] 東西方向に走り、東へ緩やかに傾斜する。一部第334号溝と平行する。幅17cm～23cm、深さ12cm～22cm、長さ21m64cmを測る。

[堆積土] 黒色土の層のみである。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)



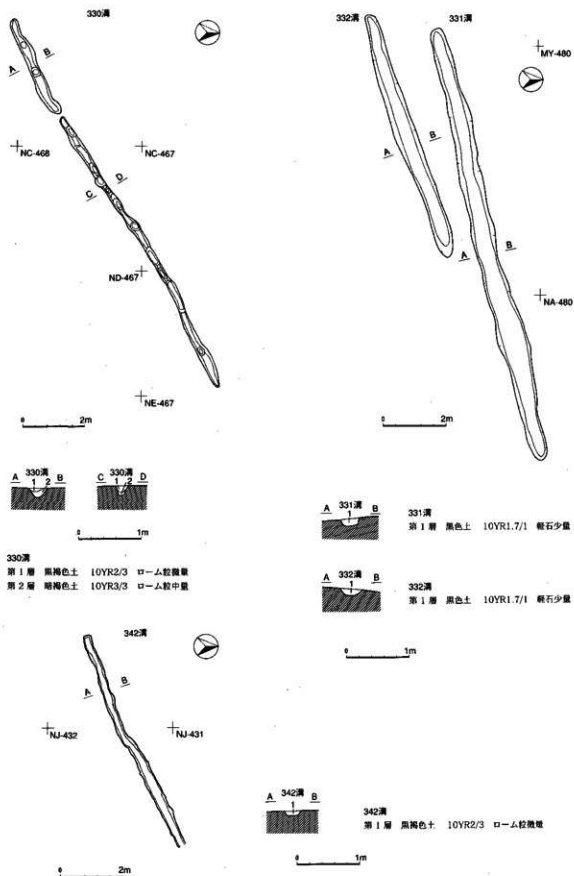


図486 第330号・第331号・第332号・第342号溝状遺構

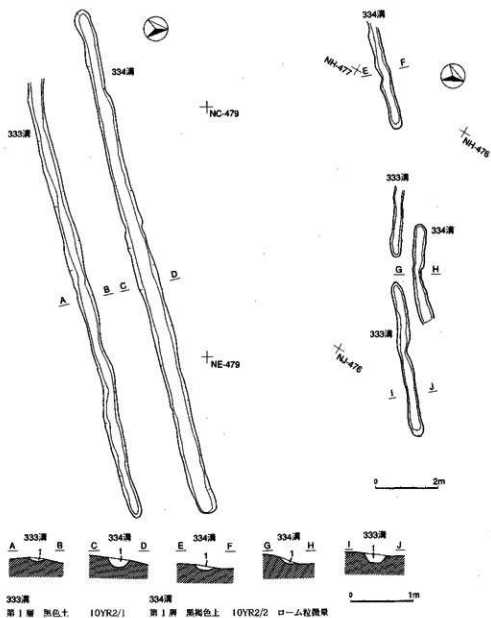


図487 第333号・第334号溝状遺構

第334号溝状遺構 (図487・図489)

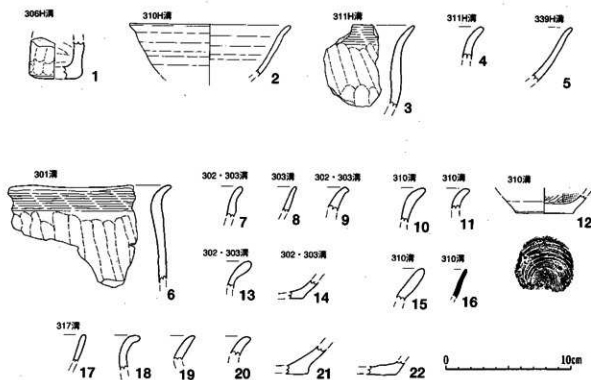
[位置] NB～NF-479、NH・NI-475グリッドに位置する。

[規模] 東西方向に走り、東へ緩やかに傾斜する。幅52cm～62cm、深さ12cm～18cm、長さ13m58cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土の層のみである。

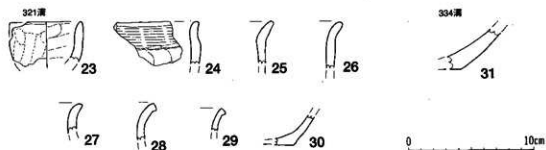
[出土遺物] 覆土から土師器の甕の底部が出土している。

(齋藤由美子)



図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口径部	器上半	器下半	口径部	器上半	器下半				
1	土師器	小笠土層 309H フタ土	—	—	(4.2)	—	—	—	—	—	—	ヘラナテ	ナツケ	—	
2	土師器	坪 310H フタ土	(12.6)	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B II	
3	土師器	壺 310H フタ土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	—	A	内面炭化物付着
4	土師器	壺 311H フタ土	—	—	—	ヨコナテ?	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
5	土師器	坪 330H フタ土	—	—	—	不明	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B II	P-10 断面
6	土師器	壺 301 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	—	A	
7	土師器	壺 302・303 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
8	土師器	坪 303 フタ土	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B II	
9	土師器	壺 302・303 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
10	土師器	壺 302・303 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
11	土師器	坪 310 フタ土	—	—	(4.6)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	糸切り?	—	B II	
12	土師器	壺 310 フタ土	—	—	—	ヘラナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
13	土師器	壺 310 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
14	土師器	坪 310 フタ土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	—	B I	内面黒色付着
15	土師器	壺 310 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
16	須恵器	坪 310 フタ土	—	(2.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	
17	土師器	坪 317 フタ土	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	—	—	—	—	B I	内面黒色付着
18	土師器	壺 317 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
19	土師器	壺 317 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
20	土師器	壺 317 フタ土	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	—	A	
21	土師器	壺 317 フタ土	—	—	—	—	—	不明	—	—	ヘラナテ	砂底?	—	A?	
22	土師器	壺 317 フタ土	—	—	—	—	—	不明	—	—	ヘラナテ	砂底?	—	A?	

図488 溝状遺構出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
23	土師器	小型+蓋	32J フタ上	—	—	—	ヘラナテ	—	—	ヘラナテ	—	—	—	—	
24	土師器	蓋	32J フタ上	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ?	—	ヘラナテ	—	—	—	A	輪郭既
25	土師器	蓋	32J フタ上	—	—	—	ヘラナテ?	—	—	ヘラナテ	—	—	—	A	
26	土師器	蓋	32J フタ上	—	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
27	土師器	蓋	32J フタ上	—	—	—	ヨコナテ?	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	
28	土師器	蓋	32J フタ上	—	—	—	ヨコナテ	—	—	ヨコナテ	—	—	—	A	
29	土師器	蓋?	32J フタ上	—	—	—	ヘラナテ?	—	—	ヘラナテ	—	—	—	A	
30	土師器	坏	32J フタ上	—	—	—	—	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	未切り	BⅡ
31	土師器	蓋	33J フタ上	—	—	—	—	—	ヘラナテ?	—	—	ヘラナテ	ナデツケ?	A	

図489 溝状遺構出土遺物(2)

## 第342号溝状遺構 (図486)

【位 置】 N1・NJ-431グリッドに位置する。

【規 模】 南東から北東に向かって直線的に走り、北東へ緩やかに傾斜する。幅26cm～43cm、深さ15cm～23cm、長さ7m42cmを測る。

【堆積土】 黒褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

(齋藤由美子)

## (3) 畝状遺構

## 第301号畝状遺構 (図490・図491)

[位置] MY～NC-468～472グリッドに位置する。第497号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 長さ1m35cm～15m74cm、幅12～88cm、深さ2～19cmの溝が27条16列検出された。

[堆積土] 2層に分層される。Ⅱ層から掘り込まれており、1層にはB-Tm火山灰がブロック状に多量に含まれる。2層には炭化物・焼土が極わずかに含まれる。

(田中珠美)

## 第302号畝状遺構 (図491)

[位置] NA～NC-472～474グリッドに位置する。第370号・第471号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。

[平面形・規模] 長さ90cm～4m22cm、幅20～100cm、深さ2～22cmの溝が12条7列検出された。

[堆積土] 2層に分層される。1層はB-Tm火山灰層である。黒褐色土が混入する。2層には炭化物・焼土が極わずかに含まれる。

(田中珠美)

## 第303号畝状遺構 (図491)

[位置] NC・ND-475・476グリッドに位置する。第443号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 長さ1m23cm～3m70cm、幅14～56cmの溝が6条5列検出された。

[堆積土] 1層にはB-Tm白頭山火山灰が多量にブロック状に混入する。

(田中珠美)

野木遺跡Ⅱ

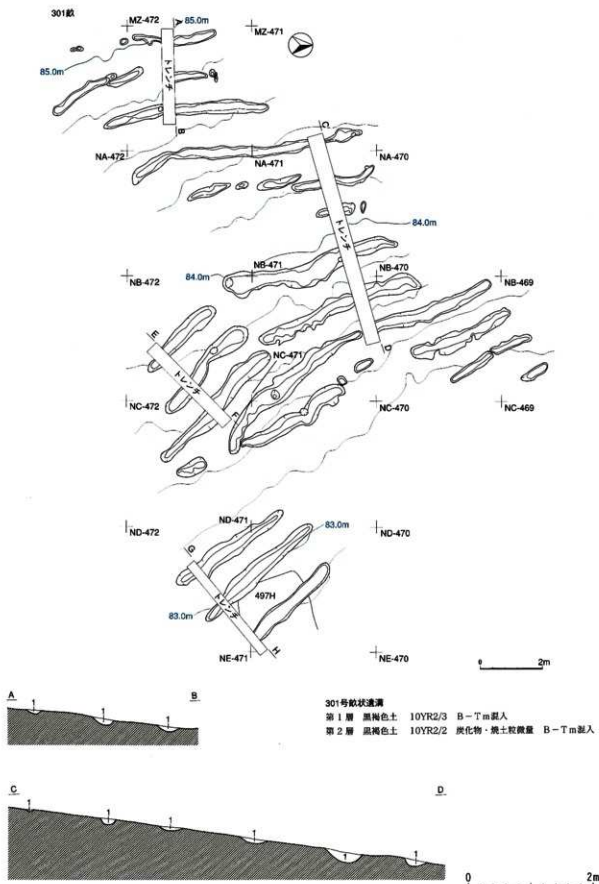


図490 第301号竪状遺溝

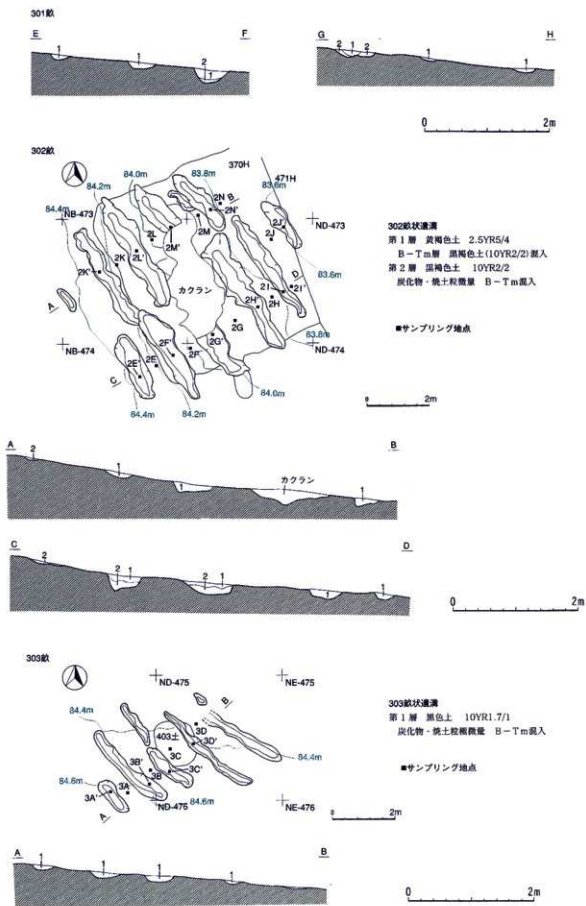


図491 第301号・第302号・第303号畝状遺構

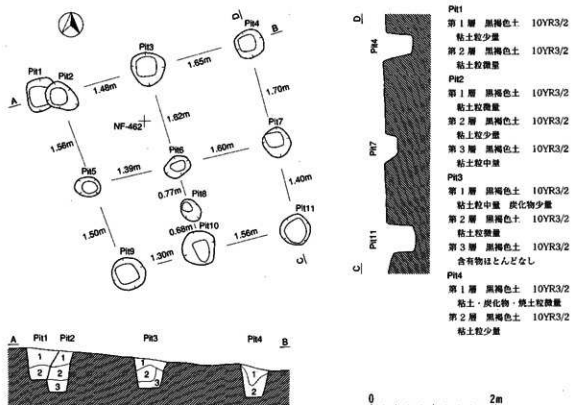


図492 第301号掘立柱建物跡

## (4) 掘立柱建物跡

## 第301号掘立柱建物跡 (図492)

〔位置〕 NE・NF-461・462グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 東西2間、南北2間の建物跡である。東西はビット2～4・3m13cm、ビット5～7・2m99cm、ビット9～11・2m86cm、南北はビット2～9・3m6cm、ビット3～10・3m7cm、ビット4～11・3m10cmで、北がやや広がった方形を呈する。柱間は130～170cmである。検出されたビットは11で、楕円形または方形である。それぞれの柱穴の規模と確認面からの深さは、ビット1・53×(46)cm・深さ46cm、ビット2・径58×42cm・深さ68cm、ビット3・径55×52cm・深さ47cm、ビット4・47×46cm・深さ45cm、ビット5・径43×33cm・深さ65cm、ビット6・径44×36cm・深さ27cm、ビット7・44×46cm・深さ18cm、ビット8・径30×40cm・深さ20cm、ビット9・径55×53cm・深さ54cm、ビット10・52×56cm・深さ40cm、ビット11・径50cm・深さ51cmである。ビット1とビット2が重複しており、立て替える可能性もある。

〔堆積土〕 いずれのビットの堆積土も黒褐色土を主体とし、粘土粒・焼土粒・炭化物をわずかに混入する。

〔出土遺物〕 ビットのフク土から土師器片が出土している。



## 第2節 遺構外出土遺物

出土した遺物は、平成9年度の調査で、段ボール箱に181箱分出土した。

そのうち大部分が平安時代の遺物である。

### (1) 土師器

土師器、須恵器の分類にあたって、出土量の大半を占める土師器を主体に、器種、形態、製作技法から細分し、須恵器についてはその共伴関係を明らかにするに留めた。

なお、土師器と酸化焼成された須恵器についても色調からの分類は避け、胎土、焼成上の相違から生ずる黒斑、火禿、重ね焼き痕等によりいずれかに分類した。

本遺跡から出土した土師器には坏、甕、壺、鉢、高台付坏、埴の器種があり、出土量の多いのは坏、甕、壺、鉢で、特に坏、甕が大半を占め、坏、甕、壺、鉢を主に形態・製作技法から次のように分類した。高台付坏、埴については、出土点数が少ないので分類は行わなかった。

【坏形土器】 坏には皿、椀に近いものも存在するが一括して分類する。ロクロ使用の有無から大別し、次に黒色処理からそれぞれ二分、さらにロクロ不使用坏では形態、調整技法から、ロクロ使用坏では調整技法から細分した。なお、黒色処理には内面だけにとどまらず外面に及んでいるものも存在するがここでは一括する。

#### A類（ロクロ不使用）

##### A I類（黒色処理するもの）

A I a類 体部が丸味をもって外傾し、底部も丸味をもつもの。

内面はいずれもヘラミガキ、外面体部下半にはヘラミガキとヘラケズリ調整のあるもの。

A I b類 器高が低く皿状で、底部が丸底のもの。

内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

A I c類 体部が内湾気味に立ちあがり、底部が丸味をもつもの。

内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

A I d類 体部が外傾し、底部が平底に近い丸底のもの。

内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

A I e類 底部が平底のもの。

内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

##### A II類（黒色処理しないもの）

A II a類 体部が丸味をもって外傾し、底部も丸味をもつもの。

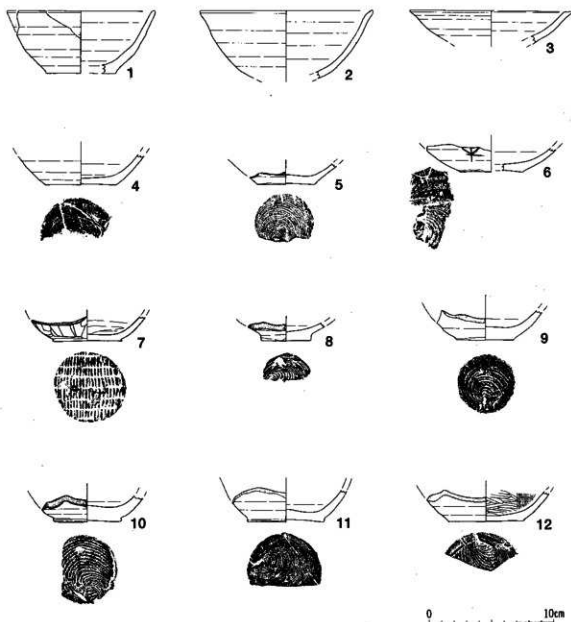
外面をヘラナデ、内面はヘラナデ後ヘラミガキ調整してあるもの。

A II b類 器高が低く皿状で、底部が丸底のもの。

内外面をヘラナデ調整してあるもの。

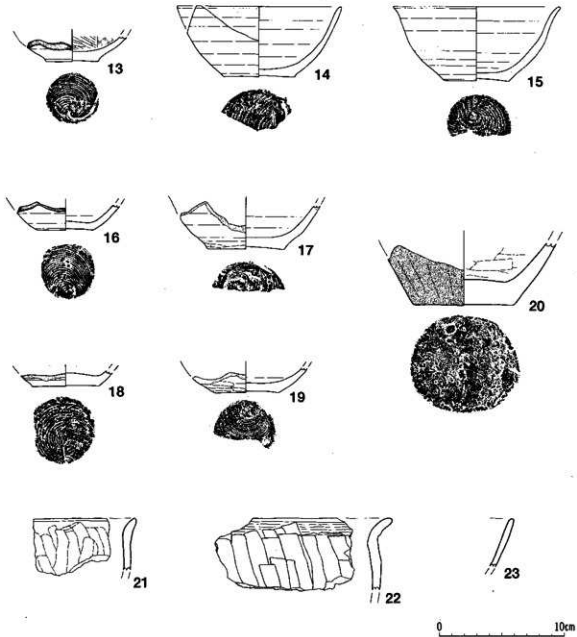
A II c類 体部が内湾気味に立ちあがり、底部が丸味をもつもの。

内外面共ヘラナデ調整してあるもの。



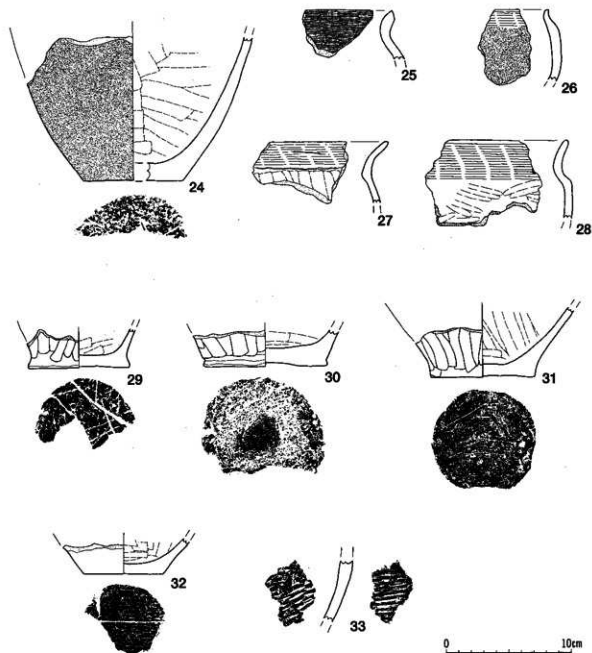
別取 器号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	NO-386-440-445	(12.0)	4.7	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	河転糸切り	BⅡb	
2	土師器	杯	NR-452	(14.0)	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
3	土師器	杯(圓)	NI-450	(13.0)	(2.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
4	土師器	杯	336-338	—	(2.5)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ユビナア	河転糸切り	BⅡ	
5	土師器	杯	NP-NO-430-435	—	(1.7)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	河転糸切り	BⅡ	
6	土師器	杯	NO-NP-440-441	—	(3.0)	(5.0)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	河転糸切り	BⅡ	野倉
7	土師器	杯(圓)	NI-450	—	(2.0)	(15.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナア	網シロ痕	A	
8	土師器	杯(圓)	MP-440	—	(1.3)	(4.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	河転糸切り	BⅡ	
9	土師器	杯(圓)	NO-NR-445	—	(2.4)	(4.6)	—	—	ロクロ	—	—	不明	糸切り?	BⅡ	
10	土師器	杯(圓)	NI-445	—	(2.1)	(5.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	河転糸切り	BⅡ	内蔵部は削り直し
11	土師器	杯(圓)	NA-452	—	(2.7)	6.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	河転糸切り	BⅡ	p-1
12	土師器	杯(圓)	NO-380	—	(2.7)	6.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅠ	内蔵部は削り直し

図493 遺構外出土土師器(1)



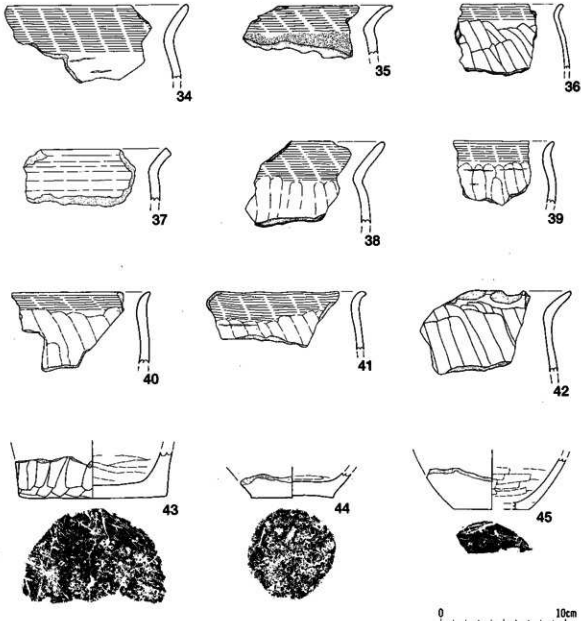
図版番号	種別	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	土師器	杯	NE-NL-461 1層	—	(2.0)	(4.2)	—	—	ロクロ?	—	—	ヘラナデ?	刷毛糸切り	B I	内面褐色地層
14	土師器	杯	NC-456 1層	—	(5.6)	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	刷毛糸切り?	刷毛糸切り	B II b	
15	土師器	杯	ME-NL-457-460 1層	—	(6.0)	(5.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	刷毛糸切り?	刷毛糸切り	B II b	
16	土師器	杯	NE-458 1層	—	(2.2)	4.4	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ	刷毛糸切り	B II	
17	土師器	杯	ME-470 1層	—	(3.8)	(6.0)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	刷毛糸切り ヘラナデ	B II	
18	土師器	杯	NC-472 1層	—	(1.1)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ?	刷毛糸切り?	B II	
19	土師器	杯	NO-442 1層	—	(2.3)	5.0	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	刷毛糸切り	B II	
20	土師器	壺	NI-NC-459-485 1層	—	(5.2)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナツツク	A	外周粘土付層
21	土師器	壺	NC-458 1層	10.0	(4.9)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
22	土師器	壺	NI-433 1層	(20.0)	(5.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
23	土師器	杯	NC-475 1層	(14.0)	(3.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	

図494 遺構外出土土師器 (2)



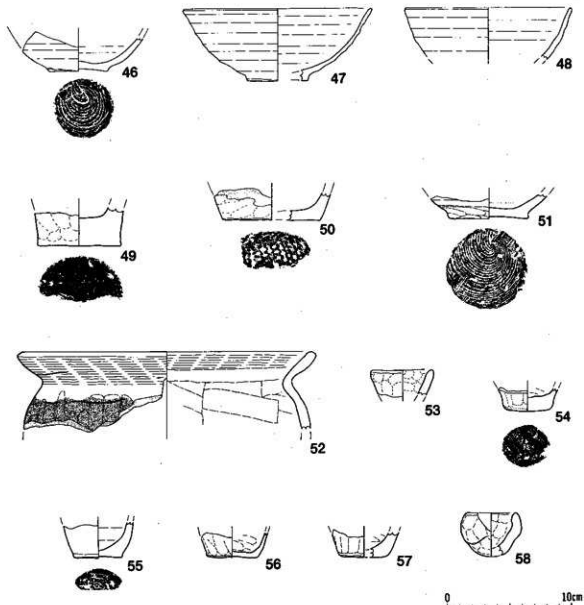
図版番号	種	器	類	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
					口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
24	土師器	甕	甕	NE-435 1層	—	(11.5)	(8.0)	—	—	ヘラナデ ヘラゲズリ	—	—	ヘラナデ	A	外縁粘土付着	
25	土師器	甕	甕	NE-440 440-445	(5.0)	(3.9)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	A	内外面黒色結膜	
26	土師器	甕	甕	NE-443 1層	—	(6.0)	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	外縁粘土付着	
27	土師器	甕	甕	NE-443 1層	20.0	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	縁部底	
28	土師器	甕	甕	ME-450-455	(15.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	A	—	
29	土師器	甕	甕	NO-440 440-445	—	(3.0)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木炭痕	A	
30	土師器	甕	甕	NO-442 1層	—	(2.9)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂痕 ヘラナデ	A	
31	土師器	甕	甕	NO-NR 440-445	—	(5.5)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナゲツケ	A	
32	土師器	甕	甕	NI-444 1層	—	(2.9)	6.4	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	外縁結膜
33	土師器	甕	甕	ME-451 1層	—	—	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目	—	—	—	タタキ目

図495 遺構外出土土師器 (3)



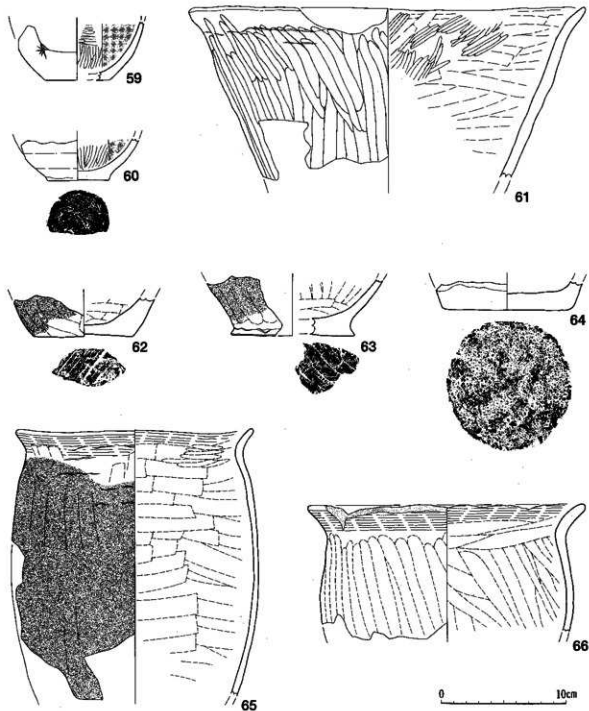
図版 番号	種 類	土器種別	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備 考	
			口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
34	土師器	甕	NL-445 1層	(18.0)	(6.2)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭成
35	土師器	甕	MPW-451 1層	—	(4.4)	—	ヨコナテ	ナテ?	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	多量灰付製成
36	土師器	甕	NL-NL 455-499 1層	(16.0)	(5.9)	—	ヨコナテ	ヘラケズリ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
37	土師器	甕	NC-456 1層	(24.0)	(4.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	A	
38	土師器	甕	NL-NL 465-476 1層	(22.0)	—	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	
39	土師器	甕	NL-NL 480-491 1層	(12.4)	(4.9)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭成
40	土師器	甕	NL-NL 473 1層	(20.0)	(5.9)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭成
41	土師器	甕	NL-473 1層	(26.0)	(4.4)	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	ヨコナテ	ヘラナテ	—	—	A	輪郭成
42	土師器	甕	NL-474 1層	(20.0)	(6.2)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナテ	ヘラナテ	—	—	A	
43	土師器	甕	ME-455 1層	—	(3.6)	12.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナテ	砂流 ヘラナテ	—	
44	土師器	甕	NL-456 1層	—	(1.7)	(6.6)	—	—	不明	—	—	ヘラナテ	多量 灰付	A	
45	土師器	甕	NC-456 1層	—	(4.0)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナテ	ヘラナテ	A	

図496 遺構外出土土師器 (4)



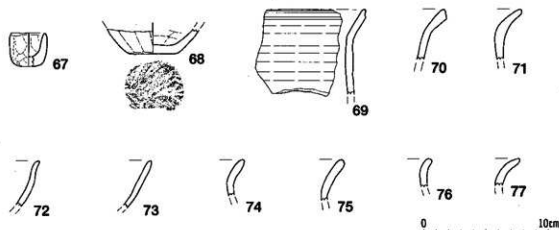
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
46	土師器	坏	表探	—	(3.2)	4.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ		
47	土師器	坏	表探	(15.4)	(5.8)	(5.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb		
48	土師器	坏	表探	13.4	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ		
49	土師器	甕	表探	—	(3.1)	6.8	—	—	ユビナデ?	—	—	不明	ナデツケ	A		
50	土師器	甕	表探	—	(2.2)	(8.0)	—	—	ナデ?	—	—	—	ヘラナデ	A	底面調整	
51	土師器	甕	表探	—	(2.0)	6.0	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B		
52	土師器	甕	表探	(24.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	底面調整 外周部土付着	
53	土師器	小型土器	表探	(5.0)	(2.2)	—	ユビ圧痕 (ナデ?)	ユビ圧痕 (ナデ?)	—	ユビ圧痕 (ナデ?)	—	—	—	—	—	
54	土師器	小型土器	表探	—	(1.8)	(3.6)	—	—	ユビ圧痕 (ナデ?)	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	
55	土師器	小型土器	表探	—	(4.8)	(2.7)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	糸切り?	—	—	
56	土師器	小型土器	表探	—	(2.0)	(4.0)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ナデ	ナデツケ	—	—	
57	土師器	小型土器	表探	—	(2.0)	(4.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	—	—	
58	土師器	小型土器	表探	(4.0)	3.5	(2.0)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ (ユビ圧痕)	ナデ (ユビ圧痕)	ナデ (ユビ圧痕)	ナデ	—	—	

図497 遺構外出土土師器 (5)



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
59	土師器	杯	表採	—	(5.0)	(5.0)	—	—	口クロ	—	—	ヘラミガキ	糸切り?	B I	内面褐色粘厚 剥離	
60	土師器	杯	表採	—	(3.4)	5.0	—	—	口クロ	—	—	ヘラミガキ	剥離糸切り	B I	内面褐色粘厚	
61	土師器	扁 底	NC-470 層	32.0	(13.9)	—	ヘラミズリ	ヘラミズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	—	器底面 赤褐色粘厚 剥離
62	土師器	壺	表採	—	(3.8)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	外周縁上打磨	
63	土師器	壺	表採	—	(5.0)	(10.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	木蓋痕	A	外周縁上打磨	
64	土師器	壺	表採	—	(3.0)	10.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂点 ヘラナデ	A	—	
65	土師器	壺	表採	18.8	(21.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外周縁上打磨 輪磨痕	
66	土師器	壺	表採	22.2	(11.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	—	

図498 遺構外出土土師器(6)



図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)				外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
			口径	胎高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
67	土師器 小型土器	I層	—	(2.9)	(2.0)	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	—	A	001B
68	土師器 甕	I層	—	—	(4.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A	001B
69	土師器 甕 (トシホ)	I層	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B	001B
70	土師器 甕	I層	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	B	001B
71	土師器 甕 (トシホ)	I層	—	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	—	A	001B
72	土師器 罎	I層	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	BⅡ	001B
73	土師器 罎	I層	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	BⅡ	黒色処理せず (005B)
74	土師器 甕	I層	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	A	002B
75	土師器 甕	I層	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	A	002B
76	土師器 甕	I層	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	A	002B
77	土師器 甕	I層	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	—	A	002B

図499 遺構外出土土師器 (7)

AⅡd類 体部が外傾し、底部が平底に近い丸底のもの。

外面ヨコナデとヘラケズリ、内面はヘラナデ調整してあるもの。

AⅡe類 底部が平底のもの。

内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

AⅠ類 (黒色処理するもの) 土器は全般に調整は丁寧で、しかも胎土が緻密であるが、AⅡ類 (黒色処理しないもの) 土器は比較的調整も雑で、さらに小・中の砂粒を含み胎土は共存する甕に酷似している場合が多い。

B類 (ロクロ使用)

BⅠ類 (黒色処理するもの)

BⅠa類 底部、体部下半に再調整するもの。

内面をヘラミガキ調整してあるもの。

BⅠb類 底部、体部共に再調整がないもの。

内面をヘラミガキ調整してあるもの。

BⅠc類 内外面共ヘラミガキ調整してあるもの。

BⅡ類 (黒色処理しないもの)

BⅡa類 底部、体部下半に再調整するもの。



内面に部分的なヘラミガキ調のあるもの。

B II b 類 底部、体部共に再調整がないもの。

B 類土器も体部が口縁部まで外傾するもの、体部で脰らみ口縁部の外反するもの、そのまま立ちあがるもの、体部から口縁部までそのまま立ちあがるものなどがあるが細分しない。a の再調整はいずれも手持ちヘラケズリ調整で、回転糸切り後再調整しているものと再調整が底部全面に及んでいるため切り離し技法の不明なものとあり、b の切り離し技法はいずれも回転糸切りである。内面のヘラミガキ調整は黒色処理した坯のように全面に及んでおらず、部分的で特に底面を中心に調整されているものが多い。

【壺形土器】 甕には、長胴甕、中甕、小甕とありそれぞれロクロ使用の有無から分類し、さらに形態、調整技法から次のように細分される。

A 類 (ロクロ不使用)

A I 類 (長胴甕、器高20cm以上)

A I a 類 口縁部が長く外反して、体部は直線的で底径が小さくすぼまり、底部内面がやや丸味をもっているもの。

内外面ともに体部を縦方向や横方向にヘラナデ調整している。

A I b 類 口縁部が長く外反し、底径がやや大きく、内面底部の平坦なもの。

体部の形態から直線的な b 1 と中央でやや膨らむ b 2 とがある。

いずれもヘラナデ調整している。

A I c 類 口縁部が外反して、外傾し、底径がやや大きく内面底部の平坦なもの。

体部の形態から下半で膨らむ c 1、上半でやや膨らみ直線的な c 2、中央でかなり膨らみ最大径が体部中央にある c 3 に分けられる。

A I d 類 口縁部がやや短く外反し、体部上半に最大径のあるもの。調整技法には体部外面をヘラナデ、ヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。

A I e 類 口縁部が短く屈曲するもので、体部の形態から直線的な e 1 とやや膨らむ e 2 に分けられる。いずれも口縁部がヨコナデ、体部外面がヘラケズリ、内面ヘラナデ調整している。

A I 類は、いずれも胎土に砂粒を多量に含み粗い土器が多い。

A II 類 (中甕、器高14~17cm)

A II a 類 口縁部が長く外反し、体部が直線的で底径が小さいもの。内外面ともに体部を縦方向、口縁部を横方向にヘラナデ調整している。

A II b 類 口縁部が長く外反し、底径がやや大きいもの。内外面をヘラナデのものと、外面ヘラナデ、ヘラケズリ、内面ヘラナデ調整のものがある。

A II c 類 口縁部が直立し、体部外面がヘラケズリ後ヘラナデ、内面をヘラナデ調整している。

A II d 類 口縁部が外傾あるいは外反し、口唇部が外傾するものと丸味を持つものがある。体部は直線的である。体部外面はヘラナデ、ヘラケズリ、内面はヘラナデによる調整をしている。

A II e 類 口縁部が短く屈曲するもので、体部の形態から直線的な e 1 と膨らみややや丸味をもつ e 2 に分けられる。e 1 ではヘラナデ、ヘラケズリ調整するものと調整を省略しているた

め輪積痕がそのまま残存しているものがある。e 2は口縁部を指で押し当て、外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。

A II類も長胴甕のA I類と同じく砂粒を多く含む胎土にまばらに混入する。

A III類 (小甕、器高11cm以下)

A III a類 口縁部の長いもので、口縁部の形態には外反するa 1とやや内湾気味に外傾するa 2とがある。a 1は外面をヘラナデ、ヘラケズリ、内面をヘラナデ、a 2は内外面ともヘラナデによる調整をしている。

A III b類 口縁部がやや短く外傾するもので内外面をヘラナデ調整している。

A III c類 体部から口縁部までそのまま立ち上がるもの。体部外面をヘラナデするものと、ヘラケズリ調整するものがある。

A III d類 口縁部が短く屈曲するもので、体部の形態から直線的なd 1とやや膨らむd 2とある。

d 1では口縁部をヨコナデ、体部外面をヘラナデ、ヘラケズリ、内面をヘラナデ調整、

d 2では口縁部を指で押し当て、外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。

A III類も胎土に砂粒を含んで粗いものが多い。

B類 (ロクロ使用)

B I類 (大甕、器高20cm以上)

口縁部が短く屈曲し、口唇部を上につくり出している。体部内外面をロクロナデ調整している。体部外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整しているものもある。

B II類 (中甕、器高14cm~17cm)

口縁部が短く屈曲し、口唇部を上につくり出している。体部内外面をロクロナデ調整している。

B III類 (小甕、器高11cm以下)

口縁部が短く屈曲し、口唇部を上につくり出している。体部内外面をロクロナデ調整している。

【壺形土器】 壺は、形態と調整技法から次のように分類した。

A類 (ロクロ不使用)

A I類 口縁部が長く外反し、体部が球形のもの。内外面ともにヘラナデ調整している。

A II類 口縁部が長く外反し、体部上半で膨らむもの。内外面をヘラナデ調整している。

B類 (ロクロ使用)

B I類 口縁部が長く外反し、体部は球形で、体部内外面をロクロナデ調整している。

B II類 口縁部が長く外反し、体部上半で膨らむもの、外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。

【鉢形土器】 鉢は、ロクロ使用の有無から次のように分類した。

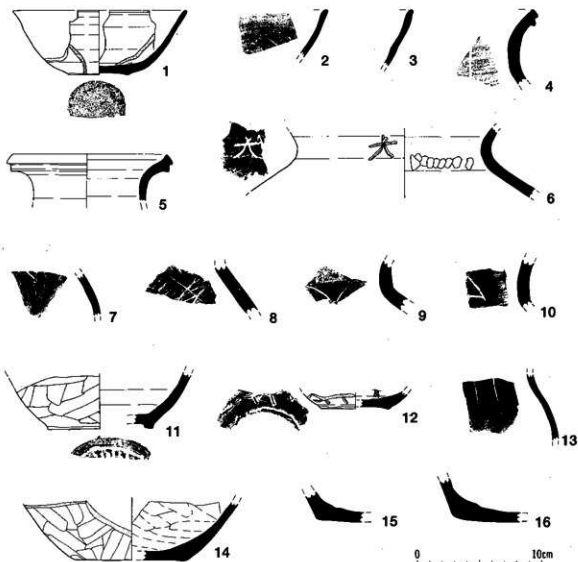
A類 (ロクロ不使用)

A I類 体部が外傾し底部は平底、内外面をヘラナデ調整している。

A II類 小型のもので体部がやや外反し、内外面をヘラナデ調整している。

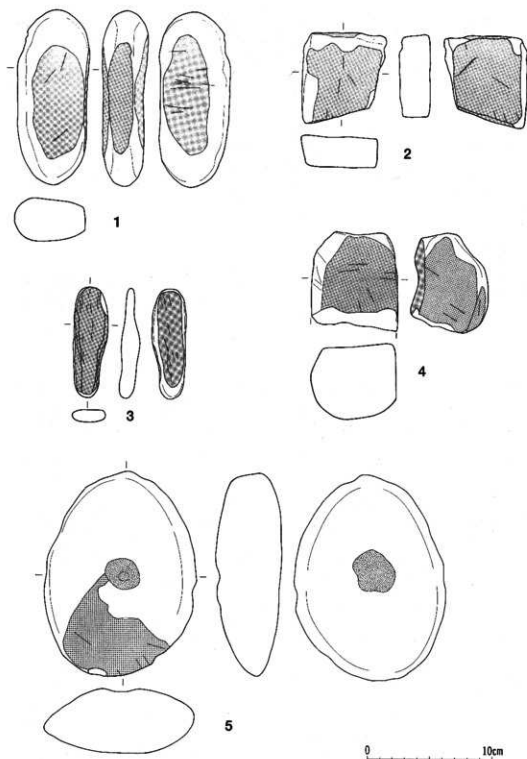
B類 (ロクロ使用)

B I類 内外面をロクロナデ調整をしている。



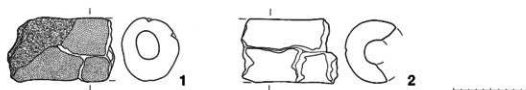
図版番号	種類	出土単位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
			口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	須恵器	坏	表採	(13.6)	5.2	4.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	割靴跡有り	—	内外敷いたずき成
2	須恵器	坏	表採	—	(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	片割取
3	須恵器	坏	表採	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面火だすき成
4	須恵器	壺	表採	—	(6.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	片割取
5	須恵器	壺	表採	(12.3)	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	片割取
6	須恵器	甕	表採	—	(5.7)	—	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	—	片割取
7	須恵器	壺	表採	—	(3.2)	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	片割取
8	須恵器	壺	表採	—	(3.4)	—	—	ロクロ	—	—	—	ヘラナデ	—	—	片割取
9	須恵器	壺	表採	—	(4.0)	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	片割取
10	須恵器	壺	表採	—	(3.7)	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	片割取
11	須恵器	壺	表採	—	(4.4)	(8.4)	—	—	ケズリ	—	—	—	—	—	菊花紋
12	須恵器	坏	表採	—	(1.4)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	片割取 内面火だすき成
13	須恵器	壺	表採	—	(5.2)	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	片割取 片割取
14	須恵器	壺	表採	—	(4.6)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	—	—	—	片割取 ヘラナデ
15	須恵器	壺	表採	—	(3.6)	—	—	—	ケズリ	—	—	—	—	—	ロクロ
16	須恵器	壺	表採	—	(5.1)	—	—	—	ケズリ	—	—	—	—	—	ロクロ

図500 遺構外出土須恵器



図版番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重量 (g)	石 質	分類	備 考
		長さ	幅	厚さ				
1	NT-444 Ⅱ層	14.1	5.5	3.5	422	凝	磁石	炭化物付着
2	表探	6.6	6.1	2.5	170	凝	磁石	
3	表探	8.8	2.7	1.0	40	凝	磁石	炭化物付着
4	302号敷層掘削	7.8	7.0	5.8	522	凝	磁石	炭化物付着 下1
5	NM-434 Ⅰ層	16.2	12.1	5.0	1160	流	磁石	炭化物付着

図501 遺構外出土石器



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重量 (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
1	表探	(14.2)	8.5×7.8	3.8×3.1	(615)	B		砂粒多量
2	NR-452 IV層上面	(13.0)	8.3×(6.7)	—	(490)	B	ナデ	

図502 遺構外出土羽口

## (2) 須恵器

出土した須恵器は、何点かを除いてはほとんどが破片であり、器形の特徴などが分かるものが少ないため、分類を行わず、各器種の特徴を述べるにとどめる。

坏は、内外面をロクロナデ調整、底部を回転糸切りによって切り離しており、火ダスキ痕がみられる。

甕は、大型のものが多く、外面をタタキ目、内面にアテ具痕がみられ、丸底である。

鉢は、内外面をロクロナデ調整、底部を回転糸切りによって切り離している。

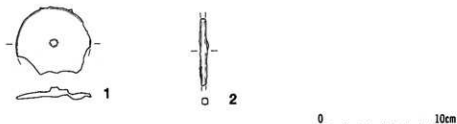
壺は、内外面をロクロナデ調整で、体部下半にヘラケズリの痕跡をもつものが多い。また、頸部に隆帯をもち、底面に菊花文が施されている。

## (3) その他の遺物

### 1 石器・石製品

今年度の調査で出土した石器・石製品は108点である。内訳は砥石83点、台石3点、砥石・台石3点、凹石・台石1点、敲磨器17点、石製品1点である。

砥石には、作業面を作り出し、著しい擦痕がみとめられるものがある。なかには面自体が凹むものがあり、かなり使用されたと考えられる。作業面をもつものには、礫の表裏面に作業面をもつものと側面にもつものがある。前者には大型のものが多く、後者には小型のものが多い。大型のものほど作業面を多くもつようである。この他に、作業面は作り出さずに使用されているものもある。石質は流紋岩・凝灰岩が多く、この他に安山岩・緑色凝灰岩のものもみられる。凝灰岩は小型ものに用いられることが多いようである。また、流紋岩・凝灰岩の砥石には炭化物が粉状に附着するものがある。被熱しているものも多い。



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
1	表採	5.4	6.0	0.8	26.9	紡錘車	
2	表採	5.4	0.5	0.5	3.1	棒状鉄製品	Fe-1

図503 遺構外出土鉄製品

## 2 鉄製品

今年度の調査で出土した鉄製品は145点である。内訳は刀子30点、紡錘車9点、小刀8点、お引金7点、刀5点、釘4点、鎌2点、鉋2点、釣針2点、鋤(鍬)先2点、斧1点、鍋1点、棒状鉄製品52点、板状鉄製品10点、棒状・板状鉄製品4点、鈎状鉄製品3点、環状鉄製品2点、筒状鉄製品1点である。この他に錆がかなり付着し、原形をほとんどとどめない鉄製品(と考えられるもの)が36点出土している。

住居ごとの出土状況にはかなりのばらつきがある。鉄製品は45軒の住居跡から出土しているが、多くの住居では1～3点出土するのに対し、第357・358・361・367・368・384・394・409・460・471号住居跡では5点以上出土している。第368号住居跡からは鉄斧・紡錘車・お引金、第394号住居跡からは刀子・お引金・鉋、第409号住居跡からは刀子4点・紡錘車、第471号住居跡からは鎌1点・小刀・鋤(鍬)先2点・釣針・刀子が出土している。

## 3 銅製品

銅製の桶の口縁部破片が1点、第335号竪穴住居跡の掘方から出土している。平安時代の銅製の桶は浪岡町高屋敷館遺跡で胴部から底部にかけての破片が5点出土している。

## 4 鍛造剥片

第335号・第348号・第411号竪穴住居跡覆土から出土している。

## 5 鉄 滓

今年度の調査で出土した鉄滓の重量は150,440gである。各遺構から出土した鉄滓の重量を表 出土鉄滓一覧表に示す。鉄滓の多くは遺構の覆土から出土しており、遺構に伴うのではなく、付近の鉄滓を出す製鉄に関連する遺構からの流れ込みによるものである。

本遺跡出土の鉄滓は以下のように分類される。Ⅰ、赤褐色で表面に砂粒が多く付着し、気泡を多く含むもの。底面が球状を呈し、碗型鉄滓の一部と考えられるものも含まれる。磁着しない。碗型鉄滓のうち大きさがわかるものを抽出して、表 に計測値を掲載した。出土した鉄滓の99%を本類が占める。Ⅱ、黒色あるいは灰色であめ状を呈するもの、流状滓。磁着しない。Ⅲ、黒色あるいは灰色でガラス質のもの。磁着しない。Ⅳ、黒色あるいは灰色で、周囲を打ち欠いたもの。重量感がある。この他に、錆等で周囲を打ち欠いているか不明であるが、磁着するものも本類に含めた。Ⅰ～Ⅲ類は精錬・鍛冶の行程中に生じた不純物を多く含む「不要物」であるのに対し、Ⅳ類は鉄分を多く含む「製品」と考えられる。今年度の調査で出土したⅠ～Ⅳの各分類の重量はⅠ149,130g、Ⅱ780g、Ⅲ90g、Ⅳ440gである。

## 6 羽 口

今年度の調査で出土した羽口の重量は185,063gである。各遺構から出土した羽口の重量を表 出土羽口重量一覧表に示す。被熱・磨減が著しく、接合・図化が困難なものも多く、個体数だけでは各遺構の出土量を示すとは言いえないことから、出土量を重量に置き換えたものである。

出土した羽口は欠損しているものがほとんどで、完形品は6点と少ない。全体の長さがわかるものが13点あり、最短は26.4cm、最長は37.1cm、最も長い欠損品は61.3cmである。平均は31.6cmだが、30cm前後のものが多い。

形状は、溶着滓が付着する先端部から吸気口となる後端部にかけてやや広がるものが多い。32・57・62・82・92・101は後端部が外反する。なかには57・64・93のように先端部から後端部にかけてしりつばみになるものがある。19・61・67・71も同様の形状になると考えられるが、19は被熱痕がみられることから溶着滓が付着する前の先端部の可能性も考えられる。このような形状は用途が異なるためのかどうかは不明である。

本遺跡から出土した羽口を断面形により分類する。A・円形のもの、B・ケズリによってわずかな平坦面がつくりだされるもの、C・平坦面をもち、断面が半円形のものがある。この分類に入らないものをDとし、D1・平坦面をもち、断面がほぼ三角形のもの、D2・平坦面を2つもち、断面がほぼ四角形のものにわけた。分類可能な79点のうち、Aは3点、Bは65点、Cは23点、D1は5点、D2は3点である。

外径は最小6.6cm、最大11.4cmで、8.4～10.3cmに約7割が集中する。外径の計測可能な77点の平均は8.7cmである。断面の類型別にみてもみると、Aは最小7.4cm、最大10.1cm、平均8.4cm、Bは最小6.6cm、最大11.4cm、平均8.7cm、Cは最小7.1cm、最大11.3cm、平均8.6cm、D1は最小7.5cm、最大10.4cm、平均8.9cmである。D2は最小8.2cm、最大9.5cm、平均8.9cmである。A・BよりC・Dがやや大きい、あまり差はない。

内径は最小2.4cm、最大4.6cmで、3.0～3.8cmに約7割が集中する。内径の計測可能な81点の平均は3.5cmである。孔の断面形には円形と楕円形がある。断面の類型別にみても、Aは円形3・楕円形0、Bは円形33・楕円形20、Cは円形2・楕円形13、Dは円形1・楕円形7で、A・Bは円形、C・Dは楕円形が多い。Aの最小が3.0cm、最大3.6cm、平均3.2cm、Bの最小2.4cm、最大4.4cm、平均3.4cm、Cが最小3.0cm、最大4.5cm、平均3.6cm、Dの最小3.2cm、最大4.6cm、平均3.8cmである。A・BよりもC・Dのほうが内径が大きく、より多くの空気を送ることができたと考えられる。半円形・三角形・四角形の断面形は内径を大きくし、多くの空気を送るのに都合がよかったと考えられる。内径の違いは送風量の違い、つまりは用途の違いを表していると考えられる。

このようにみても、4つの類型がⅠ断面が円形を呈するもの、ケズリによってわずかな平坦面を作り出しているがほぼ円形のもの（A・B）、Ⅱ断面が半円形・三角形・四角形など円形以外のもの（C・D）に二分が可能である。杣沢遺跡では、断面形状により、かまぼこ形を呈するⅠ類（先の二分類でのⅡ類）、円形を呈するⅡ類（同じくⅠ類）としている。Ⅰ類は外径平均8.0cm・内径平均4.0cm、Ⅱ類は外径平均7.0cm、内径平均3.2cmで、外径に差はほとんどみられない本遺跡とは異なり、外径にもはっきりとした違いが表れている。内径はⅡ類では同じだが、Ⅰ類では本遺跡よりやや大きい。杣沢遺跡では出土状態からⅠ類は製鉄用、Ⅱ類は鍛冶炉用と用途が特定されている。本遺跡ではカマドの芯材に再利用されたものが多いため、それだけでは用途を特定することはできないが、杣沢遺跡での状況は本遺跡出土の羽口の用途の特定の参考となるであろう。

胎土には、細礫・砂粒が多く含まれろいものと、緻密で焼成が良好なものがみられる。

羽口は軸となる棒に粘土を巻き付けて製作されると考えられているが、本遺跡の羽口も内面に軸棒を抜き取ったとみられる痕が残ることから、同様の方法で作られていたと考えられる。外面にはナデが多用されるが、後端部には指痕がみられ、端面を作り出す際には指で成形したと考えられる。

溶着物が付着する羽口が多くみられ、実際に使用されたものが廃棄・再利用されていることがわかる。これほどの量の羽口が使われたということは、付近で羽口を大量に用いる程大規模に鍛冶・製鉄が行われていた可能性が考えられる。



図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	整理番号	備 考
図25-5	308H	床面直上	刀子	11.4	0.9	0.4	8.8	1	Fe-2
図30-11	310H壁		刀子	10.3	1.4	0.4	11.8	2	Fe-1
図30-10	310H壁		刀	47.3	3.8	0.8	*356.0	3	Fe-1 木質部残存
図51-30	317H		刀子	12.3	1.7	1.4	19.2	4	木質部残存 2個体
図65-5	324H	床面	紡錘車	6.0	6.2	0.8	*25.8	5	Fe-1
図65-6	324H	4層	棒状	14.0	0.8	0.6	5.0	6	Fe-1
	324H	フク土	棒状	2.4	0.8	0.5	1.6	100a	Fe-1
				3.3	0.8	0.6	2.2	100b	
	327H	フク土	棒状	5.2	1.2	0.5	3.8	101a	
				2.0	0.9	0.5	0.7	101b	
				0.9	0.5	0.1	0.3	101c	
				2.1	0.5	0.4	0.7	101d	
				1.0	0.8	0.6	0.5	101e	
	327H	フク土	棒状	3.5	0.7	0.8	2.2	140a	
				3.1	0.7	0.8	1.2	140b	
	330Hカマド支脚		棒状	4.2	1.9	1.4	7.5	136	Fe-1
図84-12	331Hビット1	フク土	小刀	14.5	1.7	0.4	29.2	7	Fe-1
図84-11	331Hビット1	フク土	小刀	26.5	1.8	0.5	*37.7	8	Fe-2 木質部残存
	333H	床面	板状	4.7	1.7	0.4	13.0	137a	Fe-1
				2.9	1.7	0.9	6.0	137b	Fe-1
図122-5	340H	床面	刀子?	6.7	2.4	0.6	21.6	138	Fe-1 2個体
	341H	フク土	棒状	3.3	1.0	0.6	1.9	139a	
				2.5	0.7	0.7	1.2	139b	
図131-3	343H	フク土	紡錘車	5.7	5.5	0.7	19.6	126	Fe-1
図131-16	349H	フク土	紡錘車	25.7	4.9	0.5	*52.0	10	Fe-1
	354H	床面	棒状	2.1	1.0	0.9	1.9	83a	Fe-1
				1.5	1.1	1.0	1.0	83b	
				2.0	0.6	0.5	0.5	83c	
	357H	床面	棒状	1.2	0.6	0.6	0.3	84a	Fe-1
				3.2	0.7	0.5	2.0	84b	
	357H	火山灰下	棒状	3.2	0.5	0.5	3.1	85a	Fe-2
				3.2	0.6	0.4	3.1	85b	
				2.7	0.7	0.5	1.7	85c	
図138-34	357H	床面直上	棒状	6.4	1.1	0.6	10.1	86	Fe-3
	357H	床面直上	刀子	3.8	1.3	1.1	4.4	87	木質部残存
	357H	確認面	棒状	3.7	0.7	0.2	1.4	88	
図171-68	358H	フク土	小刀	23.7	1.3	0.5	32.0	11	Fe-1 木質部残存
図171-67	358H	フク土	お引金	8.2	1.7	0.2	*9.3	12	Fe-3

表1 鉄製品一覧表 (1)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	整理番号	備考
図171-62	358H	フク土	刀	10.1	2.2	0.7	*27.5	13	Fe-4
図171-63	358H	床面	小刀	14.0	2.4	0.4	*43.4	14	Fe-5
図171-64	358H	フク土	棒状	8.9	0.5	0.5	8.7	15	Fe-9
図171-65	358H	フク土	棒状	6.3	0.6	0.5	4.5	16a	
図* -66				8.9	0.6	0.6	5.8	16b	
	358H	床面直上	棒状	2.4	0.5	0.6	1.1	89a	Fe-7
				1.5	0.5	0.5	0.6	89b	
				2.1	0.7	0.5	1.4	89c	
				1.7	0.7	0.4	0.8	89d	
	358H	床面直上	棒状	3.0	1.0	0.7	2.7	90a	Fe-10
	358H	フク土	棒状	4.7	1.5	1.1	11.0	91a	
				3.0	0.7	0.6	6.2	91b	
				4.0	1.6	0.7	2.3	91c	
	358H	フク土	板状	5.7	1.7	1.1	12.9	92	
	358H		刀子	3.8	1.4	0.4	3.3	159	
図181-39	361H	2層	釘	11.1	0.6	0.5	15.6	17	Fe-1
図181-35	361H	3層	釘	7.4	0.7	0.7	11.2	18a	Fe-2
図* -36				3.8	0.6	0.7	2.2	18b	
図* -37				2.8	2.5	0.5	4.2	18c	
図181-38	361H	1層	釘	11.3	0.8	0.6	12.1	19	Fe-3
	361H	1層	板状	1.8	1.6	0.6	1.3	65	Fe-1
	361H	フク土	棒状	3.9	0.4	0.4	1.6	66a	
				2.5	0.5	0.5	1.3	66b	
				2.6	0.7	0.6	1.6	66c	
	364H	フク土	棒状	2.2	0.8	0.6	1.8	74a	
				1.9	1.2	1.0	1.3	74b	
	364H	フク土	棒状	3.0	0.7	0.3	1.7	75a	
				1.3	0.4	0.4	0.6	75b	
				1.4	0.5	0.5	0.5	75c	
図184-3	364H	フク土	鉤状	3.5	2.5	0.7	6.9	141	
図190-24	367H	フク土	棒状	8.5	0.6	0.5	5.1	24	Fe-12
	367H	フク土	棒状	3.8	0.9	0.7	3.1	76a	Fe-1
				2.0	0.5	0.7	1.1	76b	
	367H	フク土	棒状	2.1	1.1	0.8	3.1	76c	Fe-1
				2.5	1.0	0.6	1.4	76d	
				1.9	1.3	0.9	3.0	76e	
				2.4	1.7	0.9	3.8	76f	
				1.2	0.7	0.5	0.7	76g	

表2 鉄製品一覧表 (2)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	整理番号	備 考
図190-28	367H	フク土	お引金	4.1	2.3	1.2	7.2	77	Fe-3 木質部残存
図190-25	367H	フク土	刀子	10.0	1.2	0.3	12.5	78	Fe-7
	367Hカマド		刀子	3.5	1.1	0.9	7.6	79a	Fe-11 木質部残存
				1.4	1.1	0.6	1.0	79b	
				3.4	1.0	1.0	208	79c	
				4.5	2.1	1.3	7.8	79d	
	367Hカマド		棒状	2.7	1.0	0.9	2.5	80a	
				1.8	0.5	0.5	0.7	80b	
	367H	フク土	棒状	2.9	0.9	0.8	2.5	81	
	367H	フク土	棒状	1.6	0.5	0.4	0.6	142	Fe-2
図198-48	368H	フク土	鉄斧	17.2	5.7	1.0	847.0	25	Fe-1 木質部残存
図198-49	368H	フク土	紡錘車	5.7	5.9	0.6	*23.3	26a	Fe-2
				4.6	0.5	0.6	*3.4	26b	
図198-52	368H	床面直上	お引金	9.5	1.6	0.3	*8.5	27	Fe-3
	368H	フク土	棒状	5.8	1.1	0.9	8.9	82	
図198-51	368H	フク土	鉤状	4.7	1.2	0.5	10.9	129	Fe-4
	370H	床面直上	刀子	6.0	1.2	0.5	4.3	130a	Fe-1 刀子
				5.5	1.4	0.3	8.3	130b	
図210-4	371H	床面直上	鉋	17.4	3.1	0.6	*56.3	28	Fe-1
図210-5	371H		小刀	34.0	2.0	0.5	*71.7	29	Fe-2
図213-13	372H	フク土	刀子	8.4	1.1	0.4	8.9	131a	
				3.2	1.0	1.0	3.1	131b	
				2.7	1.1	0.6	2.0	131c	
図219-4	374H		板状	5.4	1.4	0.2	*6.8	30A	貫通孔
図219-3	374H		鉤状	4.6	1.5	0.7	*9.2	30B	貫通孔
	380H		棒状	3.6	1.5	0.7	3.2	109	
	380H 3号土坑		棒状	4.1	1.1	0.6	3.2	110	
	381H	フク土	刀子?	4.3	1.3	0.9	6.0	111	
図236-13	382H	フク土	棒状	6.9	0.4	0.5	8.4	112	
図245-14	384H	床面直上	鎌	14.0	2.8	0.5	38.7	31	Fe-1
	384H	床面	棒状	4.9	0.9	0.6	2.2	113a	Fe-3 木質部残存
				3.2	1.4	0.6	1.8	113b	
				2.5	0.9	0.6	1.2	113c	
	384H	フク土	棒状	3.8	0.6	0.5	1.3	114a	
				2.6	0.8	0.6	1.2	114b	
				2.6	0.7	0.5	0.7	114c	
				1.7	0.3	0.5	0.4	114d	
	384H	フク土	板状	3.2	2.8	1.0	9.0	115a	

表3 鉄製品一覧表 (3)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	整理番号	備考
384H		フク土	棒状	1.8	1.0	0.6	1.3	115b	
384H		床面	棒状	2.8	0.7	0.5	1.2	116a	
				4.0	1.5	1.1	2.9	116b	
386Hカマド		煙道	板状?	4.2	2.3	1.5	19.4	144	
389H			釘?	3.8	1.5	0.4	3.5	156	
390H		床面直上	小刀	13.6	1.7	0.5	29.8	32	Fe-2
390H		床面直上	紡錘車	5.1	5.6	0.9	*16.9	33	Fe-3
390Hカマド			刀子	5.2	1.1	0.4	4.4	118	Fe-1
394H		床面直上	棒状	6.5	0.6	0.7	11.4	119	Fe-1
394H		床面	棒状	2.9	0.7	0.5	1.0	120a	Fe-2
				1.6	0.9	0.5	0.6	120b	
394H		フク土	刀子	11.8	1.6	0.6	14.2	121A	
394H		フク土	刀子	4.1	1.2	0.8	3.3	121B	
394H		フク土	お引金	5.5	1.7	0.2	12.8	121C	
395H		フク土	刀子	4.6	2.0	0.9	11.1	145a	
				4.2	1.5	0.8	4.8	145b	
396H		フク土	鉋	20.2	2.9	0.2	*30.1	34	Fe-1
396H		床面直上	刀子	14.9	1.7	0.5	*39.3	35	Fe-3
396H		床面直上	刀子	3.0	0.9	0.5	1.2	122	Fe-2
396H			棒状	3.2	0.6	0.5	2.2	157	
398H			刀	13.9	3.3	0.6	*89.2	36	Fe-1
398H		フク土	刀子	10.2	1.1	0.3	12.7	37	
398H		床面直上	刀子	9.8	1.2	0.6	15.5	123	Fe-1
398H		床面直上	板状	8.6	2.9	1.0	80.4	124	Fe-2
398H		フク土	刀子	5.2	1.6	0.6	6.9	125	
398H		フク土	お引金	4.7	2.4	0.2	6.9	146	
401H		フク土	お引金	3.6	1.8	1.2	4.9	38a	Fe-1 木質部残存
				4.6	2.1	0.6	6.1	38b	
406H		フク土	鍋	8.6	5.7	0.7	105.4	39	Fe-6
406H		フク土	刀子?	2.2	1.6	0.7	7.3	93a	Fe-1
				2.1	1.4	0.7	2.6	93b	
				3.2	1.6	0.5	10.3	93c	
				3.0	1.0	0.6	11.9	93d	
409H		フク土	刀子	7.9	1.0	0.5	7.2	40	Fe-3
409H		フク土	刀子	9.6	1.4	0.6	10.7	41	Fe-8
409H		フク土	紡錘車	5.2	5.0	0.5	*27.4	42	Fe-9
409Hカマド		フク土	刀子	2.4	1.4	0.3	1.9	94a	Fe-2 木質部残存
409Hカマド		フク土	刀子	4.5	0.9	0.6	4.1	94b	Fe-2 木質部残存

表4 鉄製品一覧表 (4)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	整理番号	備 考
	409Hカマド	フク土	刀子	3.5	1.1	0.8	2.5	95a	木質部残存
				1.8	1.7	1.1	2.5	95b	
	409Hカマド	フク土	刀子	3.8	1.3	0.6	3.6	95c	木質部残存
				2.4	1.2	0.7	1.7	95d	
				1.3	1.2	0.6	0.6	95c	
	409Hカマド	フク土	棒状	2.1	1.4	0.6	1.4	96a	
				2.5	1.3	0.8	2.8	96b	
図316-25	410H	フク土	紡錘車	8.4	3.1	0.6	32.5	44	Fe-1
図・-24	410H	フク土	棒状	5.4	0.8	0.8	5.4	97	Fe-1
	410H	床面直上	棒状	3.0	1.3	1.1	1.5	98	Fe-18
	410H	フク土	板状?	3.0	2.6	1.2	8.3	147	Fe-1
	410H	フク土	棒状	2.8	1.3	0.7	2.1	148	
	410Hビット1	フク土	刀子	4.5	1.3	0.4	4.8	158	
	411H	フク土	板状	6.2	3.1	1.5	33.2	149	
図322-4	413H	床面直上	刀子	12.4	1.2	0.2	18.2	45	Fe-4 木質部残存
	413H	フク土	棒状	2.1	0.8	0.5	0.6	99a	Fe-2
				2.0	0.5	0.3	0.6	99b	
				2.6	0.9	0.3	1.0	99c	
	413H		お引金	1.8	1.6	0.2	1.2	155	
	416H	フク土	棒状	3.3	0.9	0.5	2.3	160a	
				2.7	0.7	0.4	1.9	160b	
				2.0	0.7	0.5	2.0	160c	
				1.1	0.4	0.4	0.7	160d	
				2.6	0.5	0.5	8.9	160e	
図357-18	460H	フク土	紡錘車	15.4	6.1	0.6	*40.1	46	Fe-1
	460H	床面直上	小刀	17.4	1.5	0.4	17.1	47	Fe-3
図357-20	460H		棒状	12.1	0.5	0.6	12.0	48	Fe-101
	460H	床面直上	板状	5.7	0.8	1.0	16.2	102	Fe-2
	460H	床面直上	棒状	2.5	0.6	0.4	8.0	103a	Fe-4
				1.6	0.6	0.6	0.8	103b	
	460H	フク土	棒状	2.1	0.8	0.6	1.2	104a	
				2.1	0.7	0.5	0.9	104b	
				1.6	0.7	0.5	0.4	104c	
				3.6	0.6	0.3	1.0	104d	
図357-19	460H	フク土	棒状	5.2	0.5	0.6	2.2	105	
	460H	床面	棒状	2.2	1.6	0.6	1.7	106a	
				2.8	1.2	1.1	1.6	106b	
	460H	床面	棒状	2.2	1.3	0.5	1.3	106c	

表5 鉄製品一覧表 (5)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	整理番号	備考
	460H	床面	棒状	3.0	1.0	0.6	1.7	106d	
				3.3	1.2	0.8	3.0	106e	
				1.7	0.9	0.9	1.0	106f	
	460H	フク土	棒状	3.2	0.9	0.5	1.6	107a	
				3.0	0.9	0.6	1.3	107b	
	462H	フク土	棒状	3.2	0.6	0.5	1.3	108a	Fe-2
				3.3	0.5	0.5	0.8	108b	
				2.8	0.7	0.6	1.6	108c	
				2.0	0.8	0.6	0.9	108d	
	462H	フク土	棒状	2.5	0.7	0.6	1.3	108e	Fe-2
				3.0	1.6	0.9	3.2	108f	
	471H		鎌	15.6	2.6	0.3	39.0	49	Fe-1
	471H	フク土	小刀	21.1	2.5	0.7	54.7	50	Fe-4
図270-28	471H	床面	鋤(鍬)先	18.4	6.8	1.0	498.5	51	Fe-5
図#-34	471Hピット1	フク土	釣針	5.5	0.4	0.5	6.1	52	
図#-39	471H	フク土	刀子	6.4	1.3	0.6	7.4	58	
	471H	フク土	棒状	2.9	0.6	0.7	2.0	59	
	471H	フク土	棒状	2.3	0.4	0.6	1.0	60	
図370-32	471H	フク土	鋤(鍬)先	11.4	2.6	0.9	65.0	61	Fe-2
図#-30	471H	フク土	板状	4.0	3.3	0.7	18.8	62	
	471H	フク土	刀子	2.4	1.3	0.5	2.0	63	
図374-1	473H		刀	40.5	3.4	0.6	*206.3	53	木質部残存
	473Hピット6	フク土	刀	11.4	3.8	0.5	73.8	150	
	473H	フク土	筒状	3.2	2.2	2.0	10.5	151	
	477H	フク土	棒状	4.0	1.0	0.9	2.8	64	
	484H	床面	棒状	1.0	0.3	0.2	0.1	127a	
				1.3	0.4	0.3	0.1	127b	
図486-4	486H	床面直上	刀子	12.6	1.3	0.5	23.5	153A	
	486H	床面直上	棒状	6.8	1.0	0.8	7.8	153B	
図427-1	495H	床面直上	釣針	7.2	0.9	0.6	16.8	55	2個体
	386H	フク土	環状	4.3	2.3	1.2	10.6	152	
	410H	フク土	棒状	6.2	0.4	0.5	5.9	154a	
				2.1	0.2	0.3	0.8	154b	
				2.0	1.2	0.3	3.4	154c	
	423H		棒状	4.9	0.5	0.5	14.9	117	Fe-2
	NC-457	Ⅱ層	板状	2.6	1.5	0.4	1.6	132a	気質部残存
				1.6	1.0	0.3	0.8	132b	
図503-1	表採		紡錘車	5.4	6.0	0.8	26.9	133	

表6 鉄製品一覧表(6)

図版番号	出土地点	層位	種類・形態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	整理番号	備考
	MZ-457-NZ-460	II層	板状	3.1	1.8	0.5	5.4	134a	
				2.2	1.5	0.5	2.1	134b	
				2.3	0.4	0.6	2.8	134c	
図500-2	表採		棒状	5.4	0.5	0.5	3.1	135	Fe-1

\*は保存処理後の重さ

表7 鉄製品一覧表 (7)

出土地点	層位	大きさ (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	整理番号	備考
306H	床面直上	15.0×14.4	10.4	3,128	1	Fe-1
310H	壁	12.1×8.0	9.1	1,970	2	Fe-2 1/4 残存
335H	フク土	16.2×11.5	6.8	1,754	3	Fe-2
335H	フク土	14.7×14.4	6.2	1,234	4	Fe-8
337Hカマド	フク土	13.4×12.3	9.4	2,928	5	Fe-1
348H	フク土	14.4×12.1	7.5	1,555	6	Fe-15 3/4 残存
357Hビット1	火山灰上層	10.1×11.3	6.4	1,088	7	Fe-4 1/4 以下残存
358Hビット2	フク土	12.6×10.7	9.8	1,720	8	
390H	フク土	12.5×7.4	3.6	426	9	Fe-9
395H	フク土	17.0×13.6	5.4	1,920	10	
411H	フク土	16.7×11.4	6.6	1,074	11	Fe-51
457H	床面	15.0×12.9	5.9	1,757	12	Fe-1

表8 椀型鉄滓計測表

住居番号	重量 (g)	備考	住居番号	重量 (g)	備考	住居番号	重量 (g)	備考
301	0		360	1,290		419	0	
302	0		361	0		421	0	
303	0		362	0		451	4,180	
304	890		364	40		452	0	
305	0		365	0		453	845	
306	4,260		367	1,560	IV 50g	454	0	
307	410		368	8,550	Ⅱ 20IV 125g	455	4,110	IV 65g
308	385		369	800		456	0	
309	0		370	480		457	1,980	
310	1,970		371	525		459	35	Ⅱ 10g
311	0		372	0		461	130	
312	1,120		373	130		462	240	
313	510		374	0		463	0	
314	0		375	0		471	1,330	
315	315	IV 80g	376	10		473	210	
316	0		378	0		475	0	
317	329		379	0		476	5,440	
319	0		380	40		477	2,475	
320	0		381	480		478	40	
321	360		382	100		479	0	
322	1,725		383	370		480	440	
323	40		384	230	Ⅱ 30g	482	4,760	
324	65		385	0		483	20	
325	0		386	1,485	Ⅲ 25g	484	2,915	
326	0		388	120		485	1,145	
327	315		389	560		486	0	
328	25		390	425		488	200	
329	1,320		391	0		489	0	
330	1,790		392	0		490	1,760	
331	140		393	0		491	2,745	
332	420		394	0		492	1,590	
333	1,970	Ⅲ 40g	395	3,230	Ⅱ 30g Ⅲ 10g	493	0	
338	0		396	200		491	0	
339	250		398	1,235		495	0	
340	195		399	0		496	1,790	
341	700		400	0		497	0	
342	805		401	0				
343	200		403	285	Ⅱ 40g			
348	8,945		404	150				
349	1,405	Ⅲ 15g	405	110				
350	0		406	0				
351	0		408	750				
352	0		409	4,545	Ⅱ 25g			
353	150		410	3,730	Ⅱ 75g			
354	1,230		411	15,315	Ⅱ 455g			
355	855		413	985	Ⅲ 55g			
356	90		415	0				
357	3,250		416	5				
358	2,815		417	0				
359	30		418	0				
小計		36,170	小計		48,735	小計		38,380

表9 鉄滓出土量 (1)



出土位置	重量(g)	備考	出土位置	重量(g)	備考
310土	90		MU-440	230	
329土	465		MU-445	295	IV 50g
330土	90		MU-450	1,025	II 25g
347土	480		MV-471	645	
348土	55		MW-451	3,370	
349土	110		MY~MZ-445~450	3,775	
356土	315		MZ~NE-445~450	165	
362土	90		MZ~NE-455~460	970	
368土	15		MZ~NE-457~460	190	
375土	215		MZ-455	175	
381土	295		MZ-480	385	
388土	420		NB-480	95	
394土	45		NC-461	40	
396土	2,520		ND-445	430	
401・5土	35		ND-473	85	
420土	140		NE-462	25	
421土	195		NE~NI-460~465	540	
429土	75		NE~NJ-440~445	330	
433土	885		NE~NJ-445~450	230	
434土	870		NE~NJ-445~460	560	
435土	1,935		NH-440	380	
437土	10,725		NI-440	30	
500土	165		NI~NI-468~471	655	
317溝	90	IV 90g	NI~NN-465~470	850	II 10g
310礎土	5	II 5g	NK-432	410	
301礎	485		NK-437	110	
302礎	45		NK-469	210	
			NL-433	105	
			NM-437	250	
			NM-446	115	
			NM-450	45	
			NO-430	205	
			NO~NS-465~470	120	
			NP-471	455	
			NV-458	930	
			NZ-470	800	
			一括	6,375	
小計	20,855		小計	23,765	
			合計	169,965	

表10 鉄滓出土量 (2)

住居番号	床 面	床面直上	フク土	カマド	計	住居番号	床 面	床面直上	フク土	カマド	計
301	0	0	0	0	0	356	0	0	0	0	0
302	0	0	70	0	70	357	0	0	200	0	200
303	50	930	1,700	6,330	9,010	358	0	0	0	170	170
304	200	0	0	200	400	359	0	0	0	0	0
305	0	0	0	0	0	360	0	100	0	0	100
306	0	570	285	0	855	361	0	0	40	0	40
307	0	0	890	0	890	362	0	0	0	0	0
308	0	0	0	0	0	364	0	0	0	0	0
309	0	0	0	0	0	365	0	0	0	0	0
310	0	380	110	0	490	367	0	0	160	0	160
311	0	0	0	0	0	368	0	0	270	0	270
312	0	0	0	0	0	369	40	370	170	0	580
313	0	0	0	0	0	370	0	0	490	1,360	1,850
314	0	0	0	0	0	371	0	0	100	0	100
315	0	340	200	510	1,050	372	0	0	0	0	0
316	0	0	0	0	0	373	0	0	720	4,360	5,080
317	0	290	400	0	690	374	0	0	0	0	0
319	0	0	0	0	0	375	0	0	170	0	170
320	0	0	0	70	70	376	0	0	0	2,440	2,440
321	0	0	0	0	0	378	0	0	0	0	0
322	0	0	0	0	0	379	0	0	0	0	0
323	0	0	90	0	90	380	0	0	0	2,200	2,200
324	0	0	0	0	0	381	0	0	0	0	0
325	0	0	0	0	0	382	0	0	980	0	980
326	50	0	0	0	50	383	0	0	0	0	0
327	0	0	120	13,100	13,220	384	0	0	0	0	0
328	0	0	1,200	0	1,200	385	470	1,550	1,940	0	3,960
329	0	0	290	0	290	386	290	0	0	6,140	6,430
330	0	1,440	50	3,800	5,290	388	0	0	0	0	0
331	0	0	700	6,840	7,600	389	0	0	0	0	0
332	0	0	230	0	230	390	0	0	0	0	0
333	0	0	360	1,020	1,380	391	0	0	30	0	30
334	0	0	0	50	50	392	0	0	0	0	0
335	0	0	150	4,090	4,240	393	0	0	0	0	0
336	0	0	0	0	0	394	0	0	0	0	0
337	0	0	70	0	70	395	0	0	340	0	340
338	0	0	0	3,680	3,680	396	0	0	0	0	0
339	0	0	90	650	740	398	0	0	180	0	180
340	0	0	0	0	0	399	0	0	0	0	0
341	0	0	0	0	0	400	0	0	0	0	0
342	0	1,520	480	250	2,250	401	0	0	0	0	0
343	0	0	150	0	150	403	0	0	30	0	30
348	0	0	0	0	0	404	0	0	80	0	80
349	0	0	900	0	900	405	0	0	0	0	0
350	0	0	0	830	830	406	300	100	600	6,200	7,200
351	0	0	0	0	0	408	0	0	380	0	380
352	0	0	0	0	0	409	0	780	1,620	4,890	7,200
353	0	0	0	0	0	410	250	600	1,650	6,280	8,780
354	0	0	0	0	0	411	0	0	1,580	6,250	7,830
355	0	0	0	0	0	413	0	0	0	6,300	6,300
小計	360	5,380	8,655	41,480	55,875	小計	1,350	3,500	11,730	46,500	63,080

表11 羽口出土量 (1)

住居番号	床面積	床面積上	フク土	カマド	計	出土位置	層位	重量
415	0	0	0	0	0	307土	フク土	230
416	0	0	2,300	0	2,300	330土		45
417	0	0	0	0	0	379土	フク土	50
418	0	0	0	0	0	410土	フク土	210
419	3,890	2,320	360	8,720	15,290	302溝		100
421	0	0	1,040	0	1,040	301雑土	フク土	100
451	0	0	190	0	190	301軟状堆積	トレンチ	200
452	0	0	260	0	260	MU-450		50
453	0	0	0	0	0	MV-471		260
454	0	0	2,500	0	2,500	MW-451		20
455	0	0	1,130	0	1,130	MY~MZ-445~450		90
456	0	0	0	0	0	MZ~NE-455~460		60
457	1,020	480	655	0	2,155	ND-473		230
459	0	0	0	110	110	NE~NJ-455~460		150
460	0	0	0	0	0	NM-434		130
461	0	0	0	0	0	NM-437		60
462	0	0	0	0	0	NM-474		250
463	0	0	0	0	0	NO~NR-440~445		120
471	0	0	80	0	80	一括		8,960
473	0	150	2,920	350	3,420			
474	0	0	0	0	0			
475	0	0	0	0	0			
476	0	155	1,980	0	2,135			
477	1,815	0	1,060	2,230	5,105			
478	0	0	0	0	0			
479	0	0	0	0	0			
480	0	0	0	0	0			
482	0	0	160	0	160			
483	0	0	0	0	0			
484	50	0	1,150	11,730	12,930			
485	0	0	0	0	0			
486	0	0	0	0	0			
488	0	0	0	0	0			
489	0	1,760	210	0	1,970			
490	0	2,290	120	0	2,410			
491	0	0	0	0	0			
492	0	0	0	0	0			
493	0	0	0	0	0			
494	0	0	0	0	0			
495	0	0	0	0	0			
496	0	0	0	0	0			
497	0	0	1,390	0	1,390			
小計	8,775	7,155	17,505	23,340	54,775		小計	11,315
							合計	185,045

表11 羽口出土量 (2)



青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

野木遺跡Ⅱ(第3分冊)

青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告

発行年月日 平成11年3月31日

発行 青森県教育委員会

〒030-0801

青森市新町2丁目3番1号

電話0177-22-1111(代表)

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042

青森市新城字天田内152-15

電話0177-88-5701 FAX. 0177-88-5702

印刷所 青森コロニー印刷

〒030-0943

青森市幸畑字松元62-3

電話0177-38-2021 FAX. 0177-38-6753





活彩あomor  
—輝くあomorの時代—